

一六一八

七月二十二日 水 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社
内山本松之助へ

拜啓私の小説は八月へかゝります。次の短篇作家は一々御相談のひまがなかつたので私の方でみんな極めました。断られるかも知れないと思つてゐたらまづみんな承諾の形になつたのもその原因の一つです。何うぞあしからず。

別紙に其人名と順序を御目にかけます 順序をよくしないと變化がなくて面白くあるまいと思ひますから専断でさう極めて置きました。いざといふ場合ひ多少の變化は免がれないでせう。豫告に是等の人の姓名をすつと並べるか又はだまつてゐて不意に、明日から誰と断つて行くか夫は考へものでせう。然し私が短篇をいくつも書く筈の處意外の長篇になつたのでこれ丈でやめるといふ事は其中に一寸断つて置いて頂きたいと思ひます

七月二十二日

夏目金之助

山本松之助様

一六一九

七月二十二日 水 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區元數寄屋町對鶴館大倉一郎へ
あなたの御手紙を拜見しました。肯定否定の議論も拜見しました。あの議論はあなたの心持を

書いたものとして見ればあれで結構です。然し人に見せるとなると表現が不充分のやうに思はれます。夫から俳句も拜見しました中々面白う御座います。あなたは新傾向ですね。然し窮屈の先の先まで行つた新傾向でないから何處かに餘裕があつてよろしいと思ひます。私は舊派です。十八世紀の俳句の形式がすきです

七月二十二日

夏目金之助

大倉一郎様

一六二〇

七月二十八日 火 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ
拜啓中央公論の脚本の批評を時事で拜見、大體の上賛成ですが、出來榮の等級がついてゐないからどれもこれも同程度に下らないやうに思はれて好い作者に氣の毒です。

白鳥のは及第(但し尻がまだあるべき筈のを切つてしまつた感あり)

雨雀。是も及第 恐らく自然で一番まとまつてゐるだらう

吉井勇。及第 是には一種の面白味がある。

秋聲。まあ及第。脚本よりも小説にすべきもの、

中村吉藏。落第 あゝ拵らえた痕迹が見え透いちや氣の毒だ

長田秀雄。落第。是は君の評通り、たゞ劇的效果ばかりねらつて內的の力なし

田村俊子。落第。あんなものは芝居にならぬのみか男子が屈辱を感じるやうなもの

木下奎太郎 落第 つまらぬ事夥し
島村抱月 落第 河童の屁
武者小路 及落の中間 いつもより悪いかも知れず
久保田萬太郎 正に落第 ごちや／＼ごちや／＼
上司小剣 落第 一體どかがどうしたといふのだ
小山内薫 落第 是が芝居になる積りか、積りならやつて見ろ。
以上

七月二十八日

夏目金之助

小宮豊隆様

一六二一

七月二十八日 火 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下青山原宿百七十番地ノ十四號森

次太郎へ

君の方に好い家はありますか

拜復暑中御變もなく結構です霽月は尋ねてくれましたあの結婚問題も聞きました私は血族でも構はんと思ふがどうですかね

私の小説を暑いのに一度に読んで下さるあなたは私にとつてありがたい御得意です、御批評も承はりました、何だか一場一抑一擒一縦といつた風の書き方で悪口だか讚辭だか分りませぬね

早く小説を書いてしまつて外の事がしたいと思ひます霽月から明月の二幅を分捕つたさうぢやありませんか今度御見せなさい、取りはしませんから 以上

七月二十八日

夏目金之助

森 圓月様

一六二二

七月二十八日 火 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助へ
拜復御心配をかけてまことに相済みません私は回数に間違をした覺がないのですが百二百四とつゞけて見るとつゞく様ですから全く私粗忽から生じた事と存じます、恐縮致します、百四を百三と御訂正の上御掲載願ひます、

猶其以後の分は一回づゝぐれる事になる原ますが私の方は間違なりに進行致させますからあなたの方で一つづゝ御直し下さる事を希望致します、私が正すと却つて混雜するかと思ひますから序に申上ます里見武者小路、野上久保田後藤悉く承諾致しました、原稿料をきめずに頼みましたが是は一列一體に同じにするか等級をつけるか何だか面倒になりさうです、比較的好い稿料を拂へば一列不別で差支ないでせうがさうでないと思ひます。それは追つて御相談致します何しろすぐ金に替へなくては困る人が多いやうですから其邊はあらかじめ御承知を願つて置きます、

先は御返事迄 勿々

七月二十八日
山本笑月様

夏目金之助

一六二三

七月三十日 木 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 愛媛縣温泉郡今出町村上半太郎へ

此間は暑い所を御出恐縮しました生憎客が来てゐてゆつく「り」御話も出来ず失禮しました其節御話のあつた明月和尚の無絃琴といふ額は昨二十九日着きましたすると其處へ偶然圓月君が同和尚の雙幅をもつて見えました無絃琴はうまいと思つてゐたがあの八字を見るととても及ばないといふ事に氣がつかしました不動如の三字などはことに見事です。時にあの額の價を伺ふのを忘れてゐました爲替で送りますから教へて下さいませんか。梧竹の圖南といふのははづしてあれを懸けかへて眺めてゐます、御令嬢の事は考へてもうまい考は出ませんあなたの方が材料をいくらでも持つてゐるのだから仕方がないやうにも思ひます、まあ他人の私から云へば無責任かも知れないが血族でも差支ないと思ふのです 以上

七月三十日

夏目金之助

村上霽月様

一六二四

七月三十一日 金 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷二百九十五番地鈴木

三重吉へ

御手紙拜見僕のはもう十回乃至十五回つゞきます。武者小路君は清書をしない丈で書き終つたと云つて來ました、それを一回に廻すやうに交渉しました、多分承諾と思ひます、小川君のは何うなつてゐるか知れませんが約束通來れば君より先にしてもよろしう御座いますあまり固くならないであつさりやつて下さい三十圓は全部出來上つた上で返してもらへば澤山です 以上

七月三十一日

夏目金之助

鈴木三重吉様

このあつさでは誰でもへコタレさうですがまあ受合つたのだから發奮して片付けて下さい

一六二五

七月(?) 牛込區早稻田南町七番地より 日本橋區本町三丁目博文館『文章世界』へ 「應問 八月十五日

發行『文章世界』より

折角の御尋ですから御答をしたいと思いますと思ひますが、どうも何處で區切をつけて好いか分らない質問ばかりなので困ります。さうした意味で困るのも、必竟は私の頭の中でスーパラチーブをつけて考へてゐるものが少ないせゐだと御承知を願ひます。

夏目金之助

一六二六

八月一日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神田區駿河臺鈴木町ケーベル内久保勉へ

拜啓暑いのに出發の御仕度や何やかで嘸御忙がしい事と存じます

此間ケーベル先生に呼ばれた時は是非新橋へ送つて行くやうな事を申しましたが後から考へて見ると先生の迷惑だといふのにとさら我を通すのも餘計な事だと氣がつかまりましたからやめに致します。どうぞあなたから先生へよろしく云つて下さい。夫から私のボン オアイアージを先生に傳へて下さい

あの時先生の御依頼になつた告別の言葉はたしかに引受けました。社の人と相談十二日に出す事にしてあります。私は其前に原稿を書いて社へ送る筈になつてゐます。是も先生にさう云つて下さい

先生は自分では淋しくないやうな事をいつてゐられるやうですが私共がはたから見ると何だか淋しさうな感じがしますどうぞよく世話を上げて下さい 以上

八月一日

夏目金之助

久保 勉 様

一六二七

八月一日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 松江市殿町百七十四番地大谷正信へ

拜啓あついで御座います私は早原から晩まで「サル股一つでゐます御郷里の方は多少涼しい事と存じます、御招きにあつかりありがたう存じます私も山陰は始めてですから行つて見たい氣が

しますが參られるかどうか分りません若し參られるやうでしたらどうぞ御案内を願ひます今日小説をやつと片付ました百十回程になりましたあついても寒い時も執筆は退儀です折角御自愛を祈ります 以上

八月一日

夏目金之助

大谷 繞 石 様

一六二八

八月三日 月 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重

吉へ

拜啓原稿料の事は社と協原儀の上畧まとめました、各家均一で一回四圓の積です、小川君の原稿はまだ參りません、いつ寄こす積なのですか、同君が寄こさなければ武者小路君のあとを君に願ひます、私のは百十回程で仕舞になります、二三日前書き上げました 以上

八月三日

夏目金之助

鈴木三重 吉 様

一六二九

八月四日 火 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三

重吉へ〔はがき〕

小川君原稿二十日迄に屹度間に合ひ候へば二番目に間に合ひ候、君は三番目に可相成候、同君の原稿は二十日に小生迄デカに御送願はれる様乍御面倒御依頼願上候 以上

八月四日

一六三〇

八月九日 日 午後零時―一時 牛込區早稻田南町七番地より 清國湖北省沙市日本領事館橋口貢へ

拜啓 東京も非常なあつさです雨が降らないのでたまりません其處へ獨乙と露西亞の戦争で猶あつくなりす此先どうなるか分りませんが何だか新聞は一號活字ばかりです借御惠贈の拓本は頗る珍らしく拜見しました あれは古いのではないでせうが面白い字で愉快です、私は今度の小説の箱表紙見返し扉一切合切自分の考案で自分で手を下してやりました其内の表紙にあれを應用致しました出来上つたら御目につけてあげます 私にはあなたから時々何かいたゞく丈で此方からは何も上げた事がない恐縮してゐます 先は御禮迄 以上

八月九日

夏目金之助

橋口 貢 様

一六三一

八月十日 月 午後十一時―十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助へ

拜復豫告は御都合でよろしく願ひます、武者小路君の稿料御手数でした、ケーベルさんの事原稿御約束の如く十一日組込に間に合ふやう差上ります六面は夫程でもないから載せていたゞけるでせう。ケーベルさんは多分立つでせうもし延ばすやうな事があつたら電話で申上ります 以上

八月十日

夏目金之助

山 本 様

一六三二

八月十二日 水 午後四時―五時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上八重へ

拜啓玉稿死たしかに届きました早速社の方へ送つて置きました武者小路君の今書いてゐるのが都合で死といふ名に改まりました、あなたのも死ですが私の豫定だと二つの間に大分外の人を入れる積だからいゝが萬一都合で二つの原稿がつゞいて出るか又は一つ二つ間を置いて出る場合には少々變ですが何とか題の變更しやうはありませんか、

原稿料は社の方から二三日うちに御届する筈です、一回四圓ですさう思つて下さい 御父さんの病氣はどうですかいつ國へ立ちますか、先は御禮旁御照會迄 勿々

八月十二日

夏目金之助

野上八重子様

一六三三

八月十三日 木 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下下澁谷百二十二番地小泉鐵へ
拜復明日御出の趣承知致しました御待ち申します、然し今日のやうな天氣なら別に無理をして
約束通りになさらないでよろしう御座います、何うせ家にゐるのですから、昨夜郵便函を開ける
のを忘れて今朝御手紙を見たので御返事が後れました今夜中に此手紙があなたの手に落ちれば幸
です 以上

十三日午前十時

夏目金之助

小泉 鐵 様

一六三四

八月十三日 木 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 愛媛縣温泉郡今出町村上半太郎へ
拜啓先日御送被下候明月和尚の額代十二圓小爲替にて差出候間御落手願上候昨十二日夜より暴
風雨にて久し振に地面もうるほひ冷氣加はり申候御地暑氣如何にや時節柄隨分御攝養可然と存候
先は當用迄 勿々

八月十三日

夏目金之助

村上霽 月 様

一六三五

八月十五日 土 牛込區早稻田南町七番地より 大阪市北區中之島朝日新聞社内鳥居赫雄へ
拜復ケーベル先生についての御高見承知致しましたが私の考ではもうそんな餘地はないやうに
思はれますから云ひ出すのは已めます、今年上田敏君が上京來訪の砌そんな話を持ち出して自分
で勧誘に出かけるやうな事を云ひましたから私は賛成しました然るにケーベルさんに聞いたら上
田は來ないといひました其席に深田君がゐてあれは問題にならないと云ひました(尤も上田君の
考は同志社と關係をつけさせる積りだつたのださうです)そんな譯ですから斷わられるのは略わ
かつてゐるやうですからまあ已めて置きます 以上

八月十五日

夏目金之助

鳥居 様

戦争と暑さで大變です御自愛を祈ります

一六三六

八月十六日 日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三
重吉へ〔はがき〕
拜啓十三日に約束の長田、田村兩氏の小説未着に候如何相成候やまだ差支には無之候へど約束
故一寸御尋ね申上候 以上

一六三七

八月十七日 月 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 淺草區田原町三丁目十番地久保田万太郎へ

拜啓雨以來少々涼しくなりました御變りも御座いませんか、さて先達て御願ひした小説はたしか八月十五日迄の御約束と覚えてゐますがまだ出来ませんでせうか無理を申上げて御急ぎ立てして濟みませんが私の方でも其日をあてにしてゐますので御通知がないと不安になりますから一寸御伺ひ致します 以上

八月十七日

夏目金之助

久保田萬太郎様

机下

一六三八

八月十八日 火 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より 下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊へ 拜復おあついで所を御面倒を願つて相濟みません、私が直接に御依頼をする筈でしたが御住所をよく存じませんのと鈴木の方が御懇意だといふ意味から間接に御願ひ致した譯であります、鈴木は八月五日乃至十日にあなたから原稿が届く約束だと申しました、夫から十三日迄延期を申し込まれたと申しました十六日に鈴木に會つて間接では却つて困るから直接に返事が聞きたいと申し

ました、二十日迄位よからうとは彼一存の考かと存じます、彼はその事に就いて一言も私には申しません。二十二日迄に御出来になるならそれ迄でよろしう御座いますからどうぞ間違なく御届下さいまし、甚だ勝手がま「し」う御座いますが私の方にも夫々手筈がありますから失禮とは存じますが蛇足とは知りながら念を押して置きます。鈴木は都合によつてあの中へは加へない事にしました 以上

八月十八日

夏目金之助

田村俊子様

一六三九

八月二十二日 土 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地津田龜次郎へ

愈圖案が出来上つたさうですね面白いだらうと思ひます見に行きたいのですが何だか氣分がわるいので出る氣になりません決して同情がないのでもありませんたゞ動くのがいやなのです何うぞあしからず思つて下さい 日本美術院の演説は断りました又いつか何處かで駄辯でも弄する時には聞きに来て下さい 右迄 草々

八月二十二日

夏目金之助

津田青楓様

一六四〇

八月二十三日 日 午後三時—四時 牛込區早稻田町七番地より 下谷區谷中天王寺町三十四番地田村 俊へ

啓玉稿十七の娘只今頂だい致しました御暑い所を御急ぎ立て申して済みません 稿料は二三日中に社から届けさせる事に取計ひます一回四圓の筈になつて居りますからどうぞ其御積で御不承下さいまし

夫から掲載の順序はどうぞ私に御任せを願ひたいと思ひます是は讀者のため作家のため私の方で好きやうに取計ひたいのですから。

先は右御禮かたく御挨拶迄 勿々

八月二十三日

田村 俊 子 様

夏目金之助

一六四一

八月二十四日 月 午後四時—五時 牛込區早稻田町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ

啓昨日は失禮其節一寸御話申上候見返しの裏へつける判は別紙のやうなものに取極め申候故不取敢入御覽候可然御取計被下候は幸甚 草々

八月二十四日

夏目金之助

岩波 茂雄 様

一六四二

八月二十五日 火 午前九時—十時 牛込區早稻田町七番地より 島根縣簸川郡出西村全昌寺鬼村元成へ
拜啓あなたの病氣は段々よくなるさうで結構です早くよくなつて神戸へ入らつしやい私は大して變りはありませんまあどうか斯うか生きてゐます、戦争が始まりましたたまにはあんな事も経験のため好からうと思ひます歐洲のものどもは長い間戦争を知らずにおますから。あなたはあつてゐる所にて寝てゐますかあなたの方からいへば寝るのも禪でせう、私は精神がぼうつとして其結果晝寐をします、私の頭には却つて夫がいゝのです、からだを御大事になさい 以上

八月二十五日

夏目金之助

鬼村 元 成 様

一六四三

八月二十五日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田町七番地より 長崎市長崎高等商業學校浦瀬七 太郎へ「うつし」

拜呈暑い事です 御變もありませんか 却説かねて御依頼の書本日小包で學校宛に出しましたから受取つて下さい あれ統は出来損つたから紙二枚で勘辨して下さい 夫から統の心棒になつてゐる新聞紙の中にある墨と筆はあなたが送つてくれたのですか 私は人から頼まれたのを一所

にまとめて書きましたので其墨と筆との贈主が分らなくなつたのですが多分あなただらうと思つて御禮申上ます萬一間違つたら一寸知らして下さい 以上

八月二十五日

夏目金之助

浦瀬七太郎様

一六四四

八月二十五日 火 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區飯田町六丁目長田幹彦へ

〔はがき〕

御病氣の趣嘸かし御難儀の事と存候御身体に御障りなき範圍内にて御執筆願上度御報の如く明後日迄に入手出來候へば幸に候へど切に御攝養祈り候 以上

二十五日夜

一六四五

八月二十六日 水 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷三百二十九番地鈴木

三重吉へ

拜復須永の話に分冊にするならば二冊にして一度に出して下さい。それから兩方で二百頁になるやうに何か好い加減なものをつめ込むのは少く困ります、分冊なら分冊でいゝからはずきり二冊にして頂きたいと思ひます、右は無理かも知れませんが私の方の都合もありますからどうぞあ

しからす 草々

八月二十六日

夏目金之助

鈴木三重吉様

一六四六

八月三十一日 月 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ

〔封筒表左側下に「奥附在中開封用心」とあり〕

拜啓奥づけ兩三枚書いて見たうち一番よささうなものを御目にかけて申候此中に著者發行所印刷所の名を朱字で細かく配置する譯に相成候が「猫」の奥づけを覽ると大體の見當相つき申候 猶委細は御面語の上萬々

八月三十一日

夏目金之助

岩波茂雄様

一六四七

八月(?) 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區矢來町三番地新潮社「新潮」へ〔應問 九月一日發行「新潮」より〕

潮より

最近新作家とはどこで區切をつけて好いかわりませんから一寸困りますが、小生の讀んだうちで人の評判に上らないもの二三を申上ます。

- (一)七月の「我等」巻頭にある萬造寺齊君の「断片」。
- (二)「白樺」にある長興善郎君の「盲目の川」といふつゞきもの。
- (三)八月の「新小説」にある濱村米藏君の「むくろ」。

以上の外にまだありますが最近新作家の部に入れていゝかどうか分りませんから省きます。夫れから以上三篇はいゝところ丈を見て例に挙げたので、缺點を云へと頼まれゝば随分云へもしませうから、それは御承知を願ひます。又私はすべての雑誌を讀まないから自然不公平になるかも知れませんが、其積りでゐて下さい。夫れから讀んだ時は面白いと思つても咄嗟の場合に急に思ひ出せないものもありますから、それも御断りを致して置きます。

概していふと近頃は小説をかく人がみんな器用になつて、一般の水平が高くなつたやうです。私は是丈云へば特殊の例を挙げないでも澤山だと思ひます。私にはかうした概括的の意見の方が却つて讀者の参考になるやうに考へられるのですが何うでせう。つぎに作家が各自行きたい道を勝手に歩いてゐる傾向も見えるやうですが、是も大變結構な事ではありませんか。

一六四八

九月四日 金 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地津田龜

次郎へ

拜啓 昨夜は失禮致しました 今朝あの旅順の日記を拜見しましたがあれはどうも新聞向でありませぬ雑誌がいゝでせう反響かほとゝぎすはどうですか

昨夜御話した通り社へ返事をしてくれといつてやつたのに〇〇といふ男は黙つてゐます不都合だと思ひます返事をしない處へあれを送るのは厭です其意味からしてももう社へは交渉しませぬ どうぞあしからず 草々

九月四日

夏目金之助

津田青楓様

一六四九

九月四日 金 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内

山本松之助へ

拜啓短篇の原稿をまとめる事を社の方でやつて頂きたいと思ひます今迄とくに來るべきで來ないのは長田と久保田です。長田は心臓ケイレンだとかいつて二三日待つてくれといつたのがもう餘程前になります夫からどうしたか知りませんが久保田は九月二三日迄には是非くる筈でまだ來ません。私はかう人に催促をするのが厭になりました

其外に谷崎は九月十日の約束です夫から里見は九月一杯にかく事を八分通り受合つてゐます是等もし來たら此方から差上ります

つぎに出すのを武者小路か高濱との御注文でしたが私はまだ雙方とも懸合ませぬ、武者小路君はすでに出したし長いものをかく種があるか分らないからです高濱は近頃小説には遠かつてゐますし其砌は旅行中でした。

あとのものに就ての心當りは少々ありますが是はあなたの方で御極めになりたい人があるなら私を省略して直接に御極め下さい

御多忙中閑文字をつらねて濟みません 草々

九月四日

山本松之助様

夏目金之助

一六五〇

九月五日 土 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より 芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ
拜啓此間あつた時小説を書きたいやうな話をされたし私もよからう位には答へて置いたやうにも思ふが其所が明瞭な約束でなかつたため其後君の事は丸で忘れてしまつたのです、忘れても差支はないが實は一昨日手紙で原稿の取まとめ方をちやんと社の方へ譲り渡してしまつたのです夫には少し事情もあるが面倒だから申しません、ともかくも僕が萬事取り計つてゐるうちなら其内の融通も利くが此方から人名と約束の期日を知らして凡て事務引繼の如き事をやつたあとではもう私の手を離れたと同様だから今新たに君を入れるのは私からは云ひにくくなつてゐます、尤も長田や久保田は書く約束を何度でも延ばすからもし其方を破約して君を入れるなら出来るかも知れないがそれは社の方の考で今では私の意見には參らない私が當事者なら長田は斷わるかも知れないが夫より凡ての面倒を社の方に任せる方が好からうと思つて斷わらずにさうしたのです長田が心臓瘵變とかいつて寄こしたのは大分前ですが其後病氣がわるいのかなまけてゐるのか見當は

つかないのです、^原もうも御氣の毒のやうですが以上の譯だから我慢して外へ廻して下さい夫でなければ薄井にでも頼んで山本に話して御もらひなさい 失敬

九月五日

金之助

豊隆様

一六五一

九月五日 土 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より 下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊へ
御手紙を拜見致しました小宮が何か申上たさうでそれがため御氣に障つたと見えますどうも恐れ入りました 小宮は馬鹿ですからどうぞ取り合はないように願ひます あれは大暑でも何でも毎日芝居ばかりへ行つて知つたものゝ顔を見ると要らざる話をして喜こんでゐると見えます 私は「あれがあの人癖だ」杯と申した覺はありません、私がああなたの手紙に對して加へた評について露骨な有體の事をこゝに繰返すのは私の責任でもあり又難事とも思ひませんが手紙でくどくどしい事を申すのも手間が取れますから今後もし機會があつて御目にかゝる事が出来た時 御質問が出来れば何でも御満足の行くやうに御話を致す考で居ります 右迄 草々

九月五日

夏目金之助

田村俊子様

一六五二

九月六日 日 午前九時—十時 牛込區早稻田町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ
拜啓青肉にて押す検印を書いて見たれどうまく行きませんまづ其うちの出來の好いと思ふのを
御覽に入れますもし是が間に合はなければ普通のを普通の印刷屋「に」彫らせたらどうかと思
ひます 以上

九月六日

夏目金之助

岩波茂雄様

一六五三

九月七日 月 午前九時—十時 牛込區早稻田町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ
拜啓昨夜御送の序文中必要の文句丈加へましたからよろしく願ひます夫から自次の方も同封で
御送ですが序を直す以上目次に手をつける必要もあるまいと思ひますからは其儘御返し致しま
す 當用迄 草々

九月七日

夏目金之助

岩波茂雄様

一六五四

九月七日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田町七番地より 下谷區谷中天王寺町三十四番地田村俊へ
拜啓大事な原稿がなくなつたさうで甚だ驚ろきました新聞社だの活版所などいふものは第一

に原稿を大事にしなければ濟まないのにどうした事でせう實に不都合だと思ひますもう一返御書
きになるならば無論もう一返原稿料を取るやうになさい。社のものはあやまりましたか。あやま
らなければ私の所へ云つてきて下さい。責任者か「ら」一應の挨拶を致させるやうにします 以上

九月七日夜

夏目金之助

田村俊子様

一六五五

九月十六日 水 午前十一時—十二時 牛込區早稻田町七番地より 本郷區駒込西片町十番地笹川種郎へ
病氣の御見舞状をうけ難有存じます 今日やつと起き上つて此手紙をかきます 床はまだ上げ
ず 然し今度のはいつもの病氣ではなくひどい胃カタルです
右御禮まで 草々

九月十六日

夏目金之助

臨風老兄

一六五六

十月十七日 土 午後零時—一時 牛込區早稻田町七番地より 下谷區上野櫻木町四十四番地眞如院中
勸助へ
君は知るまいが僕は其後煩つてまだひよろ／＼してゐる 原稿は受取りましたがとてもあの長

いものよむ勇氣はない 其外にも依頼されてよまねばならぬものもあるがまだ放擲してゐます
どうぞあしからず思つて下さい

十月十七日

夏目金之助

中 勘 助 様

一六五七

十月十七日 土 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 仙臺市清水小路五十番地小池堅治へ

〔はがき〕

啓レツシングの御高譯たしかに頂戴致しました病中にて其儘に致し甚だ不相濟候どうぞ御許し
下さい

一六五八

十月十七日 土 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下大井町濱川山口館秋山眞澄へ

私は病中あなたの御手紙を拜見致しましたが筆を執る事が不可能なのでつい御返事を上げませ
んでしたまだ少しひよろ／＼してゐますが折角の御手紙に對する私の責任として一言御答を致し
ます實を申し上げると御指名の御作はまだ拜見して居りません又早稲田文學も手元に御座いませ
んもし雜誌を御送りになれば氣分のいゝ時に拜見した上單簡な愚見を申し上げますらうと存じ
ます 右迄

十月十七日

夏目金之助

秋 山 眞 澄 様

一六五九

十月十七日 土 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 青森縣野邊地野坂十二郎へ〔はがき〕

私は病後で當分書畫など書けないだらうと思ひますからあしからず 以上

一六六〇

十月二十日 火 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區原町十二番地木村恒へ

私は病氣が略癒つて手紙が書けるやうになつたからあなたに御禮をいふ爲めに此手紙をかきま
す 果物と鉢をありがたう 原稿は見ましたが二つともあまり好くありません、小説の方よりは
脚本の方がまだ好いでせうあれは人によつたらほめるかも知れません 脚色が芝居的だから 然
し其脚色があるにも拘はらず一篇の主意が少し變です「海へ行く」といふ主意が不自然に讀まれ
るのです、疲勞で長い事が書けませんから是丈で御免蒙ります 以上

十月下 浣

夏目金之助

木 村 恒 様

一六六一

十月二十日 火 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區明石町六十一番地松根豊次郎へ

大阪のなだ萬のでんぶと髓の味噌頂戴ありがたう 病氣は略よろしい然しまだ床は上げず 是も必竟は勤のない時間に制限の要らぬ爲かも知れず ある夜のまどひといふ句集面白く拜見、あのうちにある素石といふ男は人に短冊を書いてくれといつて書いてやると一言も禮を云はぬ都合な奴なり 寐ながら句を作らうと思ふが一向出來ず

酒少し徳利の底に夜寒哉

酒少し参りて寐たる夜寒哉

眠らざる夜半の灯や秋の雨

電燈を二燭に易へる夜寒哉

一向句にならず

此間岩波が來て僕の句集を出したいといふから僕の句は散亂してまとまらないと云つたら夫は自分が方々へ行つて書きあつめると云つた 僕は恐縮して未だに許諾を與へずにある

十月下浣

夏目金之助

東洋城様

一六六二

十月二十日 火 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區市谷左内坂町橋口清へ

此間は拙著の装幀について御同情のある御批評を下さいましてありがたう存じます 御禮を申

上げる筈でしたが病氣で一ヶ月許寐てゐましたのでつい其儘にして置いて濟まん事を致しました 承はればあなたもまだよくないさうで御手紙では三四日中に温泉場へでも御出向のやうに書いて ありましたかもう御本復御歸りの事と存じますが如何ですか

畫の展覽會が澤山ありますはまだ外出も出來ないのでどれも見ません 貢君が漢大吉磚瓦硯を 送つて呉れました私は机の上に載せて飽かず眺めては楽しんでゐます 以上

十月下浣

夏目金之助

橋口清様

一六六三

十月二十日 火 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 名古屋市島田町田島道治へ

君の手紙を受取つた時私は病氣で寐てゐました病氣は長くつゞいて昨今漸く手紙などぼつ／＼ 書き始めました「心」を一部上げたいと思つてゐたがもう名古屋で御求めのやうだから止めませう 夫から前から御依頼の書も書かう／＼と考へて紙を買ひに出るのが暑くてたまらなく面倒だつ たものだから一日々々と延ばしてゐるうち病氣の爲に打ち倒されたやうな次第でまことに濟みま せん其内かきますからさう思つてゐて下さい 以上

十月下浣

夏目金之助

田嶋道治様

一六六四

十月二十一日 水 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 鹿兒島市第七高等學校皆川正禧へ
君が來てから又病氣をして寐てゐた 鮎は御國元から頂戴したが生憎の病氣で喰ふ譯にも行か
ず残念でした 琉球がすり慥かに届きました妻から御金は送つたらうと思ふもし未だなら送りま
す、「心」一部差上ますから御受取を願ひます 野間君へよろしく 以上

十月二十一日

夏目金之助

皆川正禧様

一六六五

十月二十三日 金 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 青森縣野邊地野坂十二郎へ
啓御贈の貝の干したものでありがたく存じます昨日到着致しました私は病後で堅いものが食べら
れさうにないけれどいつ迄置いても腐敗の恐もないだらうと思ふから身體がよくなつたら食べま
す

先は右御禮まで 草々

十月二十三日

夏目金之助

野坂十二樓様

一六六六

十月二十四日 土 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 高田市横町森成麟造へ
拜啓好い時候になりました此間は松茸を御贈り被下ありがたう御座いましたあの時は病氣で寐
てゐました病氣の例の通りのものです約一ヶ月以上かゝつて漸く起きました夫であれば食べられ
ませんが御手紙文は拜見しました御禮に上げるものもありませんから近著「心」を一部小
包で差上ますどうぞ御受取下さい 以上

十月二十四日

夏目金之助

森成麟造様

一六六七

十月二十四日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣腰越津村渡邊傳右衛門へ
〔はがき〕
茶届きました有難う御座います、實は先達ての御茶の御禮に書物を上げたのですのに又茶を頂
戴しては濟まん事です、儲かつたのは大慶です

一六六八

十月二十六日 月 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區白山御殿町百十番地内田榮

造へ〔はがき〕

彼岸過迄と四篇の縮刷を校正する時間と意思がありますか折返し御返事願ひます 草々

一六六九

十月二十七日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 下谷區上野櫻木町四十四番地眞如院中勸助へ

拜啓病氣はまあ癒りました御安心下さい 一昨日と昨日とで玉稿を見ました 面白う御座います、たゞ普通の小説としては事件がないから俗物は褒めないかも知れませんが 私は大變好きですことに病後だから又所謂小説といふ惡どいものに食傷してゐる所だから甚だ心持の好い感じがしました、自分と懸け離れてゐる癖に自分とびたりと合つたやうな親しい嬉しい感じですが、尤も悪い所もあります夫はまあ俗にいふ微疵であります。私はあゝした性質のものを好む人が少ない丈それ丈あゝいふものに同情と尊敬を拂ひたいのです

原稿は御あづかりして置きませうか又は一先づ御返しませうか どつちでもあなたの御都合の好いやうに取計ひます 草々不一

十月二十七日

夏目金之助

中 勸 介 様

一六七〇

十月二十八日 水 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ
拜啓久々御無沙汰を致しました此間手紙をいたゞいた時は病氣で寝てゐましたので御返事をする事も出来ずつい失禮しました 此頃漸く回復致しましたから今日は御挨拶かたゞ此手紙を書きます

あの書畫帖へ出鱈目なものを書きましたのは事實ですそれを青楓君に見せたのも事實ですが實は不愉快で不愉快でたまらなかつたのでむしろやくしや紛れに書いて仕舞つたのです夫をあとから見るととても人に差上られるやうなものではありませぬので其儘に「し」てゐるうちについ病氣で寝てしまつたのです私はあなた「が」是非欲しいと仰やるなら其内自分で書畫帖を買つて來て相應のものを書きたいと思ひますあれはどうぞ勘辨して下さい始から貰つたもので「も」ないのに勝手に書き散らして御詫もしない罪は御許下さい黙つてゐて濟まん事と存じまして一言言譯がましい事を申上ります、好い季節になりましたが私はまだ展覽會ものぞかずに居ります

十月二十九日

夏目金之助

西川 一草亭様

一六七一

十一月五日 木 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 大阪府下濱寺羽衣松南水落義一へ
啓あなたの御病氣は如何ですか私も病氣をして長い事寝てゐました今日は久し振に人から頼まれた書を大分書きました其うちにあなたのも一枚加へました畫といふ御注文でしたけれど畫はか

けませんから書を書きました書もまづいのですがまあ已を得ません御氣に召したら御笑納を願ひます、是でも書くのは中々臆劫原です今日は紙を切るやら墨をするやら色々の事で一日の三分二位つぶしました段々秋風がさびしくなります御身體を御大事になさい 以上

十一月四日

夏目金之助

水落露石様

一六七二

十一月五日 木 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 高田市横町森成麟造へ

森成さんいつか私に書を書いてくれといひましたね私は正直だからそれを今日書きましたあなた許りので「は」ありません方々のを一度にかためて書いたのです一日の三分一程費やしましたあなたのは御氣に入るかどうか知りませんが私の記念だと思つて取つて置いて下さい
良寛はしきり「に」欲いのですとても手には入りませんか 以上

十一月四日

夏目金之助

森成麟造様

一六七三

十一月五日 木 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京都府下宇治醍醐藪錦山へ
拜啓あなたは私に畫をかいいて自分の詩を賛にしるとしきりに御請求になるが有休の事を申上る

と東京のものは大分多忙でさういふ風流の交際ばかりしてゐる譯に行かないのです、あなたの手紙が来た時私は病氣で寝ておました催促が何度も来た時も病氣で寝ておました夫で御返事も上げられなかつたのです今日はかねてから頼まれた書を一原枚ほど書きましたあなたに畫や自畫賛は御注文通り差上られないが一枚の書なら拙いながら書けると思つて書きました旨いものではありません實をいふと手数がかゝらんからです仕方がないからそれを畫と賛の代りに送りますもし氣に入らなければ破つて御すてなさい一向構ひません、私が書を書いてしまつた所へ端書で柿を送つてくださるといふ通知がありました柿は夜つ「き」ました有難う御座います 以上

十一月四日夜

夏目金之助

藪 錦 山 様

一六七四

十一月六日 金 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當

時間田)耕三へ (はがき)

(一)詩經ニ窈窕たる淑女ハ君子ノ好逑キウとあり。逑は配偶ノコト求キウ即チ求メルといふ字に ㊦ ヲツ

けタモノ。ノベルは述ニテ尤ニ禿ナリ

(二)ナンコをツカムにて差支ナン

(三)ヨリ、の方ヨカラン

(四)ベラ／＼で差支ナン上ニ(㊦)ヲ加へてモ加ヘナクツテモヨシ

一六七五

十一月七日 土 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原

(當時岡田)耕三へ 「はがき」

- (一) 汐波か汐酌みか知ラナイ、君ノ好い方ニシテ下サイ
 - (二) 大神樂ナルベシ
 - (三) 調子ナルベシ
 - (四) 滅茶苦茶ナルベシ
- 以上

十一月七日

一六七六

十一月八日 日 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當

時岡田)耕三へ 「はがき」

今日の校正のうち赤いしるしの附してない所を二三ヶ所氣がついたから直して置きました 以上

十一月八日

一六七七

十一月八日 日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町十番地笹川種郎へ
 拜啓其後は御無沙汰を致しました たしか去年の事と思ひますがあなたは私に何か書いてくれ
 と云はれました其時私は傑作が出来たら上げませうと答へました 傑作は無論出来ませんが約束
 を履行しやうと思つてあれから一枚書いたのです然し拙いので上げる氣にもなれないので其儘に
 して置いたのです此間病氣をした時に御見舞を頂いた後私は永らく寐てゐました 起きてから十
 日目頃に今迄頼まれた書を諸方へ送らうと思つて一度に片付けました約束十五六枚あつたでせう
 其内去る人の自壽の詩に次韻したものを注文で書く義務があつたのですが外のはまあ好い加
 減に胡麻化したのですが其一枚が何う書き直してて書けない爲めとう／＼大變な時間を潰して仕
 舞に腰がいたくなりました、今御贈りする五絶は其時序と云つて失禮ですがまあ序に書いたの
 です無論豫約の通り傑作とは参りませんが何だか差上げないと氣が濟まんから御笑覽に供します
 私は多病でいつ死ぬか分らない人間ですがもし生きてゐればもつと旨くなつて貴兄に御満足の行
 くやうなものを書き直してあげて前債を償ひたいと思つてゐますがいつ死ぬか分りませんから拙
 くてもまあ是を差上げて置く事に致しますどうか御納め下さい 以上

十一月八日

夏目金之助

臨風學兄

座下

十一月九日 月 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込千駄木町五十番地岡田正之へ
啓上

此間は講演の事につき御出被下ありがたう御座います本月二十五日か來月二日かに御極め「の」よし承知致しました私はどちらでも構ひませんが早い方が便利で御座いますから十一月二十五日に出る事に致します然し時間について一寸申上りますが三時からだと四時か四時過になる事と存じます近頃は日が短かう御座いますから電燈をつけるには早しつけないでは暗「し」といふ時間になつて遣る方も聞く方も氣が落ち付かないかと思はれますが出来るなら二時からに致したいと思ひます

夫から學習院はたしか目白の女子大學の先と心得てゐますがさうで御座いますか
學校へ參つたらあなたの名を指して御面會を申入れてよろしう御座いますか

次に演題はまだ未定でありますからどうぞ其御積に願ひます

最後に入らぬ事ながら學校が學校だから蛇足とは存じますが一言つけ加へます揭示其他に私の姓名の上に文學博士と書く事は御會釋を願ひます私は博士でも何でもありません現に私方へ參る書信に文學博士と誤つて書いてくるのも殆んど絶無で御座いますから間違もなからうと思ひます
が官邊に縁の深い學校の事ですから此點はとくに御願を致して置く譯であります揭示の必要が
ありますなら演題未定夏目漱石もしくは金之助とのみ御書き下さいまし右御挨拶序用件のみ申述ま

した餘は拜眉の節萬々申上る積であります 以上

十一月九日

夏目金之助

岡田正之先生

座下

一六七九

十一月九日 月 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區原町十二番地木村恒へ

玉稿は拜見しました薬屋を始めたら薬屋の事を是から御書きなさいさうして家業に精を御出しなさい玉稿の價値はまあ一通りのものです原稿の拂底な雑誌なら或は載せるかも知れませんが
う少し奥へ進んだ所が一個所あつてそれが扇のカナメのやうになつてゐると一變好いと思ひます
あれは御返ししますか又は御預りして置きますか 御返事次第でどうとも致します 以上

十一月九日

夏目金之助

木村 恒 様

一六八〇

十一月九日 月 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區喜久井町三十六番地牛尾方吉永

秀へ
拜復此間は御出下さいつた處留守で失禮致しましたあなたは私の書物を愛讀して下さいさうで

すが感謝致します、然し人の作物はよんで面白くても會ふと存外いやなものですだから古人の書物が好きになるのです 私は御目にかゝるのは構へません原が御目にかゝる價值のない男ですから夫程御希望でないなら御止めなさい、夫から私に會つてどうなさる御つもりですかたゞ會ふのですか私は物質的には無論精神的にあなたに利益を與へる事は到底出來まいと思ひます
失禮ですがあなた大變奇麗で讀み易い字を御書きになります私は此通り亂暴です御推讀を願ひます 不悉

十一月九日

夏目金之助

吉永秀様

一六八一

十一月十日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林

原(當時岡田)耕三へ〔はがき〕

「瘦せてゝも」だらうと思ひます。御推讀の通りだらうと考へます 以上

十一月十日

一六八二

十一月十一日 水 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野

上豊一郎へ

拜啓 原稿は受取申候 然しあれは社會部の權利に屬するものにて小生はあまり容喙するを好まず 現に今出てゐる與謝野昌子女子の感想など小生から云へば無論没書にする底のものに候へども私の關係する筋でなき故其儘に致し居り候 私に依頼したら直接に頼んで見るといふ返事を得たといふ事をかいて社の山本松之助君宛で原稿と手紙を出し「て」御覽なさい ことによればのせるかも知れないから。原稿は必要ならすぐ返しますが木曜にでもくるなら其時迄取つて置きます 以上

十一月十一日

夏目金之助

野上豊一郎様

一六八三

十一月十二日 木 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區第一高等學校菅虎雄へ
拜啓昨日は突然飛んだ事を御依頼ことに遠路拙宅迄御光來を願ひ何とも申譯なき次第平に御海恕可被下候不在中電話にて好都合に運び候趣あとにて承知御好意萬謝致候同夜天台道士祝賀委員一同の名を以て左の通りの書面を領し此事件も是にて一段落と相成申候ひとへに御盡力の結果と感佩不淺候手紙の寫念の爲め左に差添申候

「拜啓昨日御送申上候天台道士還曆祝賀會趣意書中文學博士の四字を貴名の上に冠せしは誤植にて何とも申譯無之候一般の方面へは未だ一葉も發送不仕候故必ず四字抹消の上配達可仕又既に發送致したる二百枚(發起人の分)に對しては端書を以て早速取消可申候間何卒御海恕被成下

度此段願上候 敬具

十一月十一日

祝賀會委員一同

ついでには小生よりは祝賀會へも前田君へも何等の手紙も出さず候故大兄より電話なり何なりに
て宜敷御傳願上候

右御報旁御禮迄 草々頓首

十一月十二日

金之助

虎 雄 様

座下

一六八四

十一月十二日 木 午後五時―六時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込千駄木町五十番地岡田正
之へ

拜復時刻の儀は三時ならでは御差支のよし承知致候同日(二十五日)同刻にまかり出る考に御座
候博士といふ肩書つきの掲示其他については何分の御挨拶なきも無論御承諾の事と心得改めて念
を押す事なく参上の決心に候此問題につき昨今妙な行違より自他共に迷惑致し随分の手敷を相手
にかけ申候につきわざとらしくは候へども一言申添候次第不悪御了察願上候先は右迄 草々敬具
十一月十二日 夏目金之助

岡田正之様

一六八五

十一月十三日 金 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社へ 〔十二月十五日
發行『佐藤北江』より〕

拜啓、佐藤君哀悼誌中に何か書けといふ御手紙を最初拜見致した時出來得るならば書きたいと
思ひました、然し有體に自白すると私は佐藤君と交が浅いのです、御辭儀をする位の面識があつ
た丈なのです、夫でも何か特色のある事を記憶してゐればすぐそれを材料にして差上るのですけ
れども生憎そんな機會に出會はなかつたので遺憾ですが君の性質は誰でも知つてゐる、又口にし
る丈の事しか云はれないのです、夫で今日迄黙して居りました所へ再度の御手紙が参つたのです、
私は最初右の事情を述べて御詫を致さなかつた事を後悔致しますが、然し今でもまだ沈黙してゐ
るよりは幾分か禮儀に合ふだらうと思つて何故私が佐藤君の事を書かない、否書けないかの意味
を御詫までに書きます、どうぞ御諒察を願ひます 敬具

十一月十三日

一六八六

十一月十四日 土 午前(以下不明) 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原

(當時岡田)耕三へ

拜復 私が生より死を擇ぶといふのを二度もつゞけて聞かせる積ではなかつたけれどもつい時の拍子であんな事を云つたのです然しそれは嘘でも笑談でもない死んだら皆に柩の前で萬歳を唱へてもらひたいと本當に思つてゐる、私は意識が生のすべてであるかと考へるが同じ意識が私の全部とは思はない死んでも自分「は」ある、しかも本來の自分には死んで始めて還れるのだと考へてゐる 私は今の所自殺を好まない恐らく生きる丈生きてゐるだらうさうして其生きてゐるうちは普通の人間の如く私の持つて生れた弱點を發揮するだらうと思ふ、私は夫が生だと考へるからである 私は生の苦痛を厭ふと同時に無理に生から死に移る甚しき苦痛を一番厭ふ、だから自殺はやり度ない 夫から私の死を擇ぶのは悲觀ではない厭世觀なのである 悲觀と厭世の區別は君にも御分りの事と思ふ。私は此點に於て人を動かしたくない、即ち君の様なものを私の力で私と同じ意見にする事を好まない。然し君に相當の考と判断があつて夫が私と同じ歸趣を有つてゐるならばを得ないので、私はあなたの手紙を見て別に驚ろきもしないが嬉しくも思へなかつた寧ろ悲しかつた 君のやうな若い人がそんな事を考へてゐるかと思ふと氣の毒なのです。然し君は私と同じやうに死を人間の歸着する最も幸福な状態だと合點してゐるなら氣の毒でもなく悲しくもない却つて喜ばしいのです

江口と喧嘩をしたら仲直りしたら好いでせう、仲直りの出来ないやうな深い喧嘩なら仕方がない 江口はそんなに仲直りの出来ない程感じのわるい人とは思はない 以上

十一月十三日

金之助

耕三様

一六八七

十一月二十二日 日 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成

館林原(當時岡田)耕三へ (はがき)

縮刷についての御忠告拜承何分ともよろしく願上候小生は何等の考もなし(本を見ないから)

一六八八

十一月二十四日 火 午前六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町十番地佐佐木信

綱へ

拜啓大塚君の件につき其儘に致し置き無申譯候御申越の日限のうち二十九日の午後小生より
まかり出でべくと存候先は右御返事迄 勿々敬具

十一月二十三日

夏目金之助

佐々木信綱様

一六八九

十一月二十七日 金 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區明石町六十一番地松根豊次郎へ

拜復大阪よりの御土産拜受ありがたく存候「心」御約束の處其後署名を怠り居候ためそれから
それからとなくなり只今手本に一冊も無之候尤も書店から取寄てあげる事は譯なく候 もし急に

御入用ならば其旨御申越次第小包にて差出可申候もし然らずばいつでも御面會の節に取計ひ可申候 以上

十一月二十七日

夏目金之助

松根豊次郎様

一六九〇

十二月二日 水 午後零時—一時

牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ

時岡田)耕三へ

拜復 彼はカレ他はひとでもたでもよろしく候

たう然と酔ふとあるのは漢字にすれば無論陶然なるべく存候 頓首

十二月二日

夏目金之助

岡田耕三様

一六九一

十二月三日 木 午後三時—四時

牛込區早稻田南町七番地より

本郷區駒込西片町十番地佐佐木信綱へ

拜復鈴木君へ御問合せの段御手数奉謝候然るに鈴木氏は一二日前拙宅まで被參種々談合被致候私は其節私の責任を以て大塚君の返事を同君迄申入候是は先方にて内意を聞きたる上出来る丈圓滿の解決を告げたき旨の希望にもとづきたるものと御承被下度候小生は念の爲め貴下を大塚家の代理人と見働して可然やと質問致候處同氏は不然と答へ候故に小生は同氏に對して此間の返事を洩す必要も義務もなきは無論に候へども話したりとて事實上差支なきものと思ひ左様取計ひ申候同氏は然らばすぐ是より黒岩氏方に行き相談の上何かの方法もあらば講じて見るべしとて歸られ候黒岩氏は栃木縣奈須^原あたりに居らるゝ由故夫より直ちに行くとするも相談に多少の時間ばかりるべきかと存候小生は同君に佐々木氏迄何とか挨拶されたし小生はもし日曜迄にたよりなければ延期と思ひ砂土原町へは出向かずと申し先方も其覺悟にて拙宅を辭され候右の事情故日曜迄にはどちらにしても鈴木君から貴所へは何とか返事ある事と存候もし日曜迄にあなた様へ何とも回答なき折はこちらは直接大塚家と交渉時日取極めたくと存候以上はすぐ貴所ならびに保治君へも御報可仕筈の所如何なる譯にや怠りても差支なしといふ心持有之(其意味は小生も解意せねばよく判然せず)そのため貴書を拜讀する迄は其儘に打棄置候保治君へも御序あらば御傳へ願ひ上候又右鈴木氏へ小生一存を以つてあの時の相談の結果を御列席も願はずに御傳候事不都合に候はばひらに御容赦にあづかり度と存候先は右御返事迄 勿々頓首

十二月三日

夏目金之助

佐々木信綱様

御贈被下候雜誌二部ありがたく頂戴致候

一六九二

十二月六日 日 牛込區早稻田南町七番地より 福井利吉郎へ

拜啓此間御來臨の節御求めの拙書恐縮とは存候へども折角の御希望故御約束に従ひ試みに相果し小包にて差上候間御落掌願上候御預りの玉版箋は二枚とも墨をなすくつて見申候箋下に(一)と記したる分(二)よりもまだ増しかとも被存候へども是は御面語の砌申上候通義務なき試み故御採否は無論御自由と御承知被下度候萬一枚御役に立ち候場合には残る一枚は御裂きすての程希望致候雙方共落第の節は二枚とも反古籠へ御入れ被下度候右當用迄 勿々敬具

十二月六日

夏目金之助

福井利吉郎様

一六九三

十二月七日

午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ〔はがき〕

御問合せのるびの事はあの通りでよろしう御座います

雛子にはたしかに「さん」がつけてあります

東京語ではあゝいふ場合「ひとつかみ」とはいふけれども「ひとつまみ」とはいひません、「ひとつまみ」といふ事も時と場合ではあるけれどもその例は今思ひ出せません。尤も一つまみでも大した間違にはなりません。

一六九四

十二月八日

午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區市谷田町二丁目一番地馬場勝彌へ〔はがき〕

葉卷の煙御送被下ありがたく奉鳴謝候不取敢右御禮迄委細は拜眉の節に譲り可申候 以上

一六九五

十二月八日

火 牛込區早稻田南町七番地より 秋田市築地本町濱武元次へ〔はがき うつし〕

御手紙拜見 鮭も参り候當分は秋田にて御静養可然か御寒い事と存候書も畫も一寸出來ずつい失念致し候 恐縮

一六九六

十二月十日

木 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎へ

御無沙汰を致しまして申譯がありません鮭一尾例年の吉例にて御惠贈ありがたう存じます大分寒くなりましたあなたの病氣は如何ですか随分御注意をなさいまし私は死につゝさうして生きつつあります 以上

十二月十日

夏目金之助

渡邊和太郎様

一六九七

十二月十一日 金 午後(以下不明) 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原

(當時岡田)耕三へ

啓本日午後五時頃歸宅せる處別紙催促狀參り居候故御約束の通御送付申候校正料を懸合つて先へもらつて急場を凌いで如何

右迄 勿々

十二月十一日

夏目金之助

岡田 耕三様

一六九八

十二月十三日 日 午後零時―一時 牛込區早稻田南町七番地より 横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太

郎へ〔はがき〕

御手紙で恐れ入りました鮭は二尾ださうです私は迂濶なものだから包もとかすについ一尾と思ひ込んだのでせう、御手敷をかけて濟みません、御勘辨を願ひます

一六九九

十二月十四日 月 午後二時―三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原

(當時岡田)耕三へ〔はがき〕

「情なささうな」の方がよいやうに思はれます

十二月十四日

一七〇〇

十二月十四日 月 午後十時―十二時 牛込區早稻田南町七番地より 廣島市大手町渡邊良法へ

拜啓過般は金子君を通して拙筆御求めの處多忙にて其儘に致し置御返事も差上ず甚だ失禮申候御送の絹は二枚とも出来思はしからずさき捨申候紙二枚へ書き候分本日小包にて差出候間御入手被下度候それともまづき一方にてとても御老人の鑑賞などにはとても相成まじけれど拙をつくる意味を以て御勘辨相願度候

先は右迄 勿々

十二月十四日

夏目金之助

渡邊 良法様

一七〇一

十二月十五日 火 午前十時―十一時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林

原(當時岡田)耕三へ〔はがき〕

拜復

岡君の訂正の通りでよいかと思ひます何分とも宜敷やう願ひます 以上

一七〇二

十二月十五日 火 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊一郎へ

拜啓奥さん御歸りの由よろしく偕一寸必要ありて大分縣東國東郡白杵國廣知二(三十六)(駒場農科大學專科出身現時二六新聞社事務長)此人の素行性質其他知れるだけの事を知りたいのが御面倒でも一寸調べて教へて呉れませんか私も頼まれたのです結婚の問題の事です 以上

十二月十五日

夏目金之助

野上豊一郎様

一七〇三

十二月十七日 木 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林原(當時岡田)耕三へ 「はがき」

「十時迄に」の方がよからうと思ひます

十二月十七日

一七〇四

十二月十八日 金 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地

野上豊一郎へ 「はがき」

御手紙ありがたう早速當人に知らせます、もし其人(即ち父)が君に逢ひたいといつたらどうぞ會つてやつて下さい

十二月十八日

一七〇五

十二月十八日 金 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區辨天町百七十二番地山田繁へ

此間御出の節は色々頂戴物を致しまして済みません あの時の玉稿は拜見致しました 短かいけれども面白いものですイソツブ物語を複雑にしたやうな感じが致します此前拜見したもののうちにもあんなものがあつたやうに記憶して居りますがあゝいふ種類のものは一まとめにして保存して御置になつたらよろしくらうと存じます、

玉稿のうち解らない言葉が一箇所あります傍に黒い線を引いておきました 以上

十二月十八日

夏目金之助

山田繁子様

一七〇六

十二月二十一日 月 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區市谷田町二丁目一番地馬場勝彌へ

拜啓あなたの御母さんの御亡くなりになつた事を廣告で承知致しました謹んで御弔みを申し上げます今日御葬式のある事も存じて居りますが少し気分が勝れませんで参りかねますので甚だ失禮とは存じますが手紙で哀悼の微意を表するのでありますどうぞあしからず 敬具

十二月二十一日

夏目金之助

馬場勝彌様

一七〇七

十二月二十一日 月 午後一時—二時 牛込區早稲田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地津

田龜次郎へ

此間もらつた君の梅と竹の畫の表装が出来て来ましたから掛けてゐます中々立派です私のも出来て来ましたは是はどうもあなたが賞めて下さつた程感心しません今度の木曜にでも来てまづあなたのを見て下さい、私は酒さへ飲めればあなたの爲に祝盃を擧げたいと思つてゐます。齋藤與里君に頼まれて繪(静物)を一枚買はせられました 以上

十二月二十一日

夏目金之助

津田青楓様

一七〇八

十二月二十一日 月 午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林

原(當時岡田)耕三へ

- (一) ところを所にしませう
- (二) 梓はとりませう
- (三) 漱石は是でももう少し大きくてもよろしいでせう。或は漱石を此儘にして彼岸過迄に就てもう少し小さくしたら何うでせう
- (四) 「ゴシツク」と肩をならべるか、見出しの風呂の後の風と比べるか、どつちともよろしきやう願ひます

十二月二十一日

夏目金之助

岡田耕三様

一七〇九

十二月二十二日 火 午前十時—十一時 牛込區早稲田南町七番地より 廣島市大手町渡邊良法へ
拜啓拙筆に對し懇なる謝狀拜受却つて痛入候御惠投の干柿一箱正に到着直ちに風味名産の事とて味殊の外見事に候 右御禮迄 勿々頓首

十二月二十二日

夏目金之助

渡邊良法様

一七一〇

十二月二十二日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成

館林原(當時岡田)耕三へ 「はがき」

- (一)「二三間先に大きな寺がある」の間違かと思ひます
- (二)「口を開きません」です 以上

十二月二十二日

一七一

十二月二十三日 水 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込追分町五番地興成館林

原(當時岡田)耕三へ 「はがき」

- (一)シエクスピヤ (二)盤 (三)ばうはく (四)天ぶら屋

右の通りに候間よろしく願ひます

十二月二十三日

一七二

十二月二十四日 木 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 本所區番場町凸版印刷會社外來校

正室林原(當時岡田)耕三へ 「はがき」

- (一)蘭るでよからうと思ひます。私も實物を忘れてしまつた。(二)テナゲダンでも手擲シニでもよろし
- きやう願ひます(三)此將軍は戦争丈には熱心で……で差支ないと思ひます。(四)少し面白くなかつた

から……矢張り元の通りだと思ひます 一寸變だけれども。

徹宵の御勞力甚だ恐縮します

一七三

十二月二十七日 日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區喜久井町三十六番地牛尾方

吉永秀へ

あなたの御話を伺つた時私は非常に御氣の毒に思ひました然し私の力ではあなたをどうして上げる譯にも行かないと思ひまして只今御手紙が參つてあなたはまだ東京に居られる事を知りましたさうして又教師になつて生活されるといふ御決心を知りました私はそれを嬉しく思ひます どうぞ教師として永く生きて居て下さい 以上

十二月二十七日

夏目金之助

吉永秀子様

一七四

十二月二十七日 日 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區原町十二番地木村恒へ

拜復アイヒエンドルフの譯正に受取りました 序を書けといふ御注文だから何か書かうと思ひますが譯を讀むひまがありません 歳は行き詰まる私の氣分も行きつまる何をするのも厭であります たとひあなたの翻譯を讀み了せたとて今年中の出版には間に合ひますまい だから一層書

かない方があなたの方の便宜かも知れないと思ふのです 實をいふと私はよく内容も見ずに序文
丈を書くやうな手つとり早い事は不得手なのです夫から嫌なのです 以上

十二月二十七日

夏目金之助

木村 恒様

一七一五

十二月三十日 水 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 静岡縣駿東郡富士岡村神山勝又和三

郎へ〔印刷したる年賀状の端に〕

ミカンをありがたく頂戴しました御禮を申上ます序だから申上ますが私は文學博士ではありません
ん

大正四年

一七一六

一月一日 金 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ

〔印刷したる年賀状の端に〕

今年は僕が相變つて死ぬかも知れない

一七一七

一月六日 水 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 滿洲大連南滿鐵道株式會社内上田恭輔へ

〔印刷したる年賀状の端に〕

あなたからは去年も年賀状をいたゞいたのですが此方はあまり遅くなつて極りが悪いから上げ
ませんでした、此年は思つてゐた所又同様の失敗をくり返して恐縮に堪へませんどうぞ失禮を御
許し下さい

一七一八

一月二十日 水 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ

拜復あなたの送つて下さつた瓦煎餅は今朝届きましたあの小包は坊さ「ん」が胸にぶらさげてゐるものに似てゐました。煎餅は壊れてゐます。私も子供も食べました、あゝしたものは僧堂のなかでは楽しん「で」皆さんが食べるだらうと察せられますがあなたはそれを私に送つて下さつたのだから餘慶にありがたい氣がします。其代り幸ひ手元に彼岸過迄の縮刷がありますから小包で差上ります。あなたの手紙にある知客寮とか殿司寮とか除策とかいふ言葉は私には大變面白いのですあなたの胃はまだ癒りませんか御大事になさい東京は昨今却つてあつたかです、私の風邪は漸くよくなりましたした御安神下さい、胃の方は宿痾だから癒らんけれども今はまあ無事に済んでゐます 以上

一月二十日

鬼村 元成 様

夏目金之助

一七一九

一月二十二日 金 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 淺草區小島町三十四番地後町方今井

みとしへ

拜復御手紙を拜見致しました私に御會ひになりたいと仰やるのは何か事情のある事なのですか又はたゞ會つて見たいのですか、紹介状をもらふ人はありませんか、あなたは何處の人で何處の學校へ行つて何をしてゐるのですか。私に會つても會ふとつまらないですよ。だからもう一遍考

へて夫でも會ふ氣なら私の今の質問に對する返事を下されば其上で會ふべき筋なら日を極めて御目に懸りますから 以上

一月二十二日

今井 みとし 様

夏目金之助

一七二〇

一月二十五日 月 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 淺草區小島町三十四番地後町方今井

みとしへ

私が諏訪へ行つて講演をした時あなたが聞きに来て居た事は丸で知りませんでした、私もあの時分から見ると大分年を取りました

私の面會日は木曜です、然し近頃は原稿を書いてゐるので午前は駄目です午後から夜へかけてなら御目にかゝれます、但し夜は何時でも若い男の人達が落ち合ひますから夫に御宅も御遠方ですからまあ午後の方が宜しいでせう。然し今度の木曜の午後には一人の男の人が来るかも知れません、今日來たから木曜の午後に來いと斷つたのですから、もしそれで御差支がなかつたなら入らつしやい。私は構ひませんから 以上

一月二十六日

今井 みとし 様

夏目金之助

一七二二

一月二十五日 月 (時間不明) 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區第一高等學校寄宿舎中寮八番藤森秀夫へ

拜復私はあなたからなつかしいとか親しいとか云はれる資格のない男であります。あなたがあなたの方でさう思つて下されば私にとつては甚だありがたいのです。もしあなたが私と懇意になつて私の悪い所ばかりに眼が着くやうになつたら貴方は屹度其言葉を翻がへすでせう然しあなたの第一印象に映じた私を私自身で打ち崩す必要も権利もないのですから何うぞさう思つてゐて下さい。手紙のなかにある新體詩に就いて私はあなたが偽を述べてゐるとは申さないのですがよく洗練された感情と技巧と一致すればもつと好いもの「が」出来るに極つてゐるのです、私は其日のあなたに來るのを待つのです、其時はあなたもあんなものを「と」云はれるだらうと信じてゐます
あなたの虚無があなたの全體を支配「して」行住坐臥離れなかつたならあなたは私の前へ出てあんな態度に譯^原がないかと思ひます、あなたは私をあまり眼中に置き過ぎて堅くなつてゐました、もつと自由にくつろがなくては決して相手を親しいとか懐かしいとか云ひ得ない程あなたは束縛されてゐました。尤もそれは詩の批評の方が氣にかゝつてゐたのかも知れませんが、今日は是丈にとめて置きます

一月二十六日^原
夏目金之助

藤森秀夫様

一七二二

一月二十九日 金 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 兵庫縣加古郡神野村石村善正寺富澤敬道へ

あなたは鬼村さんの友達ださうですが鬼村さんは時々手紙をよこしてくれます、夫から此間は神戸の祥福寺から瓦煎餅を送つてくれました、よくみんなで食べないで送つてくれたものと思ひます

あなたも胃や肝臓がわるいさうですがたゞ黄胆^原ならすぐ癒るでせうが肝臓を冒すと慢性^原になつて療治が困難でせう、あれは大變氣分が鬱陶敷なるものゝやうに聞いてゐますが何うですか 迷亭流にやつてゐられますか

今は忙がしいから是丈しか書きません 以上

夏目金之助

一月二十九日
富澤分 外様

墓場には一抱ある椿かな
手折くる無住の寺の椿かな

などは面白いですよ

一七二三

一月二十九日 金 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市京都帝國大學寄宿舎山田卓爾へ
拜復御手紙を拜見しました、あれ丈長い手紙をかくのは容易な事でありませんが、ことに私の爲
に書いて下さつたのですから讀まない筈はないのです、私は此間大阪から來た人の手紙を半日か
かつて讀みました位です。私の作物があなたに興味を興へるのみならず精神的に何物をか付け加
へたのが果して事實とすれば私はありがたい事に思ひます、私はあなたに感謝して頂くよりも私
の方で感謝すべきだと思ひます。私は賞められるのが嫌とは云はないのです理由もないのに贊辭
を呈せられるのが苦痛なのです、それから利害心から來た御世辭に對してどう返答して好いか分
らないのです

私は色々なものを書きました、私が書き始めてから十餘年になります、今から回顧して見ると
藝術的な意味で全然書き直したいものが澤山あります絶版にしたいと思ふものもあります、けれ
ども其耻は藝術上の耻で徳義上の耻でないからまあ我慢してゐるのですあなたから色々云はれる
と甚だ勿體ない氣がします。あの御手紙に對して其儘にして置くのは非禮と存じまして一口御挨拶
を致します是から外の人へも三四本手紙を書かなければなりませんから是でやめます 以上

一月二十九日

山田卓爾様

夏目金之助

一七二四

一月二十九日 金 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 名古屋市島田町田島道治へ

御手紙を拜見しました名古屋へは生れてまだ行つた事がありませんから機會があつたら行きた
いと思つてゐます其節はよろしく願ひます然し今の所では何時出る氣になるやら一向不得要領で
す

昨日今井みとしといふ女が來ました新渡戸さんの世話になつた事のある女ださうですあなたを
知つてるかと聞いたら知つてると答へました新渡戸さんから強情だといはれたと云つてゐました、
私は正直な好い人のやうに思ひました 以上

一月二十九日

夏目金之助

田嶋道治様

一七二五

二月三日 水 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 北海道夕張郡登川村宇夕張炭山谷口盛へ
〔はがき〕

あなたの考は甚だ面白いのです、失禮ながら思想を鍊つた事のない人には珍らしいと思ひます、
然し問題が非常に大きいのだからもつと研究なさる必要があるでせう。私にも一寸簡單には御答
が出来ません。忙がしいので猶更です。参考書は東京へ來て圖書館へでも入らなければありませ
ん。

一七二六

二月三日 水 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 淺草區小島町三十二番地後町方今井み
としへ〔はがき〕

先日は失禮致しました、其節申しました通り木曜なら何時でも御目にかゝれます。(今は午前中
はいけません)私は別にあなたを感化する能力はありません。然し御話しは誰とでも時間さへ
あれば致す考です

一七二六

二月五日 金 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上
豊一郎へ〔はがき〕

私のものがそんなに好きで私にあひたいなら木曜に来るやうに云つて下さい、もう少し経てば
朝でもよろしいが今は原稿をかくから午後。夜は色々な人がくるから向が困るだらう。君の御父
さんの病氣は如何

一七二八

二月九日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 赤坂區青山南町五丁目八十一番地齋藤茂
吉へ〔はがき〕

拜啓長塚節氏死去の御報知にあづかりありがとうございました、實は昨日久保猪之吉君から電報で
知らせて来てくれた處です、惜しい事を致しました。私は生前別に同君の爲に何も致しませんの

を世話をしたやうに思つてゐられるのでせうか。何うも氣の毒でなりません

一七二九

二月九日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町十番地畔柳都太郎へ
〔はがき〕

あの牛屋はなくなりましたかちつとも知りませんでした、「其頃あつた」と訂正して置きまし
た、

ちと硝子窓のそとへ出やうと思ひますが面倒だからまだ引込んでゐます

一七三〇

二月九日 火 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 福岡市東公園久保猪之吉氣付小布施順次
郎へ

拜啓長塚節君御病氣の處遂に御不起のよし昨八日久保君より電報有之今日は齋藤茂吉君から通知
も参り何とも御愁傷の事と遙察致候九州にての變故御取かたづけ等萬事御面倒なるべく御察申上
候御令父さまへもよろしく哀悼の意を御傳へ被下度候不取敢右御弔詞迄 勿々敬具

二月九日

夏目金之助

小布施順次郎様

わざわざ電報で知らせてくれた久保さんによろしく云つて下さい

二月十三日 土 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ

拜啓此間花の御禮をいつた後で芍薬と牡丹を間違へたといつて人から笑はれました御免下さい然しいくらそんな事を間違ても花を賞翫する事はしてゐるのでから。それから後に紙が着ました實はまだ竹の封筒の中から取り出して見ませんが多分玉版箋位のやうに思ひますが何ですかあれは下さつたのですか何か書けと仰やるのですか。津田君が立つ時には會ひませんでした私の畫風などは實に面目ない次第です滅茶々々を畫風とする位なものです竹田も何もあつたものではないのです夫より青楓君の描いてくれた梅竹の圖が大變結構に出来ました今度上京なすつたら御目にかけます あなたの今度の手紙の字は大變旨いですね、私は招待會なんて大袈裟なもの嫌です、然し大袈裟でない人が寄るなら面白いとも思ひますがまあ少しの間「硝子戸の中」を出る譯には行きませんが、私はひまが出来て気が向いたら書畫帖を賣つて来て此間の賠償として心經か何かを書いて御贈したいと思つてゐます然し多分又出来損ふだらうと考へます先は右迄 勿々

二月十三日

夏目金之助

西川一草亭様

二月十四日 日 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 福島市三郡共立病院南第四號室門間春

雄へ

拜復御手紙を拜見致しました處痔で御入院との事私はちつとも知りませんでした早く養生をして御出院なさいませ退屈なので私の手紙が見たいと云はれるから早く書かうと思つたのですが生憎用が立て込んで其閑がありませんでした先達は長塚君の事に就いて御注意ありがたう御座いましたあの御禮もまだ出さずにて済みません、あのあなたの手紙の着く前に福岡の小布施順次郎氏から長い手紙で其旨を通じて来てくれました、あなたの今度の手紙には長塚の事があります、が氣の毒な事に八日に亡くなつたのです、是は新聞であなたも御承知の事と存じます、私は若い人が死ぬのを甚だ悲しく考へては自分の生きてゐるのが濟まないと思ふ事もあるのです。貴方の令弟が喜久井町にゐやうとは丸で知りませんでした、あんな事を書くとき々の關係から遠方にある思ひ懸けない人に興味を興へる事もあるものです、もう病氣も大分よくなつたでせう一日も御退院の速かならん事を祈ります 以上

二月十三日

夏目金之助

門間春雄様

二月十五日 月 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町十番地畔柳都太

郎へ

拜啓御手紙拜見「硝子戸の中」を昨日切り上げたあとで御手紙が参りました、それである問題

はまあ書かずに置ませう。私は死なないといふのではありません、誰でも死ぬといふのです、さうしてスピリチュアリストやマーテルリンクのいふやうに個性とか個人とかで死んだあと迄つづくとも何とも考へてゐないので。唯私は死んで始めて絶対の境地に入ると申したいのです。さうして其絶対は相對の世界に比べると尊い氣がするのです(此尊いといふ意味を此間議論しにきた人があつて弱りましたが)

報酬問題に就ての御異存も相當な根據のある御考と思ひますが、私の見方はかうです。醫者がいくら親切をつくしても患者が夫程ありがた「が」らないのは藥禮をとるからで、もし施療的に同様の親切を盡してやつたなら藥價診察料を收めた時以上に患者の方で親切を餘計恩にきるのが必然のサイコロジイだと思ふのです。だから實をいふと品物も受けるのは嫌です。品物なら先方の好意が私に徹するやうなもの、即ち私の趣味其他を理解した品物が欲しいのですが夫が解るものではありませんからつまり何にも持つて來ない方がよくなるのです。それでなければ煎餅一袋位が却つてよろしい(其理由は面倒だから略します)

もう一言書き添へると私は世間でやる交換問題といふ奴はあまり好まないのです、つまりプラスチックで○になつてあとには人情も好意も感激も何も残らないからです。全く營業的に近いからです。(然しやらなければならん時もありませうが)

右あらゝ御返事迄 勿々

二月十五日

芥舟様

夏目金之助

一七三四

二月十七日

水 午前十時—十一時

牛込區早稻田南町七番地より

赤坂區青山南町五丁目八十一番地齋藤茂吉へ

藤茂吉へ

拜復長塚君の死去廣告中友人として小生の名前が若し御入用ならばどうぞ御使用下さい小布施君がわざゝ御出には及びませんから、其位の事で長塚君に好意が表せるものなら私は嬉しく思ひます

節氏の死去の報が新聞に出た翌朝沼波武夫君が來て(わざゝ)向後長塚君の事に關し何かやる(遺稿を出版するとか其他)なら自分も加盟したいからどうぞ通知してくれと頼んで行きました私は自分の方では發起せぬがあなたの方で萬一そんな企てがあつて通知を受けたら御知らせしやうと約束して置きました、是は今手紙を書く序だから申上ますがもしそんな計畫があるやうでしたらどうぞ私同様沼波君へも通知して下さい同君は生前から長塚君に會ひたがつてゐたのですさうして「土」の愛讀者なのです、同君の住所は本郷西片町十番地です 右迄 勿々

二月十七日

夏目金之助

齋藤茂吉様

一七三五

二月二十日

土

午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より

本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ

拜啓 小生のとるアセニームといふ雑誌に「空閒時間の理論」といふ書物の批評があるから御目にかけます、君は専門家だから既に此書物を御承知かも知れず又つまらない書物かも知れないがとにかく此間の話で君が時間空間の研究中だといふ事が解つた故御参考までに御覽に入れるのです 以上

二月二十日

寅 彦 様

金之助

一七三六

二月二十七日 土 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町十番地佐佐木信綱へ 拜復御手紙を拜見致しました御配慮は御尤ものやうに考へます然し大塚君は斷わる時にそんな氣の毒な思ひをせずに済む人らしいのですが如何なものでせう、尤も形式上から云へばいつ斷つても一向差支ないやうにはなつてゐるのです、つまり大塚君は此點に關して思慮分別が缺乏してゐるのではないのだから當人の隨意でも構はないかと考へます、尤も家庭教師としてゐるうちにそれ以上の精神上又は肉体上の關係が起ると想像すれば又問題が違つて參りますがそれは多分ないかと思ひます、細君の候補者は佐々木さんに頼んだら好からうと申しましたが無ければ已を得ません私の方でも是といふ人は持ち合せないので、實際の狭い私の胸の中にそんな人が出てきたら固より大塚君に申入る積で居ります、あなたもどうぞ御心掛下さい 以上

二月二十七日

夏目金之助

佐々木 様

一七三七

二月(?) 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區矢來町三番地新潮社『新潮』へ 「應問 三月一日發行『新潮』より」

私は日當りの好い南向の書齋を希望します。明窓淨机といふ陳腐な言葉は私の理想に近いものであります。

一七三八

三月二日 火 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町太田正雄へ 「はがき

表書の名宛住所に「本郷西片町ナカラ橋の下通」とあり」

唐草表紙一部御惠贈ありがたく御禮を申上ます例の如く装幀甚だ美事に拜見致しました 草々

三月二日

一七三九

三月二日 火 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ 「封筒なし」 拜啓野間眞綱君が今度洋行する事になりました夫で君が外國へ行く時使つたあの疋大鞆を貸してやる事に約束したのですがあれは今空いてゐるでせうかもし都合がつくなら貸すやうに用意し

て置いて下さいいづれ僕の方から人を取りに上げる積ですから、次に若し野間君に融通するとなると君の時のやうにすつくを被せなければならぬと思ふが君はそれをどこでこしらへたか一寸教へてくれ給へ、夫から姓名の書具合なども参考になるから出来るなら上づゝみの儘渡してくれませんか 以上

三月二日

金之助

寅彦様

風邪はもう御全快の事と存じますが如何ですか赤ん坊はもう生れたのでせうね萬歳

一七四〇

三月五日 金

午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 鹿兒島市上龍尾町九十三番地野間眞綱へ

先日御上京の節は失敬 體格検査も無事に通過愈洋行と事がきまりたる由結構です夫に就いて例の鞆の事だがあれば兩三日前寺田君から送付済になつて今僕の所にある、もし都合がつけば君が出てくる前にズツクの蔽を掛けて置いてあげる積です、然し君が出て来て好いやうに自分が注文しても充分間に合ふ事とも思ひます、再度御面會の期を待ちつゝ 勿々

三月四日

金之助

眞綱様

一七四一

三月五日 金 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鵜沼海岸武者小路實篤へ(はがき)
御無沙汰に打過ぎました「彼が三十の時」立派な本に出来て結構ですありがたく頂戴しました其うち「硝子戸の中」といふ小品が出たら上げませう、小泉君が展覽會の切符をくれたが行かれませんでした、よろしく

一七四二

三月九日 火

午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京都府下深草村宇大龜谷桃陽園津田

龜次郎へ

御安着の由結構です僕も遊びに行きたくなつた小説は四月一日頃から書き出せばどうか間に合ふらしいのです夫で其前なら少しはひまも出来ると思ひますまだ是非行くとまでは決心もしていませんが大分心は動いてゐるのです、然し行くとすれば矢張り京都のどこかへ宿をとつてさうして君の宅へ遊びにでも出掛る譯になるのでせうか、そんな點についてもし君の心に餘裕があるなら注意してくれませんか、僕は京都に少々知人があるが大學の人などに挨拶に廻るのも面倒だから人に知られないで呑気に遊びたいのです其邊は御含みを願ひたいのです、まだはつきりもしないのに既に取極めたやうな事をいつて自分でも變です。

晝を見てもらふ人がゐなくなつたので少々困つてゐます 以上

三月九日

夏目金之助

津田青楓様

奥さんへよろしく

一七四三

三月十八日 木 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三

重吉へ〔はがき〕

京都の津田の所へ明日行く積、日限せまり君と相談する譯に參らず失禮致します、

十八日

一七四四

三月二十四日 水 午後九時—十時 京都市三條木屋町北大嘉より 京都府下深草村宇大龜谷桃陽園津田

龜次郎へ〔はがき〕

奈良へ行くなら此手紙着次第すぐ此所へきたまはぬか、一所に京都から立たう。旅費は失禮ながら僕が擔任の事。もし行かれぬなら一寸御返事を下さい、すぐ 右迄

一七四五

三月二十八日 日 午後九時—十時 京都市三條木屋町北大嘉より 牛込區早稻田南町七番地夏目鏡へ

〔はがき〕

病氣もほぼよろしく候色々な人に世話になり候、ことに津田君と津田君の兄さんと御多佳さん

の世話になり候津田君は寐てゐるうち始終ついてゐてくれました、姉は氣の毒をしました、歸れないでわるかつた

一七四六

四月十五日 木 午後五時—六時 京都市三條木屋町北大嘉より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内

鎌田敬四郎へ〔うつし〕

拜啓御手紙をありがたう小説はとうから取掛るべきであります。が横着の爲めつい／＼延びまして其結果編輯上御心配をかけまことに申譯がありません。可成早く書いて御催促を受けないで済むやうにします。テニエルの切抜もありがたう讀んで見ました。九十四迄生きた人はあんまりないやうですね。一平さんの漫畫はまだ出版になりませんか。一平さんの畫は百穂君の挿畫などより評判がいゝやうです。一平さんの赤ん坊が死んだ事は始めて承知しました。今度會つたらどうぞ忘れずに弔詞を述べて置いて下さい。私は一平さんに妻君があらうとも思ひませんでした。實際わかい顔をしてゐるではありませんか。右迄 拜

四月十五日

夏目金之助

鎌田敬四郎様

新聞も近頃のやうに事件が多くては喉御骨が折れるでせう

一七四七

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内
山本松之助へ

拜啓留守宅へも御出被下京都でも御尋ね被下毎々の御心配甚だ恐縮實は御目にかゝり候節申上候通り歸宅後萬事御詫を致す心算にてなまけて居候次第あしからず御海恕願上候豫期の通り八時五十六分の汽車にて東上十七日無事歸宅仕候手紙やら何やら山の如く机上に堆積今日漸く其始末に取りかゝり申候

先は右御禮旁御挨拶迄 勿々

四月十八日

山本松之助様

夏目金之助

一七四八

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區平河町六丁目五番地松山忠二郎へ
拜啓 京都にて大阪よりの御見舞狀拜見致し候處御返事も不致失禮致し候病氣は左したる事もなかりしが愚妻の西下を好機會に所々見物爲致候ため滞在長びき昨十七日漸く歸宅致しました色々御配慮を煩はしたる事を感謝致します
御禮旁一寸御挨拶を申上ます 以上

四月十八日

松山忠二郎様

夏目金之助

一七四九

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 府下青山原宿百七十番地ノ十四號森次
太郎へ

留守中御尋ね被下かつ京都へ御見舞狀被遣御芳志奉謝候妻が西下致したるを幸ひ所々見物被致爲に意外の日子を費やし昨十七日漸く歸宅致候 方々へ禮狀やら返事やら出すので大變多忙是で御免蒙ります、病氣は左したる事にてもなく候故御放念被下度候 以上

四月十八日

夏目金之助

森次太郎様

一七五〇

四月十九日 月 (時間不明) 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ
拜啓今度は久し振で京都へ参り御多用の處を色々御厄介に相成まことにありがたう存じますことに病氣にかゝり意外の御配慮を煩はし恐縮の至に堪えません又歸りには夜中にも拘はらずわざわざ停車場迄御見送り下さいまして恐れ入ります汽車中別に故障もなく十七日に歸宅致しました其日は終日茫然と致して暮しましたが今日から又少々活動に取りかゝりました手紙や雑誌が山のやうに机の上に載せてあるには辟易致しました
かねて御送りの書畫帖にかいた字を今日書齋整理の節一寸見ましたら其時程いやな感じも致し

ません所も御座いますから何事も御笑草と存じ思ひ切つて御送り致す事に致しますいやと覺召す所は切り抜いて下さいまし全部御氣に入らなければ御破り下さい其後御送の紙へはまだ何も認める餘暇が御座いません其内氣が向きましたら何か書きます
夫から京都へ歸る前かいて置いた山水二枚を御鑑定を乞ふため御送り致しますからどうぞ御遠慮のない所を御批評下さいまし津田君にも頼んで置きましたからどうぞ兩君御鑑査の上もしものになつてゐたら其地で表装して下さいいけなければ駄目とあきらめます忙がしいから是でやめます以上

四月十八日

西川一草亭様

夏目金之助

一七五一

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市高臺寺枡屋町大虎野村きみへ
啓

京都では一方ならぬ御厄介になりました出立の際は夜中わざ／＼停車場まで来ていたゞいて濟みません久しく京の言葉をきいてゐたものですから東京へ歸つて東京の言葉をきくと妙な心持がする位です道中は無事につきましましたすぐ手紙を上げるのですが昨日は一日休息しました机の上は山のやうに手紙や何かゞのつてゐて手のつけやうがありません今日からぼつ／＼返事を書き始めます夫で長い手紙はかけません書畫帖は其うちいたづらをかいて送ります東京へ歸ると急に心持

がいそがしくなつて畫だの字をかいてゐられない氣分になります京都は穩かです東山が眼に浮びます同時に御君さんの三味線と金ちゃんの常盤津も思ひ出します左様なら御歌さんへよろしく

四月十八日

夏目金之助

野村御君さん

一七五二

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ

拜啓私は先月十九日から京都へ旅行しました其留守へあなたの手紙が來たのでつい返事も上げずに失禮しました昨日漸く歸つてあなたの書いてくれた禪堂の坊さんの生活を面白く讀みました私には珍らしいので大變愉快でした天目中峯和尚の遺誠はいゝものです私は大燈國師のも夢窓國師のもごちや／＼に覺えてゐます中峯和尚のも生死事大云々の文句は覺えてゐます、私は禪學者ではありませんが法語類(ことに假名法語類)は少し讀みました然し道に入る事は出来ませんでしたの凡夫で恐縮してゐます身體がよければ奈良の方へ行く積でした大阪から神戸へ行つてあなたの顔を見たくも知れませんが健康の具合で京都ざりにしました妻があとから來たので見物をさせるので長くなつて昨日歸りました机の上に山程手紙だの雜誌だのが積んであります私は大に辟易します今日ぼつ／＼返事を書き出しました是が十一本目の手紙です随分疲れます今日は是で御免下さい寫眞(は)近頃撮りません今度とつたら忘れないやうに屹度上げます 以上

四月十八日

夏目金之助

鬼村元成様

どうぞ修業をして眞面目に立派な坊さんになつて下さい私の書物などは成るべく讀まないやうになさい然し今度出来た「硝子戸の中」は記念のため其うち送ります

一七五三

四月十九日 月 (時間不明) 牛込區早稻田南町七番地より 京都市祇園末吉町梅垣きぬへ

啓

京都では色々御世話になりましたことに三味線を弾いたり歌を唄つて聞かせて下さつてまことに面白う御座いました打ち明け話も感心して聴きましたゴリ押しをなさいゴリ押しに限りませ私は無事に東京へ着きました方々へ一度に手紙を出すので大變です今朝から晩迄手紙のかきつけです書畫帖は其うち送ります都豆は大變小供がよろこんでたべてゐますあなた方は人のうちへくと屹度何かくれますね私は反對でついぞ人の宅へ土産を持つて行つた事はありません然し約束の短冊懸は送ります然し今は忙がしくていけません少し待つて下さい御歌さんによろしく 以上

四月十八日

夏目金之助

梅垣きぬ様

一七五四

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 大阪市東區高麗橋二丁目五十三番地加

賀正太郎へ

拜啓京都を立つ時は御見送りを受けましてありがたう存じます瀛車の中で寐て歸つて昨日は一日ぼんやりしてゐました若い人が来てくれても碌と口も利かないでゐました今日は調子が好いでよく活動してゐます机の上に手紙や雑誌が山のやうに積んであるのを見ると恐ろしくなります現に今かく手紙は正に十三通目のものでありますまだ數通書かなければなりません右の次第で別荘の名もまだ出来ません其うち思ひついたら申上ますあなたも精と勉強して早く落成するやうになさい

寶寺の隣に住んで櫻哉

蕪村の句につと立ちて雉追ふ犬や寶寺とかいふ句があつたやうに夢のやうに記憶原してゐますが御承知はありませんか忙がしいから是で御免蒙ります 以上

四月十八日

夏目金之助

加賀正太郎様

私はあなたの呑氣さうな心持に對して敬意を拂ふものであります(悪口ではありません)

一七五五

四月十九日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市祇園新橋磯田多佳へ

啓

滞京中は色々御世話になりましたことにあなたの宅で寐てゐたのは甚だ恐縮ですあゝいふ商賣

をしてゐる所で寐てゐられては嘸迷惑でしたらう私も愉快に歸りたかつたが是非に及ばなかつたのですどうか御母さんや何かによろしくいつて下さい歸る時には御見送りをありがたう無事に歸りました昨日はたゞ漫然としてゐましたが今日からは働らき出しました手紙や雑誌が山の如く机の上に積んであります一々返事を出したり用を片付けなくてはなりません此手紙は十四本目です(加賀さんのは十三本目) 一中節や河東節は大變面白う御座いました是も木屋町へ偶然宿をとつた御蔭かも知れません色々御世話になつた御禮をする積ですがまだそんな所へは手が届きませんあなたは浮世繪がすきらしいが浮世繪の寫真版になつた本はいやですか色彩は無論ありませんからどうかと思ひますが一寸伺ひます、ぬめの額は右の次第ですぐは書けません、東京の生活はあなたと違つて随分猛烈に色々な事が押し寄せて來ますから當分待つて下さい右迄御機嫌よう妻よりもよろしく申します 以上

四月十八日

夏目金之助

磯田多佳様

岡本さんに禮狀を出さうと思ひますが名前がよく解らないからあなたからよろしく願ひます

一七五六

四月十九日 月 午前零時―七時 牛込區早稻田南町七番地より 福島市三郡共立病院内門間春雄へ

啓私は先月から旅行をして昨十七日歸りました御手紙は拜見致しました畫はかきたいが拙いのと一つは東京の生活が如何にも猛烈なので落ちついて描いてゐられないのです久しく留守にした

ものだから手紙を書かなくつてはならないので朝から夫ばかりにかゝつてゐます今午後十時です長い事は何も云へません失禮ながら是で御免蒙ります 以上

四月十八日

夏目金之助

門間春雄様

御病氣を御大事になさいまし

一七五七

四月二十二日 木 午後七時―八時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺富澤敬道へ

御手紙をありがたう御病氣が癒つて神戸へ御歸り猛烈に已事御究明の由何よりの事と思ひます私はあなたよりいくつ年上か知りませんがあなたが立派な師家になられた時あなたの提唱を聴く迄生きてゐたいと願つてゐます其時もし死んでゐたらどうぞ私の墓の前で御經でも上げて下さい又間に合つたら葬式の時來て引導を渡して下さい私に宗旨はありませんが私に好意をもつてくれる偉い坊さんの讀經が一番ありがたいと考へます、鬼村さんは忙がしいのに禪堂の生活を長々と書いてくれました親切な事です然しあまりそんな事で時間をつぶさない方が修業の爲によくはないでせうか門外の私にはよく解りませんがもし左様だつたらやめた方がいゝでせう(私はありませんたいけれども) 鬼村さんはあなたの事をいつても富澤様と書いて來ます多分あなたの方が先輩なのでせう感心の事です。雉の句は好くありません。序だから伺ひますが祥福寺の和尚さんは何といふ人ですか。多分御爺さんだらうと思ひますがどうですか。それから祥福寺の開山は誰で臨濟

の何派に属するのですかそれとも本山なのですか。こんな質問は急いで知る必要もありませんただ序だから伺ふのです。私は禪坊さんとあまり交際がありません。然し禪坊さんが好きです。だからあなたや鬼村さんにこんな事をよく聴くのです。ペンで手紙をかく事は今の世では軽便で時を省いて好いでせう御師匠さんがいけないといふなら御師匠さん丈に墨で書いて御上げなさい。昔の禪坊さんには字の旨い人が澤山ありますが是からは時勢が時勢だからさうは行きますまい。字が拙くても道を體得すれば其方がどの位いゝか分りませぬ。今度もし關西へ行つたら祥福寺へ行つてあなたと鬼村さんに會ひたいと思ひます。最後に勇猛の御工夫を祈ります 以上

四月二十二日

夏目金之助

富澤敬道様

一七五八

四月二十三日

金

午後一時—二時

牛込區早稻田南町七番地より

京都府下深草村字大龜谷桃陽園津田

龜次郎へ

拜啓京都では一方ならぬ御厄介になりました歸つてからすぐ手紙を上げやうと思つたのですが或はも「う」山口へ出掛けられた事と思つてつい其儘にして置いたらあなたから手紙が来てまだ桃陽園に居らつしやる事を承知しました早く行つて金を儲けて入らつしやい東京は變りはありませんんどこも浮世は變てこなものです私は神戸の祥福寺の若い禪坊さんの二人と文書の往復をしてゐます二人と「も」心持の好い人です親切でさうして俗人のやうにいやな臭味がありません其うちの

一人が今に名僧になつて私の前で碧巖の提唱をすると云つて來ましたあなたも立派な繪をかいて私を感服させて下さい畫と云へば山水を二枚一草亭のもとに送りましたあなたと二人で鑑査してもらひたいのです奥さんによるしく 以上

四月二十三日

夏目金之助

津田青楓様

桃陽園主にもらひものゝ禮を云ハズニ來マシタドウゾ宜敷云ツテ下サイ

一七五九

四月二十四日

土

午前十一時—十二時

牛込區早稻田南町七番地より

府下巢鴨町上駒込三百二十九番

地野上豊一郎へ

旅行から歸つたら手紙のかきつけです君の奥さんも小供も病氣のやうだが大事になさい病人が一番心配なものだから。「硝子戸の中」は君の分が署名してうちに残してあります然し岩波からでも貰つたら二重になる譯だが今度きたら持つて行き給へ。ほめてくれてありがとう。小手川さんからは味噲がきましたまだ禮狀を出さずにいるから今日書きますあれは小手川武馬でせうねいそぐから此で失禮します 以上

四月二十五日

金之助

豊一郎様

一七六〇

四月二十七日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 大分縣白杵町小手川武馬へ

拜啓先日は味噲一樽遠方よりわざ／＼御送被下ありがたく存候早速御禮申上べきの處長く旅行致し居り歸りては雜用に取紛れ其上御所と御名前がしかと判然致さざりし爲めつゝ／＼遅引恐縮の至御寛恕可被下候先は右御禮迄匆々如此に候 以上

四月二十七日

夏目金之助

小手川武馬様

一七六一

四月二十七日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區市谷田町二丁目一番地馬場勝

彌内馬場勝彌後援會へ〔はがき〕

後援會文集御送たしかに受取りました御手数と御厚意に對し一言御挨拶を申上ます 以上

一七六二

四月(日附不明) 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區下六番町加賀正太郎へ〔封筒の

表側に「御歸阪ナラ御轉送を乞フ」とあり〕

啓御山莊の名前を御約束しながら遅くなりて濟みません考へんのではありませんが何にも頭に

浮んで來ないので然し度々の御催促で御氣の毒になりましたから昨日の午後から今日の午前へかけて一應古い句などをしらべて見ましたが矢張り面白いと思ふほどのものも見當りませんでした御約束ですから放つて置いたやうで申譯がないからそれを義務塞げに少々御目にかけます

(一)水明莊 杜詩に残夜水明樓とありますが是は今築地の旅館に水明館といふのがあるから駄目でせう。

(二)冷々莊 冷々修竹待王歸といふ是も杜詩にあります然しよくはないですね

(三)竹外莊 竹外風烟開秀色 是は文衡山の句です竹の中をくゞつて上にある山莊だから斯うつけて見たのです

(四)竹外三川莊 前の三川を加へただけであります。あすこから川が三つ見えるからです

(五)三川莊 前の竹外丈を省いたので

(六)虚白山莊 莊子に虚室白を生ずとあります、又虚白高人靜なりといふ句もあります

(七)曠然莊 王維の詩に曠然蕩心目とあります。

(八)如一山莊 是も王摩詰の句です雲水空如一とあるのです

(九)澄懷山莊 凝神書を著はし澄懷道を觀ずといふ句から取つたのです。

(十)従生山莊 功名多く窮中に向つて立て、禍患常に巧處より生ずの従巧處生を約したものです

(十一)回觀莊 靜中見得天機妙、閑裡回觀世路難といふ句から出ました。

(十二)澄明莊 澄明遠水生光重疊暮山聳翠

(十三)半眞莊 心事半眞半假世故半濃半淡

(函)空碧莊 草堂春綠竹溪空碧。

まあこんなものでもし氣に入つたらどれか御取り下さい氣に入らなければ遠慮は入りませんから落第になさいもつといふ名があるかも知れませんが頭が疲れる丈で厭になるから今回はこれで御免蒙ります 以上

四月二十九日

夏目金之助

加賀正太郎様

此間は菓子がありがたう奈良屋からの繪端書も届きました、

一七六三

四月三十日 金 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 青森縣野邊地野坂十二郎へ

啓私あなたに畫か字を送るといつて受合つた覺があります夫であなたから一二度催促された事も記憶してゐます今度の御手紙も拜見しました然し私は東京にゐるとする事がいくらでもあつて頭が始終忙がしいのですそれは一寸あなたに想像出來ないだらうと思ひます諸方から短冊だの絹だの送つて來たのをみんな一まとめにして縁側に積んであります或人が見てあれではたまりませんねと同感してくれた位です私はあなたの御希望通りかいて上げたいのですけれども義理合や何かでもうとくに書かねばならぬもの迄放つてある始末なのですからどうぞさう思つて許して下さい私には是丈の手紙をかく事すら可なりの荷なのです先は右迄 勿々

四月三十日

夏目金之助

野坂十二郎様

一七六四

五月三日 月 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市祇園新橋磯田多佳へ

御多佳さん「硝子戸の中」が届かないでおこつてゐたさうだが、本はちやんと小包で送つたのですよ。さつき本屋へ問合せたら本屋の帳面にも磯田たかといふ名前が載つてゐるといつて來たのです。私のはあの時三四十冊の本を取寄せて夫に一々署名してそれを本屋からみんなに送らせたのだから間違はありません。もしそれが届いてゐないとするなら天罰に違ない。御前は僕を北野の天神様へ連れて行くと云つて其日斷りなしに宇治へ遊びに行つてしまつたぢやないか。あゝいふ無責任な事をすると思ふのは來ないものと思つて御出で。本がこないと思つておこるより僕の方がおこつてゐると思ふのが順序ですよ。それはとにかく本はたしかに送つたのです。然し先年北海道の人に本をやつたら届かないといふので其人に郵便局をしらべさせたら隅の方にまぎれ込んでゐた例もあるからことによると郵便局に轉がつてゐるかも知れない。もう一冊送る位は何でもないけれども届かない譯がないのに届かないのだから郵便局にひそんでゐやしないかと思ふのですが、それを問ひ合せる勇氣がありますか。もし面倒なら端書をもう一遍およこし、さうしたらすぐ送ります。

君の字はよみにくくて困る。それに候文でいやに堅苦しくて變てこた。御君さんや金ちゃんのは言文一致だから大變心持よくよめます。御多佳さんも是からサウ、ド、ス、エで手紙を御書きなさい。

芋はうまいが今送つてもらひたくない。其外是と云つて至急入用なものもない。
うそをつかないやうになさい。天神様の時のやうなうそを吐くと今度京都へ行つた時もうつき
あはないよ 以上

五月二日夜

夏目金之助

磯田多佳様

一七六五

五月三日 月 午前九時—十時 牛込區早稲田南町七番地より 山口縣山口町後川原鈴木方津田龜次郎へ
山口で繪を書いて御出の由結構です私の畫の批評ありがたう。参考になりました然し敬服は致
しません。一草亭からはまだ何とも云つて來ません。一草亭の雀を書齋にかけて見たがどうして
もつり合はないから取り外しました。銀座に小川一眞の拵え「た」昔の名畫の原物大の複製が九十
點ばかり陳列されたのを見に行きました、好いのがありますよ。今の人の畫を買ふよりあれを買
つて参考にした方が餘程有利だと思ひます。楊舟といふ清人の虎はいゝですよ。夫から竹田雀^原に
竹なんかも氣韻の高いものです。芒生といふ人は知りません。私の句を月並だと云つてもちつ
とも腹は立ちません。私の句には月並もあります。また月並でないものもあります。芒生君の二句
は二つとも少しもよくありません。私はそろ／＼事業に取りかゝります。小宮の家でああなたの椿
の屏風を見ました。あれはいけません。あなたは百圓で賣る積ださうですが、あれを六十圓で買
ふ「者」があると小宮が云ひますから僕が許諾を與へるから構はず賣つてやれと云ひました。六十

圓で賣れ、ば結構ですよ。早く金にしてしまひなさい 以上

五月二日

夏目金之助

津田青楓様

一七六六

五月四日 火 牛込區早稲田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ

畫の批評を下すつてありがたう存じます、あの赤黒い方は仰の通りドス黒くて變てこな色
です暗いと云はれても仕方ありません、下部の方が面白いとの事満足の至です、上部はしまりが
足りないでせうか、それはもつと説明を畫に就いて承つて置くかと参考になるだらうと思はれるの
で「す」けれども遠方の事だから致し方がありません、もう一枚の畫はあたまでつかち尻つぼまり
の所爲で構圖上に變な落ち付かな「い」感が起るのではないでせうか。青楓君はあの花に點をうた
ないと不調和だと云ひます。私も花の色が落ち付かないのみならず樹が小過ぎて上部のデカイ山
に壓されると思ひます、二つとも表装の價値があるといふ御見込なら表装させて下さい、代は御
報次第爲替で送ります、歸宅後あなたの畫を掛けて兩三日眺めてゐましたがどうしてもあれは私
の書齋では周圍と釣り合ひません、矢張り御多佳さんの所のやうな座敷がよくうつると思ひます、
先は御禮旁御願迄 勿々

五月四日

夏目金之助

西川一草亭様

あの盆の御禮で恐縮致します、あれは何とか塗と云ひますねサヌキの方で出来たり久留米の方で出来たりします、あれはたしか久留米製だと記憶してゐます

一七六七

五月八日 土 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市高臺寺栴屋町大虎野村きみへ

啓

御たのみの畫帖をとつて歸つて早くかたづけやうと思つて一生懸命に精出して今日漸く書きましたから三冊とも一所に小包で送ります、私は畫かきでも書家でもないのだが折角の御頼みと夫から京都で色々御世話になつたから記念のために下手な書畫をなすりつけました丈です下手でも書は早くかけますが畫はさうは行きません大變時間がかかりました出来榮丈では努力の程度は分りませんいくらまづけても非常に手數のかゝつたものと思つて下さい、私はひとが千圓やるからと云つてもこんな面倒な事はやりやしません全く約束のための好意だと思つて下さい夫から此次京都へ行つてももう何にも書きませんよ さよなら

五月八日

夏目金之助

御君さん

金ちゃん

一七六八

五月八日 土 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ

今度の御手紙始めてあなたの本音が吹き出たやうな氣がします、あなたの批評はまあ痛快といふやうな所です内容はあれでよろしいが言葉が少々あらつぽすぎます、何だか興奮して書いたやうな所がありますが如何ですか

あゝなつて見ると表装する價値も何にもないやうですがもし其方が本當ならやめにして下さい。又あれ程罵つても表装の價値があると思ふなら構はないから表装して下さい、どつちにしても遠慮は要らないから思つた通りを正直にやつて下さい。加賀氏の別荘の名は約束で已を得ないから十四五つけたのです私はあの外にいゝ名を誰かにつけて貰つたらいゝと思ひます、夫からあの印を頼む事は是非見合せて置いて下さい、私は印なんか金持からねだつて拵えてもらつたやうになるのは不愉快ですから。此手紙に對して御返事は無論要りません。私も段々多忙になりつゝあります 以上

五月八日

夏目金之助

西川一草亭様

一七六九

五月十二日 水 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市東三本木南町横地敏へ

拜啓此間御父さんが東京へ御出の節あなたに何か書いて上げてくれとの御依頼でありますから短冊を二枚と西のうち位な大さの紙へ詩を一つ書いて御送り致しますからどうぞ御受取下さいま

し、もつと大きなものをと存じましたけれども私も色々心が忙がしいのでさういふ譚に参りませんからどうぞ是で御勘辨を願ひます私はあなたの顔を見た事があるかないか覚えて居りませんがずつと昔し松山の中學に居る時分御父さんの御世話になつたものであります

右迄 勿々

五月十二日

横地 敏子 様

一七七〇

夏目金之助

五月十二日 水 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 廣島市大手町一丁目井原市次郎へ

拜啓 先日は御手紙で白牡丹の贊御催促恐縮實は取り紛れ其儘に致し置きたるのみならず別に句も浮びさうにもなき故考へる苦痛を避くると同時に毎日々々に追はれて等閑に付したる次第どうぞ御ゆるし下さい 今日外のものもしたゝめた故あの畫を出して眺めたあと無理に一句を題し小包で送りますから受取つて下さい 以上

五月十二日

井原市次郎 様

一七七一

夏目金之助

五月十六日 日 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市祇園新橋磯田多佳へ

病氣はもういゝのですか御大事になさい

今日小包と手紙が届きました、小包の中には玉子素麵と清水焼のおもちやと女持の紙入がありました(夫は妻にすぐやりました) いゝ紙入ですあいつのやうな不粹なものには勿體ない位です。どうもありがたう。此間の茶碗と昆布もたしかに頂きました。兩方ともあつく御禮を申ます。

あなたをうそつきと云つた事についてはどうも取消す氣になりません。あなたがあやまつてくれたのは嬉しいが、そんな約束をした覺がないといふに至つてはどうも空とぼけてごま化してゐるやうで心持が好くありません。あなたは親切な人でした夫から話をして大變面白い人でした。私はそれをよく承知してゐるのです。然しあの事以來私はあなたもやつぱり黒人だといふ感じが胸のうちに出来ました。私はいやがらせにこんな事を書くのではありません。愚癡でもありません。たゞ一度つき合ひ出したあなた——美しい好い所を持つてゐるあなたに對して冷淡になりたくないからこんな事をいつ迄も云ふのです。途中で交際が途切れたりしたら残念だから云ふのです。私はあなたと一ヶ月の交際中にあなたの面白い所親切な所を澤山見ました。然し倫理上の人格といつたやうな點については雙方ともに別段の感化を受けずに別れてしまつたやうに思ふのです。そこでこんな疑問が自然胸のうちに湧いてくるのです。手短かにいふと、私があなたをそらとぼけてゐるといふのが事實でないかと私は悪人になるのです。夫からもし夫が事實であるとする、反對にあなたの方が悪人に變化するのです。そこが際どい所で、そこを互に打ち明けて悪人の方が非を悔いて善人の方に心を入れかへてあやまるのが人格の感化といふのです。然し今私はあなたが忘れたと云つてもさう思へないやつぱりごま化してゐるとしか考へられない

のだから、あなたは私をまだ感化する程の徳を私に及ぼしてゐないし、私も亦あなたを感化する丈の力を持つてゐないので。私は自分の親愛する人に對してこの重大な點に於て交渉のないの大變残念に思ひます。是は黒人たる大友の女將の御多佳さんに云ふのではありません普通の素人として^原御多佳さんに素人の友人なる私が云ふ事です。女將の料簡で野暮だとか不粹だとか云へば夫迄ですが、私は折角つき合ひ出したあなたに對してさうした黒人向の輕薄なつき合をしたくないから長々とこんな事を書きつらねるので。私はあなたの先生でもなし教育者でもないから冷淡にいゝ加減な挨拶をしてゐれば手数が省ける丈で自分の方は樂なのですが私はなぜだかあなたに對してさうしたくないのです。私にはあなたの性質の底の方に善良な好いものが潜んでゐるとしか考へられないのです。それは是丈の事を野暮らしく長々と申し上げるのですからわらく取らないで下さい、又眞面目に聞いて下さい。

東京もあたゝかになりました。繪の展覽會を見たり露西亞の音樂會をきゝに行つたりしてのらくらしてゐます。今日は早稲田へベースボールを見に行きました。彌次馬の應援の騒々しい事は大友の六疊に寐てゐるよりも百倍がた此方のはうが盛です。又宅へ歸つて湯に入つて塵埃を拂つた所です。こんな事をしてゐますが心の中は大變忙がしいのです。さうして是からが愈忙がしくなるのです。

白川の蛙の聲はいゝでせう。私は昨日の朝^原の眞中へ椅子を持ち出して日光を浴びながら本をよみました。私には此頃の溫度が丁度適當のやうです。

本は賣り切れてもう一冊もありませんから小賣屋から取寄せてそれを送る事にしませう。京都

の郵便局になければ此方できがしたつて判る筈がありません。書留小包でないから調べてくれるにしても出ては來ません。こんな事は滅多にない事です。此間芝川さんが來てくれました。もう此位にしてやめにします。以上

五月十六日夜

御多佳さん

一七七一

夏目金之助

五月十六日 日 午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より 大阪市東區安土町二丁目水落義一へ

啓其後は御無沙汰を致しました近頃は御加減は如何ですか氣候もあたゝかになりましたからもう御回復の事と存じます

今日は下萌集を御寄贈下さいましてまことに有難う存じますあんな心地のいゝ贅澤な本はあなただでなくては容易に出來ません中々手數の入つた事だらうと思ひます

近頃は句も作りませんのに時々短冊などをつきつけられて變な月並を讀むのは我ながら苦笑せざるを得ぬ仕義であります

下萌集の卷末を見たら和達陽太郎といふ名前が見えましたがあれは高等學校で同級にゐた男でありますよく出來た人です私は下の方にゐたからあまり口もき「か」ずにしりましたが顔は覺えてゐます四角な顔でせう先は不取敢御禮まで 匆々

五月十六日夜

夏目金之助

水落露石様

座右

一七七三

五月三十一日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區女子大學精華寮今井と
しへ

拜復あなたの御手紙を見て一寸返事を上げたいと思つてゐた處色々たゞしてそれぎりにな
つて済みません

女子大學の寄宿舎では日曜以外には外出が出来ないさうですが其善悪はとにかくとして随分困
るでせう私の家へきたいといふ御希望があるなら日曜に來ても差支ありません然し今は少々忙が
しいから午前は駄目です夫から午後でもことによると人のうちへ行かなければならない事や其他
の場所へ行く必要が出て來るかも知れませんそんな時には断ります然しひまがあれば御目にかゝ
ります手紙を澤山溜めて置くので返事を一度に書かなければなりませんから今日は是で失禮しま
す 以上

五月三十一日

今井みとし様

一七七四

夏目金之助

五月三十一日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市東三本木南町横地敏へ

拜復御手紙と御茶と同時に届きましたくだらないものを書いて上げたのに御禮などをいたゞい
ては却つて恐縮です此間の御手紙にあつた松山で私の下宿してゐた所にゐた頼江さんといふ人は
今福岡大學の久保猪之吉といふ博士の妻君になつてゐます東京へくると屹度寄つてくれます、御
禮に本を上げやうと思ひますが今賣り切れてありませんから製本が出来たら送りませう右迄 勿

五月三十一日

横地 敏子様

夏目金之助

一七七五

六月四日 金 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 府下北品川御殿山七百十八番地中村翁へ
拜啓

此次の小説を書きたいといふ御希望の書面拜見しました。

此間山本君にあつたら此次は有名な人の載せたいといひました。それから私は徳田秋聲君の
意向を聞きました所同君は大いに書きたいといふ意志を或人を通して洩らしました。又社の方で
は徳田君の原稿が遅延するのを恐れて、永井君などに頼んだらといふ考もあつたやうです。然
し私は荷風君は書くまいと思ふと答へて置きました。

右の譯でまだ判然と誰とは極つてゐませんがあなたの方は多分駄目だらうと思ひます。此前も

あなたのを撃退して御氣の毒です。然しあの時はさうあなたのばかり續けて出すのは不可な
いといふのが私の主意でした。實は原稿はどの位旨いものか知らなかつたのです。

たゞ今ある人から矢張りあなた同様の申し込があります。私はいつといふ返事は確答しません
が、兎に角作物を一應拜見した上の御相談ならすると云つてやりましたら其人は書いて見せると
申しました。是は三週間も前の話です

あなたの作に對して失禮ながら私は同様の事を申し上げなければならぬと思ひます。書いて御
覽なさい。さうして好ければ社の方へ推舉させよう。(若し前いつたある人とあなたとの作物の程
度が同等とすれば或は向ふを先へ廻さないとも限りませんが)。とにかく此次は多分六づかし
らうと思ひます

六月四日

夏目金之助

中村様

一七七六

六月六日 日 牛込區早稲田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ

拜啓其後御變りもありませんか私は不相變やつてゐます、偕唐突ですが御願が出来たから聞い
て下さい此手紙を持つて行く人は中村豊といつて年は二十五です小學を卒業して十五の時から今
日迄當人の希望で經師屋職をやつてゐるのですが、どうか一度京都へ行つて其所の仕事をし
たいからといふので私が京都へ行つた事をきいて頼んできたのです、私は別に知人もありません

ので一番そんな方面に接觸の多いあなたに紹介を書く事になりました

此人の家はもと軍人の家ださうですが今は私のそばで御母さんと姉さんが紙屋をしてゐるので
す私は其縁故によつて依頼を引きうけました、甚だ御手数でせうがどうぞあなたの知つてゐる經
師屋さんに紹介してやつて下さい、すぐ其家で使つて貰はないの構はないのださうです時機の
くる迄は待つ丈の(一ヶ月位用意はあるのださうです 用事丈で御免蒙ります 以上

六月六日

夏目金之助

西川源兵衛様

一七七七

六月七日 月 午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より c/o Mrs. Grant, 5811 Maryland Ave.,
Chicago 野間眞綱へ

君が立つ時は是非送る積でゐたのですがつい京都で病氣をして寐てゐたものだから失敬してし
まつたカバンは手入をして置いたが御役に立つて結構です、修復料は餞別のつもりで處置して行
かれたので却つて恐縮します、大島紬は笑談から出た眞のやうな結果になつて甚だ氣の毒です、
あれは妙にゴチャ／＼した緋です、細カイから嘸高いのだらうと思ふ。君のシカゴから來た手紙
は受取つた。戦争中だから容易に歐洲へ渡れないで嘸困るでせう、其代り亞米利加が見られるか
らつまり同じ事です。今小説を書いてゐます。毎日一回づゝ書いて百回以上かくのだから中々手
間がとれます。相撲が始まつてゐます。段々顔が變つて行くのが變に早いので驚ろきます。私な

どは文壇へ出て十年餘もまだ斯うしてゐるまあ仕合せだと思ひます。然し氣は若くても年はとります、白髪は段々殖えます。此間早稲田と一高のベースボールを見に行つて谷山さんに會ひました。何か書いてくれと云はれて恐縮しました。野村は佐賀鹿島へ轉任しました。橋口の兄は今月支那から歸ります。五葉は浮世繪を研究中ださうです。此間光琳の二百年の記念展覽會であひました。書く事があるやうでないやうで一向取りとめがありません、まあ此位にして置ませう

六月七日

金之助

眞 綱 様

一七七八

六月十五日 火 午後二時—三時 牛込區早稲田南町七番地より 神奈川縣鷓沼海岸武者小路實篤へ

文學評論をよんで下さつた由ありがたう。

道草もよんで下さるさうで感謝致します。

御手紙を拜見致しました。私はたしかにあの文章を見ました。然し少しも氣になりませんでした。それは自分のものでないからかも知れませんが、あゝいふ所へ出るものは好加減な出鱈目に近い事が多いといふのが大理由かと思ひます。然し間違はだれしも嬉しくはありません、ことにあなたのやうな正直な人から見れば厭でせう。それを神経質だと云つて笑ふのは、其うらにある正しい氣性を理會し得ないスレッツカラシの云ふ事です。私はあなたに同情します。けれども私はあの記事を取り消させる丈の権力は持ちません。あれを書いたもの及び編輯者は

たとひそれが誤謬と知つても、わざ／＼取り消すには餘りに小さ過ぎるといふ考で、ごた／＼した外の雑事に頭を使ふ事だらうと思ひます。此際私のあなたの爲に出来る事はあの手紙を社に送つてあなたの趣意を了解させた上、あとの處置はあちらの適宜にまかせるといふ事丈のやうに思はれます。私はあなたの爲にそれ丈の手續きを盡します。私は是からあなたの手紙を社會部長の山本松之助君迄送つて、よろしく頼むと云つてやります。

私もあなたと同じ性格があるので、こんな事によく氣を悩ませたり氣を腐らせたりしました。然しこんな事はいつ迄経つても續々出て来て際限がないので、近頃は出来る丈これらに超越する工夫をして居ります。私は随分人から悪口やら誹謗を受けました。然し私は黙然としてゐました。猫を書いた時多くの人は翻案か、又は方々から盗んだものを並べたのだと解釋しました。そんな注意を發表したものとさへあります。

武者小路さん。氣に入らない事、癪に障る事、憤慨すべき事は塵芥の如く澤山あります。それを清める事は人間の力で出来ません。それと戦ふよりもそれをゆるす事が人間として立派なものならば、出来る丈そちらの方の修養をお互にしたいと思ひますがどうでせう。

私は年に合せて氣の若い方ですが、近來漸くそつちの方角に足を向け出しました。時勢は私よりも先に立つてゐます。あなたがそちらへ眼をつけるやうになるのは今の私よりもずつと若い時分の事だらうと信じます。以上

六月十五日

夏目金之助

武者小路實篤様

一七七九

六月十七日 木 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 福島縣信夫郡瀬上町門間春雄へ
櫻ん坊がつかましたありがたう少し腐つたのもありました子が供がよろこんで食べました長塚
さんの追憶談のうちで上野の鳥屋であなたが香取秀眞氏にあつた事がかいてありましたね變な事
がありますね私はまだあゝいふ場合に出合つた事ありません 以上

六月十七日

夏目金之助

門間春雄様

一七八〇

六月十七日 木 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 高田市横町森成麟造へ
段々あつくなりますもう白地の單衣をきてゐます梅雨が二日ほど降つて急に霽れたものですか
ら丸で眞夏です日中は散歩もできません
此間は粽をありがたう然しあれは堅くてまづいです私一つたべて驚ろいてやめてしまひまし
たよ御禮状を出さう／＼と思つて忘れてゐました所が漸く書くと悪口で甚だ濟まぬ次第でありま
す

御變りもありませんか私は午前は毎日執筆して居ります 以上

六月十七日

夏目金之助

森成麟造様

一七八一

六月二十一日 月 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 横濱市日本郵船會社支店氣付富山丸
神谷久賢へ

拜復煙草をありがたう御座います結構なものをいたゞいて嬉しう御座いますぶか／＼のんでゐ
ます

あなたに御目にかゝつてからもう餘程になりますあなたはもう學校を出て立派な船員になられ
る私は段々ぢゞいになる少しの間世の中は變つて行きます

あなたの船は倫敦から紐育へ行くのですか私は郵船會社にそんな航路のある事は知りませんで
した、獨乙の潜航艇にやられないやうに御氣を御つけなさい米満さんは其後どうしました會つた
らよろしく道草を讀んで下さるさうでありがたく感謝してゐます 以上

六月二十日夜

夏目金之助

神谷久賢様

一七八二

六月二十二日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社
内山本松之助へ

啓今日(二十一日)の十九回目の道草の仕舞から二行目にある「裡うちに強い健三の頭」は「理りに強い健三の頭」です。意味が通じなくなるから一寸御注意を願ひます。

私の原稿が汚ないので校正を云々するのは氣の毒ですから、大概は其儘にして置きます。是も其儘で宜しいので正誤には及びません、たゞ校正者に一寸通じて置いて下さい 以上

六月二十二日

夏目金之助

山 本 様

一七八三

六月二十五日 金 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社

内山本松之助へ

拜啓私のおとの小説につき追つて御相談の御約束のまゝうちやらかして置きました濟みません。私はそれから秋聲君に原稿遅延の事を聞きたゞしましたる所、大阪のは速達を普通郵便で出したため一回後れた事實はあるさうですが其他は故障なく書いたのださうです。夫から先方では十二三回一度によこせといふのを讀賣と懸持であつたため三四回位づゝしかやれなかつた迄だといふ事です。(小池君の不平等は此事ぢやないでせうか)。次に此東朝へ「かび」を書いた時は一回も缺席はしなかつたさうです。

今度も東朝へ書くやうになれば、八月一杯位に二三十回は書きためて一度に送る事が出来るさうです。

次に題材の事ですが是はたしかに書きたい或物を有つてゐるとの事です。

同君は單に原稿料の爲ばかりでなく藝術的の意味で朝日に筆を執りたい希望があるのですが、もし社の方で異議があるなら引き退がつてもよいと申されます。

私は是丈慥めればよからうと思ひますが何うでせう。たゞ原稿遅延といふ丈の故障なら前の辨原解でも略不都合のない丈の見當はついてゐますから御贊同下さる譯には参りませんか。

他に御意見があるなら遠慮のない所を仰つて下さい

何れにしても御返事を待ちます 以上

六月二十五日

夏目金之助

山 本 様

一七八四

六月二十五日 金 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 大阪市東區道修町一丁目青木新護へ

御手紙を拜見しました。俳畫展覽會の事は何處かで見たりやうに記憶してゐます。然しそれへ出品の御勧誘を受けたのは——あゝ間違ひました。多分摺物か何かで餘程前御勧誘があつたのをぼんやり放つて置いたので、頭がごちゃ／＼になつてゐるのかも知れません。どうも恐縮の至です。そこで晝ですが、私は時々變てこなものを描きますが、どうも展覽會へ出した事などはないので弱ります。其上今は下らない事で朝のうちを潰してゐます、ひるからは散歩をした「り」休んだりしますので、そんな事をする氣がないのです。それから展覽會へ出さうといふ料簡ではひまが

あつても描けないのです。

もし強いてと仰やるなら京都の津田青楓君(深草大龜谷桃陽園)の所に小さなきれに籠の中に投げ込んだ水仙を描いたのがある筈です。是なら小さいから或は間に合うかも知れませんが、生憎俳畫でも何でもないので、とても俳趣味とは釣り合はないだらうと思ひます。然しもし津田君が出しても見ともなくないと云ひあなたの方で夫でも構はないと思ふなら、私はどうしても構ひませんから、津田君に交渉して見て下さい。

斷然御斷りをして御氣の毒の様ですからくどくどしい御返事のやうですが右委細を申上た次第であります。急ぐので萬年筆で失禮します 以上

六月二十五日

夏目金之助

青木月斗様

一七八五

六月二十八日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京都府下深草村宇大龜谷桃陽園津

田龜次郎へ

もう京都へ御かへりですか私は毎日小説を書いてゐます七月にはまた東京へ御出の由其方が好いでせうが細君の御腹は大丈夫ですかうちの妻は好くならずといひます山口では御金が儲かりましたか、新聞の切抜はだれが書いたものですかね見當が付きません、みんなゐます、君が歸つて來たら喜ぶでせう、内田君は鳥を四十羽以上飼つてゐます早く御歸りなさい 以上

六月二十八日

夏目金之助

津田青楓様

一七八六

七月二日 金 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鵜沼海岸武者小路實篤へ
拜啓此間はわざ／＼切符を送つて頂いてありがたう御座います。私「は」あなたの「わしも知らない」のうちにある好い處と好くない所とをかなり明かに(舞臺の上で)見たやうな氣がします。然し私は今五六本の手紙を書かなければなりませんから御参考の爲にそれを申上げるいとまのないのを遺憾に思ひます。何しろ私は大變好い所が背景と役者と相待つて出たやうに思ひます。御釋迦様や木蓮は好いですね、ことに木蓮はよろしい。木蓮の鼻を横から見ると大變嬉しい。あの役者は下廻りださうですが木蓮としては一番好いですね

竹の里人の評はたわいもないものですが何うしても不眞面目過ぎますもう少し「わしも知らない」を眞面目に評すべきです。尤も前の「悪魔の曲」といふのは要領を得ない妙な脚本ですね。

小宮に會つたらあなたのものを面白いと云つてほめてゐました。竹の里人のやうな評が出るのでどこかへ何か書かうかと云つてゐましたから書けとすゝめて置きました

右御禮の序にくだらない事を書き添へた迄です 以上

七月二日

夏目金之助

武者小路實篤様

一七八七

七月二日 金 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ

啓鬼村さん私はあなたの徴兵事件がどうなるかと思つて心配してゐました。然し丙種はちと残酷な落第のしやうですねそれ程胃がわるいのですか困りますね。五錢の診察料をとる醫者は頗る氣に入りました。富澤さんも胃がわるいのですか其癖須磨にうまい天麩羅があるからもし來たら一所に食ひに行かう杯と云ひます。何しろ二人とも養生なさい。新聞などを讀むひまがない位いそがしい方が人間は好いのでせう、新聞は碌な事が書いてありませんからね、私も昔し一時新聞を廢してゐた事があります、然し一向困つた事はありません。あなた方が貴重な時間を割いて長い手紙を書いてくれるのを私は大變な親切だと思つて嬉しがつてゐるのです、夫に私はあなた方に十分一の長さの返事も出せないのですからまことに申譯がありません其上私は今からだが疲れ眠くつて大した面白いものも書けないから猶氣の毒に思ひます、寫眞は此間家族のもののみならず撮りましたが私はとりませんでした。若しあなた方が東京へ來たら私の宅へとめて上げませうきかない宅ですけれどもあなたの方の食べたいものを御馳走して上げます。然し修業中は中々出られないでせうね。あなたは役が變つたさうでそれは多分榮進なのでせう結構です、修業を充分なさい、然し養生もなさい、富澤さんによろしく 以上

七月二日

鬼村元成様

夏目金之助

一七八八

七月八日 木 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上豊

一郎へ

拜啓金子たしかに受取ましたあんなにいそがなくても此方は都合がわるくはなかつたのです小説を御書の上よし出來たら拜見したいと思ひますがあんまり長いもので雑誌や何かに載せられないと新聞にでも出さなくつちやならないだらう。すぐに單行本に出来るならそれも好いが。何しろそんな事も考へて書く必要がありはせぬかと思ひます、八重子さんの病氣はどうですか御大事になさい 以上

七月八日

金之助

豊一郎様

一七八九

七月十二日 月 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 府下中野町三千三百十六番地神田十拳へ

拜復御手紙の内容篤と拜讀致しました私が御役に立つか何うか分りませんが御目にかゝつた上でもし私の意見がまとめられるものならまゝとめて御参考にして上げたいと思ひます明十三日の午後三時頃か明後十四日の同時刻に私の宅迄御出になる譯に行きませんか 以上

七月十二日

夏目金之助

神田十拳様

一七九〇

七月十四日 水 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 金澤市川岸町八番地大谷正信へ

拜啓其後は御無音いつも御健勝にて結構で御座います今日は又金澤名産の長生殿一折御惠贈にあつかりましてありがたう存じますあれは頗る上品な菓子で東京には御座いません、家族のものと風味致します小説も職業になると出来る丈早く書いてあとの時間を外の事に費やしたくなりませう、すれども道草をよんでゐて下さるのはありがたい氣がします今年は何處へも御出掛になりませんか、どうぞ御身体を御大事に與さまへよろしく 以上

七月十四日

夏目金之助

大谷 繞 石 様

一七九一

七月十七日 土 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 芝區高輪南町三十番地大河内大谷正

信へ〔はがき〕

此間は奥さんが御出京の由に聞いてゐました處貴方も御供で暑い所へ御出のよし是非御目にかかりたいと思ひます。然し此暑いのに日中高輪から牛込迄御出は大變です。どこかへ御供してもいゝが世間知らずの私にはいゝ思ひつきもありません。夕方から拙宅で御飯を上げたいが来て下さいませんか。多少は涼しいでせう。あなたの都合のいゝ日を知らして下さいませんか。奥さんも一所に入らつしやれませんか。御返事を待つて居ります。

一七九二

月日不詳 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區三十間堀一丁目一番地やまと新聞へ〔應問 七月二十二

日〕『やまと新聞』より〕

拜啓私は戦後に於ける日本人の覺悟などに就いて考へて見た事はありません。日本人から見れば戦後も戦前も同じ態度で同じ覺悟で進んで行けば夫で澤山ぢやないでせうか。

戦争の影響は無論色々の方面に現はれて來るでせう。ことに軍事に密接の關係のある飛行機、潜航艇、無線電信などには目覺ましい改革が起るかも知れません。然し夫が日本に何う響いてくるでせう。御承知の通りの貧乏と無人ではたとひ外國でどんな發明があつても何うする譯にも行かないぢやありませんか。一時代も二時代も後れて後を追懸けて行くより外に途のないものを捉まへて今更のやうに覺悟などといふ大袈裟な言葉を使ふからしてが私には既に變に思はれます。

それだけでなく日本人は新しいものを見るとすぐ食ひ付きたがります。是は新しいからと云ふよりも、新しい事を自分が知つてゐるのを世の中に廣告したい精神から大分出てゐるやうです。其證據には少し時期が立つとすぐ知らん顔をして、又別の廣告の種を拾つて歩いてゐます。

オイケン、ベルグソン、タゴール斯んな名はもう食傷する程聽かされました。ケーベルさんに會つた時、オイケンもベルグソンも好い著者だらうがさう朝から晩迄のべつに云ひつづけてゐる

やうでは困ると云つて笑つてゐました。永久のべつに云ひつづけるなら好いですが、自分の自慢にする間丈彼等の名前を口にしてあとは零落した故舊を見て見ぬ振をするやうに打ち遣つて仕舞ふのだから心掛からしてが好くありません。

此間或る友人が来て日本人は新しくさへあれば何でも飛びつきたがる國民だと云ひました。その通りです。然し彼等の飛び付きたがるのは輸入品に限るやうです。御手製ではどんなに好いものがあつても手を出さないから不思議です。私の友人の作つたある科學上の著書は無論全力を傾注した著述ではありませんが、科目が新しい文に西洋人の参考になる位新しい事實だの研究だのが随分其中に含まれてゐるのです。然し夫を出版した本屋は千部刷つて僅四百部しか賣る事が出来なかつたのです。

萬事が此通りですから、戦後の覺悟とか何とか口で云つた所でまあ駄目なんぢやないかと思ひます。たゞ有識の士が其時其場合に應じて出来る丈の事を平たく日本の爲にしてゐたら夫れが好いのでせう。戦前も戦後も區別はないのでせう。よしあつたつて手も足も出せなければ仕方がないぢやありませんか。若し覺悟といふ覺悟が必要なら、日本は危険だとさへ思つて、それを第一の覺悟にしてゐれば間違ひはありませんまい。

再度の御足勞に對して何か上げなければならんと存じまして是丈の事を書きました。以上

一七九三

七月二十二日 木 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市高臺寺柗屋町大虎野村きみへ

〔はがき〕

御無沙汰をしました、丈夫ですか、暑い事です、津田君が歸つて來ました、粽をありがたう、私はいつでも御節句にある奥さんから虎屋の粽をもらひます、腐ると不可いといふので早速たべました、津田さんはひげをそつて綺麗になつてゐました。あつきらせつではないやうです

一七九四

七月二十六日 月 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ〔は

がき〕

禪のしをりを送つて下さつてありがたう中の日課行事もありがたう。暑くて堪らないです。ね。そして眠くて仕方がありません、此暑いのに勞役をする坊さんはつらいでせう。御禮迄 勿々

七月二十六日

一七九五

七月二十六日 月 午後六時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 愛媛縣溫泉郡今出町村上平太郎へ

〔はがき〕

先日は御東上の由ちつとも知りませんでした。が澁柿といふ雑誌「に」一寸そんな事が出てゐたので承知しました、暑いです、ね、堪らないやうに暑くなりました

七月二十六日

一七九六

七月二十六日 月 午後六時―七時 牛込區早稻田南町七番地より 名古屋市島田町田島道治へ〔はがき〕
長良川の鮎をありがたう大變大きくて旨う御座います、玉川などのは駄目ですね。あれを食べ
てから鮎が急に好きになりました

七月二十六日

一七九七

八月二日 月 午後四時―五時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ
大變御無沙汰をしました御變りもありませんか、暑い事です、此間は津田君が歸つて來た時例
の懸物を持つて來てくれました、御面倒をかけた段恐れ入ります、あれから又手を入れたら
掛物の裏へ墨が透つてぼつ／＼が現はれました、もう一つのが出來てからと思つて代金の儀を御
問合せも致さずに置きましたがあれを待つて後にすると大分時間がかゝりさうですからあの方丈
でも先へ御拂ひ致したいと思ひますが代價は如何程ですか一寸御知らせ下さい
中村の息子は御宅へ出て大變御世話になつたさうでは是もとうに御禮を申上なければならぬの
をつい怠けてゐました、今ゐる所よりは二三ヶ月すると、好い經師屋へ行かれるとか申す事で當
人はそれを待つてゐるやうであります、此後とも何うぞよろしく願ひます、京都へ行つた時は少
し御宅へ御厄介になつてゐたさうでは是亦恐縮の至です、

あなたの送つた紙へ心經を書いて見ましたら三枚で済んでしまひましたしかも不謹慎な草書で
す、御覽に入れても好いと思ひますがあまり氣が進まないのので餘程前から机の上に載せたなりで
あります 以上

八月二日

夏目金之助

西川一草亭様

一七九八

八月七日 土 午後八時―九時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ
啓 心經を御笑覽に入れます御氣に入らなかつたら反故にして下さい
印は入用の時でなければ御頼み下さるなと願つて置きました夫から後でも書面で御斷りを致し
て置きました。私は私のために刻してくれた人の好意を感謝致しますが何うも貰ふ譯にも貰ふ譯
にも参りません甚だ困却致すばかりです何とかそちらで御片付下さいませんか 先は用事迄 勿
勿

八月七日

夏目金之助

西川一草亭様

一七九九

八月九日 月 午後五時―六時 牛込區早稻田南町七番地より 福井市寶永寺町九十五番地山田卓爾へ

あなたば歸省して御出と見えますね福井の方はそれでも此方よりは涼しいでせう東京は大分暑
いです十七になる女の子と十三になる女の子が富士へ登りましたが私は原稿をかくので凝として
坐つてゐますウニをありがたうあれは福井の名産ですね

あなたはいつ卒業しますか何科を専門原になさる御考ですか
右迄 勿々

八月九日

山田卓爾様

夏目金之助

一八〇〇

八月九日 月 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區森川町一番地徳田末雄へ

拜啓岡君を通じて私のつぎに朝日へ載せる小説の御執筆を御願致した處早速御引受下さいまし
て有難う存じます右につき先達て岡君が参られある娼妓の一代記といふやうなものを書きたいと
思ふが何うだろうとあなたからの御相談のやうに申されましたから、私一個としては異存はない
が社の方の都合もある事だから一應問合せ見やうと申したら岡君はぢやもう一遍徳田に訊い
て御返事をするといつたぎり音沙汰がありません、思ふに岡君は歸阪したのでせう。

私は昨日電話で社と相談して見ましたが社の方では御存じの通りの穩健主義ですから女郎の一
代記といふやうなものはあまり歓迎はしないやうです。然したとひ娼妓だつて藝者だつて人間で
すから人間として意味のある叙述をするならば却つて華族や上流を種にして下劣な事を書くより

立派だらうと考へますので其通りを社へ申しましたら社でも其意を諒としてもしあなたが社の方
針やら一般俗社会に對する信用の上に立つ營業機關であるといふ事を御承知の上筆を執つて下
されば差支なからうといふ事になりました。

私は右を御報知旁御注意を致すために此手紙を差上げるのです。私は他人の意志を束縛して藝
術上の作物を出してくれといふ馬鹿な事はしたくありませんから萬一餘程の程度に御趣向を御曲
げにならなければ前申した女の一代記が書きにくい様なら「かび」の續篇でも何でも外のものを
御書きにならん事を希望致すのです。若し又社の所謂露骨な描寫なしに娼妓の傳が何の窮屈なし
に書けるなら無論それで結構だらうと思ひます。

私はそんな腕のある女の生涯などを知りません、又書かうと思つても書けません、人間を知る
といふ上に於てさうした作物は私の参考になるんだから喜んで拜見したいのでありますけれども
右の事狀故其邊はどうぞ御含みの上御執筆下さるやうあらかじめ願つて置きます。

早く申上げる方が御都合がいゝだらうと考へまして失禮ではあります手紙で用を辨じます
御免下さい 頓首

八月九日

徳田秋聲様

夏目金之助

一八〇一

八月二十日 金 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 新潟縣東蒲原郡揚川村皆川正禧へ

今日は非常にあついです。昨日端書が來ました其前に百合の根が着いたので禮をいはうかと思つて油紙の差出人の名前の所だけ切り抜いて置いた處です、どうも有難う。あくを抜くにひまがかゝるとかいつてまだ食はない、黒百合は見た事がないから一つ地を掘つて種を埋めて見る積です

朝のうち毎日原稿を書いてゐます、もうぢき濟ます積です、歸りに是非東京へ寄つて行き給へな。僕の處へ泊つてもいい、子供もつれて來たまへ

君の所と野間の處から同時に手紙が着いた

先は右迄

八月二十日

夏目金之助

皆川正禧様

一八〇二

八月二十四日 火 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社

内山本松之助へ

用事ではありませんが

一寸申し上げます。「男女貞操問題」を筆記する人の文章は明瞭で簡略で要を盡してゐて、それで調つてゐて 結構なものと思ひます。恐らく話をする當人よりも立派な頭をもつてゐるんぢやないだらうかと思ひます。私は誰だか知れませんが、其人に對して敬意を表するものであります

す、餘計な事のやうですが、どうぞ私の志を御傳へ下さいまし、夫から序の節に其人の名を教へて下さい

此間野口米氏の浮世繪春信論に就いてある人から朝日にはあらずもなと評して來ました。橋口に笑はれさうなものだと云つて來ました。其男は文部省の古社寺寶物取調囑託の福井利吉郎といふ男です。光琳考といふものを今書いてゐます。橋口の浮世繪研究は近頃です。どの位の程度のものか私は知りませんが、是も何かの御参考になるだらうと思つて序に御知らせします

八月二十四日

夏目金之助

山本松之助様

一八〇三

九月四日 土 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區明石町六十一番地松根豊次郎へ
素麵をありがたう。いつぞや旬集發刊の事につき岩波への御依頼は先方へ申傳へたには傳へたが算盤が取れるか取れないかの點で念を押され小生も受合かね多分儲かるまいと云ひたる儘今日に至りたる次第 拜顔の節御話し致す積の處ついで其機會なく御禮の序にあらましを御返事致して置きます 以上

九月四日

夏目金之助

松根豊次郎様

一八〇四

九月五日 日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地内田榮造へ
〔はがき〕

校正は薄い方十圓厚い方二十圓にてよろしいかと思ひます。修善寺が本當なれ〔ど〕詩の平灰上あ
すこは禪にして置いたのです。他の處は何方でも構ひません

一八〇五

九月七日 火 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地内田榮
造へ

拜啓先達は失禮あの時見た懸物と額のまづいにはあきれました何うかして書き直すか破りす
たいと思ひますが君も錢をかけて表装したものだから只破る譯に行くまいから不得已書き直しま
せう軸の方は引きかへますが額は半きれへかいたもの故長さの寸法を教へてもらつてその字文を
取りかへたらと考へます寸法を(着物の寸法をはかる物指で)はかつて教へてくれたまへ 以上

九月七日

夏目金之助

内田榮造様

一八〇六

九月十日 金 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 臺灣花蓮港南濱一番地山口忠三へ

臺灣茶一罐到着正に拜受致しました未知未見の小生に對しての御親切嬉しい事に存じます私の
書いたものが何かの御慰になれば満足の至であります不取敢御禮迄申上げます 以上

九月十日

夏目金之助

山口忠三様

一八〇七

九月十四日 火 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下千駄ヶ谷八百三十二番地武者小
路實篤へ 〔はがき〕

御本を有難う御座います。一部はたしかに小宮が來た時に渡します。或は此方から送つてやり
ます。兎に角御寄贈の事文はすぐ知らせせてやります。鶴沼はもう引上げたのですか。近頃あなた
方の連中は吾孫子方面に移るぢやありませんか。あなたが吾孫子へ圖書館を建てゝゐるといふ
は本當ですか

一八〇八

九月十四日 火 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ
〔はがき〕

武者小路君から「向日葵」を二部送つて來て一部を君に上げてくれとの事です送つてよろしい

が序があつたら持つて行つて下さい。署名がしてあります。原文に曰く「それから律義(?)すぎ
る話かも知れませんが二部御送りいたしますから一部小宮豊隆氏におついでに節あげて下さい。
少し賞められるとすくいゝ氣になります」同君の宿所は千駄ヶ谷八三二なり

一八〇九

九月十五日 水 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區市谷左内坂町橋口清へ〔はがき〕
久々御無沙汰今日貢君を訪問來る土曜日に拙宅へ來て夕食を食ふ事の承諾を得たに就いて一人
ではあまり淋しき故君と上野君を招待したいと思ふが御都合はどうですか。もし好ければ次の土
曜のあかるいうちから來て下さい。上野君にもさう云つて下さい。(番地が分らないから)。もし
厭か差支があるならば是もさう云つて下さい。上野君の返事も聽いて下さい御手数恐れ入りますが。

一八一〇

九月二十日 月 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ
拜啓あの草花の横長い畫は達者なものでありますあれは津田君には書けませんまい、ある人が見
て是は四條派を習つたものだと思つて申しました題辭はどうかよく解りませんか曲りなりに詩
を書いて置きました無理に作るのだから手間はかゝつて面白いものは一向出来ません詩〔に〕
紅蓼青蘋といふ字を使ひましたがあなたの畫の何處にもそんなものは見當らないのです、あの中
で私は斷腸花より外何も知りませんからこんなうそで御免蒙る次第であります、御承知の通り紅

蓼は白蘋とつゞきますが白蘋では平灰原が合はないので已を得ず青蘋にしました尤も青蘋といふ字
もある事はあるのです下手な詩とうその詩の言譯の爲に數言を費やしました、
もう一つの畫は色は好いが構圖がまとまつてゐないと考へます、何だか途切れてゐます、鶏は
うまいですね、桐もわるくはありませんね然し全體の統一がどうしても取れないやうに思はれま
す、

畫も題も小包で御送り致しますから御落手を願ひます 以上

九月二十日

夏目金之助

西川一草亭様

一八一

九月二十三日 木 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 鹿兒島市春日町百二十六番地皆
川正禧へ

拜啓大島紬と上布の見本たしかに受取御面倒ありがたう島へ注文すると目下戦争の影響で半額
位で買入れられるならば鹿兒島でも自然其結果として安價であるべき筈と思ふが市の方ではまだ
其所迄行き詰つてゐないのだから、又島の方では何で歐洲戦争の影響がそんなに特別の不景氣
を與へるのだから、是は門外漢の僕には一寸分りかねますがもし事實とすれば半額で買へる方
が誰も希望に違ありませんからさう願ひたいと思ひます、若し半額だとすると普通四五十圓のも
のが二十圓か二十五圓で買へる譯だから上等のを買つて差支ありません、又

全體が訛傳であるとすれば見本のうち三十圓程度のものを得たいと思ひます。柄はきり抜いて送りますが其通りでなくてもよろしい。つまりあまりアラ、くなくつて(細かで)少し離れて見た所でもはつきりしたのがよろしいのです。まあ見本に似たやうなのを擇つて下さい。それから此返事に添へて金を上げるのだがまだねだんが分らないのに夫から銀行迄行くのが一寸面倒だから返事文書きます、もし立替られるなら立替で置いて下さい、夫とも貧乏で餘裕がなければ價格をさう云つてくれ、ば爲替で送ります、色々御手敷をかけて濟みません 以上

九月二十三日

夏目金之助

皆川眞拆様

一八二二

九月二十三日 木 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區明石町六十一番地松根豊

次郎へ

拜復

併書再版についての御注文は少々弱り入候。此間中よりそんなもの二三受合候ため小説脱稿後やつと責任を果したる處にて一寸句など作る勇氣なき有様。ことに小生只今は俳道と縁なき身體何とかそちらにて御都合御放免の程願上候。先は右御返事迄是も無精にてついで後れ申候。乍序御詫も附加へ置候。多罪々々

九月二十三日

夏目金之助

東洋城様

一八二三

九月二十四日 金 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 兵庫縣印南郡西神吉松尾博市へ

〔はがき〕

拜復「道草」は百二回で完了です。「三四郎」は春陽堂(日本橋通り四丁目)、「硝子戸の中」「心」は神田南神保町岩波書店發行「道草」は目下印刷中矢張岩波發行であります

一八二四

九月二十五日 土 牛込區早稻田南町七番地より 徳田浩司へ〔七年七月十八日發行『文壇名家書簡集』

より〕

拜啓先日御依頼の件は月中に御返事を致す御約束の處社より何等の消息もなくかつ小説も今が今といふ次第でもなき上大兄よりの御催促も受けざりし故つい無精を極め込みずるゝに致し申譯なき事になりました

二三日前機會があつたのでもう一度社の意向を確かめましたら御大典や何かで色々取り込んでゐた爲返事をしたものと思ひ込んでゐたとの事です、どうぞ御勘辨を願ひますそこで御返事文を申上ますと斯ういふ事になります

十一月十五日迄に原稿半分、(かりに百回と見なし五十回分) 丈御差出が出来れば今の秋聲君の

あとへあなたのものを載せても宜しいのですがもし御間に合ひかねるとなると一寸御約束が致しにくいのですが如何なものでせうか

原稿には社の方でも随分テコズリたる例もあるとかで今度は是非其通りにして私が保證でもしなければ社がいふ事を聞きさうにもありません、従つて受合へば社に對しては私の責任が生じ、また私に對してはあなたの責任が重くなる譯ですから御自信のある程度内ではつきりした御返事を伺はなければならぬやうな始末と御承知を願ひたいのです

此方の勝手ばかり申して濟まんやうですが秋聲君のあとをそろ／＼極める必要が出て來たので出來る丈早く御返事を伺ふ必要があるのですから御決意次第一兩日中に御一報を煩はしたいのであります 右迄 勿々

九月二十五日

夏目金之助

徳田秋江様

一八一五

九月二十八日 火 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區森川町一番地新泉館林原(當時

岡田)耕三へ

弟が大變な事になつて嘸困るでせう、御察し申します。どうも驚ろいた。友達は追拂ふがよし。然し學校を休ませて校正させる積りは僕にも毛頭なかつたのです

これ位(時によりぐらゐにもなる事あり)。この位(必ず清む)。それ位(是も時により濁る)。そ

の位(必ず清むと考へる)。あれ位(時により清又は濁)。あの位(必ず清)。どの位(清むと思へば間違なし)。どれ位(時により清濁あり。清と思へば間違なし)。

「どの位でもない」を僅の意に用ひるなら「どれ程でもない」といふだらう。若し用ひるとすれば清音なるべし

先は右迄 勿々

九月二十七日夜十時

夏目金之助

岡田耕三様

一八一六

九月二十八日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鎌倉由井ヶ濱菅虎雄へ

先達て杉浦重剛先生の代理に日本中學の小林義忠といふ人がきて同校が移轉するにつき寄附金を出してくれとの依頼故發起人の名前を見ると君も出てゐたから昔に聞いて見て御返事を致しませうといつて歸した、寄附金名簿には百圓だの五拾圓だのとあるばかりで少々面喰ふが5圓位出して置いても好いかね 一寸君に御相談を致します 如何なものでせう 以上

九月二十八日

金之助

虎雄様

一八一七

九月二十八日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市富小路御池西川源兵衛へ
先達の手紙のうちに書き込む事をわすれましたから一寸申上ますが此間願つて置いた一幅の表
装の方はまだ出来ずまいか日本一の経師屋でなくても構ひませんから御弟子にやらして早く送
つて下さい。既に送つて頂いた奴はあとから手を入れて又散々黒く悪戯をしてしまひました。實
は表装代を兩方一所に差上たいたのであれも其儘に放つてある譯ですから今度の時は是非雙方の代
價を纏めて御報知を願ひます右迄 勿々

九月二十八日

西川一草亭様

夏目金之助

一八一八

九月二十九日 水 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區森川町一番地新泉館林原(當時

岡田)耕三へ〔はがき〕

しんしやう 身上

丸まつちく

技倆カ伎倆カ知ラズ

九月二十八日夜

一八一九

九月三十日 木 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 水戸市上梅香菊池謙二郎へ

拜復いつも御無沙汰をしてゐます近頃講演は殆んど遣らぬ事に自然なつて仕舞ました是は小生
の無精と時間のないのと夫を知つて頼む人が来なくなつたからです先年も謝絶今度も御断りでは
甚だ濟みませんが右の譯で中々遠方へ出掛ける勇氣も餘裕も時間も根もありませんからどうぞ御
勘辨を願ひます小生は旅行をするといつても病氣をします今春も京都へ行つて寐ましたまあ癡人
の部に屬すべき人間です不取敢御返事迄 勿々不

九月 盡

夏目金之助

菊池謙二郎様

座下

一八二〇

九月三十日 木 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區森川町一番地新泉館林原(當時

岡田)耕三へ〔はがき〕

妾はすべてあたしにてよろしからん

一八二一

九月三十日 木 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ
啓來月三日夜七時開場七時半開演の華族會館の音樂會へ行つて見ませんか音樂學校のシヨルツ

といふ人がショパンの曲を十二ばかり弾くのださうです

此回は月に會費五十錢で切符が二枚とれる會員組織のもので、僕は人の餘分を一枚もらつたから行くが其席で入會しても構はんのだらうと思ふ兎に角斯ういふ會の存在だけを知らせますからあとは御便宜になさい

帝劇の喜歌劇は綺麗だから御嬢さんを連れて行つてやりたまへ、然し今晚かぎりかも知れないからもう駄目かも知らん 以上

九月三十日

夏目金之助

寺田寅彦様

一八三二

十月二日 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ 「はがき」

僕は上野直昭といふ會の幹事のやうな事をしてゐる男から切符をもらつたのだから、上野に會へばすぐどうかして呉れると思ひます。上野は文學士です。門前に待つてゐるのは迷惑かも知れないから先へ入つて上野に會つて話した方がいゝかも知れません。右迄 匆々

一八三三

十月四日 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ 「はがき」

奈良へ遊びに行つたさうです。ね面白かつたでせう。段々氣候が好くなりますから外出に大變結構です。御勉強を祈ります

一八三四

十月四日 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町三十七番地津田龜次郎へ 「はがき」

大光社へ行つて支那畫を見て來ました。大變面白い。是非御出掛なさい。銀座二丁目の東側の裏河岸通にあります。二階にある複製の藝阿彌の雙幅は非常によろしい

一八三五

十月五日 火 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地内田榮造へ

「結ひ付け」で好いでせう

「一色」は好いでせう

「三四郎」は「與次郎」の誤り

「Thea」で切れるのです。Viewといふ字です。テアトロンは見る場所といふ意味です。ある所はの誤り

此次に によろしい

以上

一八二六

十月十一日 月 午後七時—八時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區築地一丁目六番地鎌田敬四郎へ
〔うつし〕

拜啓あなたが米國へお出の事は此間山本君から聞きました 十四日御出發の事も聞きました
外國も長くなると飽きるでせうが當分は面白いばかりでなく經驗にも經歷にもなつて好いでせ
う 精々御利用にならん事を希望致します

御産のため御多忙との事出發前に片付いて結構であります

十四日には何時に立ちますか 東京驛ですか 私は御存じの通りの人間だから時間を承知して
ゐても氣に向かないと行かないかも知れないが 氣が向けば又送りに出掛けないとも限らない人
間です 夫で一吋伺ふやうな譯であります 以上

十月十一日

夏目金之助

鎌田敬四郎様

一八二七

十月十一日 月 牛込區早稻田南町七番地より 大阪市北區中之島朝日新聞社内鳥居赫雄へ
寫眞到着ありがたく拜受致しました幸に痘痕もうつらず結構の出來多々謝々たゞ光線があまり

強過ぎたるやの感あり是は素人觀なるや伺ひます

晝と贊の事承知は致しましたが先約の如是閑さへ片付ない位故自分ながら少々心細い事です

松茸の好時節如仰不消化なれど決して御遠慮には及ばず何時でも頂戴の上口から尻へ押し出し
ます 先は御禮迄 勿々

十月十一日

夏目金之助

鳥居素川様

一八二八

十月十三日 水 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區築地一丁目六番地鎌田敬四郎へ

〔はがき うつし〕

あしたの木曜日な事に氣がつかずにゐました 面會日だから朝から人が來るかも知れないので
無駄足をさせるのも氣の毒だから御見送りをしませ「ん」御健康と御成効を祈ります

一八二九

十月十四日 木 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 福島縣信夫郡瀬上町門間春雄へ

拜復段々好い時節になります身體は御蔭で大して悪い方ではありません毎日展覽會などを見て
歩いてゐます
梨を送つて下さいましてありがたう篤く御禮を申し上げます文鎮はまだ持つて來て呉れません届

いたら御挨拶を致します「道草」はまだ私の處へも見本が来てゐる丈です装幀は津田君がやりました面白いのですが表紙に大變金がかかりました木版で七八度刷ださうです
かつてあなたに書いて上げた書はあまり下手いから近々あれを撤回してもらつてもう少し好いのと交換してもらはうと考へてゐます然し多忙で中々其處迄手が出せないから是も何時素志を果せるか解りません 以上

十月十四日

門間春雄様

夏目金之助

一八三〇

十月二十一日 木 牛込區早稻田南町七番地より 府下代々木山谷二百九十五番地鈴木三重吉へ

拜啓江連重次君はかつて野上白川君の紹介で知り合になつた人ですかねて書いた長編を切つて短篇とした故新小説へても載せる周旋を依頼されますから革新號以後の該雜誌の方針を話して私は謝絶しましたが若し原稿が非常に面白いものとする君の方で採用にならないとも限るまいかとも考へ直しかつ本人の希望を満足させないのも如何かと存じ紹介致しますから少しの時間を割いて會つてやつて下さい委細は本人より御聴取を願ひます御迷惑な事を御依頼して済ません 以上

十月二十一日

鈴木三重吉様

夏目金之助

一八三一

十月二十二日 金 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社

内山本松之助へ

拜啓 文展だの御大典だので中々陽氣な事で御座います時に突然武者小路君から別紙のやうなもの原寄こして朝日へ出して呉れないかといふ依頼です私には御都合が分りませんが一應御目にかけますもし差支があるなら甚だ恐縮ですが御返送を願ひます其時は白樺に載せる積だといふ事です
右迄

十月二十二日

山本松之助様

夏目金之助

一八三二

十月二十二日 金 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 福島縣信夫郡瀬上町門間春雄へ

昨日の木曜日に木村芳雨君が例の文鎮を持つて来てくれました色々な話をしました鋼印も見ました私も一二顆依頼して置きました不取敢御禮旁御報迄 勿々

十月二十二日

門間春雄様

夏目金之助

一八三三

十月二十二日 金 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 清國北京日本公使館白神榮松へ
拜復私の書物を御愛讀下さいます由有難く御禮を申し上げます
寫真を寄せとの御言葉ですが寫真はあまり撮りません夫から人に遣りません夫で残念ながら
御希望に應ずる譯に参りませんあしからず御承知を願ひます 右迄 勿々

十月二十二日
白神榮松様

一八三四

十月二十五日 月 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ
〔はがき〕
會の事御知らせ難有う東君よりも通知あり小生は生憎の木曜故出席致さず候兩國の美術俱樂部
へ参り候沈石田の畫に面白きものありたり其他にも色々すきなもの有之候

一八三五

十月二十六日 火 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區菊坂町菊富士樓本店池崎忠
孝へ 〔はがき〕

讀賣新聞をありがたう、人の小説を批評するなんて事は中々面倒な事です。ことに多忙なあなたに取つて甚だしい煩だつたらうと思ひます。「道草」のためにつぶさせたあなたの時間は私から見るとあなたの損のやうな心持がして御氣の毒です。謹んで御好意を感謝します

一八三六

十一月六日 土 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鷓沼七千二百番地和辻哲郎へ

拜啓 書物をありがたう 四日頃とゞいたがごとくしてすぐ御禮も差上ずといつてまだ一頁も讀まず申譯のない事です 本が賣れなくては困るでせうだれかに頼んで批評をして貰つたらどうです尤も新刊紹介には何處でも出るだらうけれども
九日頃から一週間程旅行を致します僕のやうな無精なものは誘はれないと氣車などへ乗る機會はないのだからたまに誘つてくれる人のあるのは天恵かも知れない
奥さんへよろしく 以上

十一月六日

和辻哲郎様

一八三七

十一月七日 日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 金澤市川岸町八番地大谷正信へ

夏目金之助

拜啓此間はつまらない作物につき御丁寧な御注意を御拂ひ下さいまして誤植表まで御拵らへをいたゞき御好意の段幾重にも鳴謝致します

御惠贈の品物は双方ともありがたく頂戴致しました始め来たのが鳥かと思つたら柿だつたので一寸驚ろきました是は模様がへになつた事と思つてゐる所へ今度は鳥が着きましたどうも色々の御配慮で恐縮致します柿は御庭先のを御自身で樹に上つて取つて下さつた由さう伺へば一層の珍味ですが私が食べようと思つて妻に持つて来いといふともう子供が平げてしまつて一つもありませんでしたまことに残念でした

鳥はまだ頂きませんあれがシイナとかいふものですが私は見た事がない鳥です食べた事は無論ありませんやが「て」食膳に上せて風味致すのを楽しんで居ります先は御禮迄筆末奥様へよろしく以上

十一月七日

夏目金之助

大谷 繞 石 様

一八三八

十一月七日 日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 高田市横町森成麟造へ

久々御無沙汰を致しました御變りもなく結構です又松茸を澤山にありがたう此間から名古屋大阪京都の三市から松茸を幾度も貰ひ幾度も茸飯を食ひました胃にはよくないといひますが寐ないうちは何でも食ふ事に致しましたあなたのは北國の産だから(ことに謙信の城址の産だから)自

ら味も特別だらうと思つて是から風味に取りかゝります何時もながら御好意を感謝致します新著「道草」を上げやうかとも思ひますがもらつても仕方があるまいと思つてわざと差控へてゐます時々先年御依頼した良寛の事を思ひ出します良寛などは手に入らないものとあきらめてはゐますが時々欲しくなりますもし縁があつたら忘れないで探して下さい

奥さまへよろしく 以上

十一月七日

夏目金之助

森 成 麟 造 様

一八三九

十一月七日 日 午後七時—八時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地内田榮

造へ

(一)ある因數をの誤り

(二)奥さん

(三)元の通りニテ仕方ナシ

(四)元の通デヨロシカラシ。積セキハ容積の事。セキがない、セキがある は東京の俗語 餘裕とい

ふやうなもの

(五)平岡はの誤

(六)何時までも の誤

(七) 呼吸が悪ければ呼吸カ
(八) 貴方を貴女にしても無論好イガ貴方でも構ハナカナイカ

一八四〇

十一月十四日 日 神奈川縣湯河原天野屋より 滿洲大連南滿鐵道株式會社内上田恭輔へ (繪はがき 伊豆山相模屋)

〔表に〕

夏目先生と旅行いたし日々教訓を垂れたまいつゝあり

是 公

教訓とともに野糞も垂れたまひつゝあり

然しいまだ帝都三遷の厄に遇ハズ

金之助

〔裏に〕

二伸

昨十二日湯河原から熱海へ參る途中此所にて晝食をしたゝめ五十錢の茶代で此繪葉書をもらひました。是公君は今日獵に行き雉一羽と兎一羽を獲て歸りました。たゞし雙方共獵師が打つたのださうです。同君は一發も放てなかつたと申しますうそぢやないでせう 金之助

一八四一

十一月十七日 水 午後五時―六時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社

内山本松之助へ

拜啓 旅先で新聞を見ると東京は大變な騒だから嘸御忙がしい事と存じます

私は今十七日午後歸りました。例の小説の件はどうなりましたか差支なく進行致しますれば何も御尋ねする必要も御座いませんがもし何かの手違がありましたし私^原が何か致す必要でも生じはしまいかと存じ歸京御報旁一寸伺ひます 匆々

十一月十七日

夏目金之助

山本松之助様

一八四二

十一月十七日 水 午後五時―六時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社

内杉村廣太郎へ

拜復外國雜誌の件につき御配慮を煩はして恐縮です。社の内情を知らないものだから飛んだ横着を致して濟みません。是から能く氣を付けます。アセニームも社の方で取つてもらつて、其上送つて貰つては手敷を掛ける丈ですから是から私の方で取る事にしませう。此間引繼注文の雜誌に就いては貴兄よりの御申越にも拘はらず丸善の方からは何とも云つて來ません一應問ひ合せ

て處置を致します右迄 勿々

十一月十七日

杉浦廣太郎様

夏目金之助

一八四三

十一月十七日 水 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 佐賀縣鹿島町高津原野村傳四へ
拜啓道草の御禮に茶碗などを貰つては濟みません、然し貰へば結構です、有難く御禮を申ます、
あの茶碗は肌合が非常に滑かで美しいもので、それに模様と格好がよく調和して何方かといふと
女性的な 粹な處のあるものです。僕があれで食ふと少々不釣合だ。客が來た時飯茶碗に使ひま
す。多謝々々

金がないのに無暗に品物などを送る心配はしない方がよろしいと思ふ。けれども此方は貰へば
嬉しいんだから矢張り使つた金は活きる譯には違ない。たゞ君と僕の富力から云つて僕は君から
一品の贈與を受けるべき地位に立つてゐない。たゞ僕の方から君に物を遣るべきだらうと思ふ。
好意は感謝するが是から餘り斯んな所へ金を使つて心配しないがよろしい 以上

十一月十七日

夏目金之助

野村傳四様

一八四四

十一月十九日 金 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鎌倉由井ヶ濱菅虎雄へ

拜啓唐突ながら伺ひ度事あり郭尙先といふ人を御承知ならば明人なるや清人なるや將朝鮮人な
るや御教へ被下度もし又御承知なくば誰か漢學者か書の好きな人か好事家かに聞き合せて頂き度
候近頃右落款つきの書を手に入れ候處何人なるや判然致さず表具師に紙の鑑定を依頼致候處土佐
唐紙にて彼土のものに無之由にて疑念相生じ候につき御手敷を煩はす次第に候固より閑中の好奇
心故取急ぐ譯にも無之候へども早く解り候へば一層の好都合に候先は右御願迄 勿々頓首

十一月十九日

金之助

虎雄様

座右

一八四五

十一月二十二日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 佐世保市上町行徳俊則へ

拜啓其後は御無沙汰に打過ぎ申候今般は御令弟南洋行につき至急の場合金貳百圓御立替申候處
早速御送付相成正に落手仕候猶御地産名物一箱是亦慥かに相届き申候御厚意の段深く感謝致候先
は右御報旁御禮迄 勿々頓首

十一月二十二日

夏目金之助

行徳俊則様

一八四六

十一月二十三日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鎌倉由井ヶ濱菅虎雄へ
啓郭尙光の儀につき早速御返事難有候御手数奉謝候小生も大倉書店出版の支那畫家人名辭書を取調へ候處郭尙光號石蘭清人とあり略分明に相成候然し御來翰にては郭尙先の如く拜讀致候が該字書には郭尙光と明記致し居候いづれが正しきものにや軸物の落款は^えとある故光先兩様に讀みなされ候序ながら念の爲め一寸伺上候猶此頃御光來の節は右軸物可「供」貴覽何分の御批評願度と存候先は右迄 匆々

十一月二十三日
虎 雄 様

金之助

一八四七

十二月二日 木 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鶴沼七千二百番地和辻哲郎へ
芋を澤山ありがたう 田舎から芋の俵をもらふといふ事は何だか野趣があつて甚だ愉快ですいつか北海道の南瓜をもらった時のやうな心持がします

御新著を讀み始めた處中途で一吋旅行をしましたので夫限になつてゐます他から寄贈された書物は其著者の好意に對して可成通讀して置きたいといふ心懸はありますが續々來るのでとても實行出來ないのは遺憾です 此度の新小説に赤木柎平君「が」君の書物に就いて何か長いものを書い

てゐます私は一寸見ました

又東京へ來た時御寄りなさい 奥さんへよろしく 敬具

十二月二日

夏目金之助

和辻哲郎様

一八四八

十二月二日 木 牛込區早稻田南町七番地より 府下西大久保二百一番地白日社氣付三木操へ
拜啓御高著二種御寄贈にあづかり正に落手難有御禮申上ます御住居を承知致しませんでしたので得已白日社氣付として此手紙を認めました同社より滞りなく御手元に届くやうに希望して居ります
頓首

十二月二日

夏目金之助

三木露風様

一八四九

十二月二日 木 (時間不明) 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地島崎友輔へ
拜復御丁寧な御書面で恐れ入ります實は私も貴方の友輔さんで居らつしやるか否かに就て半信半猪で居りました加賀美五郎七といふ人が柳塙さんは友輔さんの事だと教へては呉れましたが夫もまだ果してどうかと疑つてゐたのです今回はからず御手紙を頂きまして昔の夢を思ひ出すやう

な心持が致しますわぎ／＼の御光來は恐れ入る次第で私方から參上致すべきでは御座いますがもし御座も御座いましたら茅屋へ御立寄を願ひたいと存じますあなたの日常は定めて御多忙の事と存じますが私の閑生涯もそれ相當の仕事が始終身邊に堆積致して居りますので平常は木曜日を面會日と極めて居ります只今は何も毎日の書きもの御座いませんから木曜なら朝から人々に御目にかゝる事に致して居ります私方から時日などを指定致すのは失禮で御座いますが御照會故御返事を申上るので御座います私も彌生町二番地には知人が御座いますから其内折を得たら參上御高話を伺ひたいと存じます 頓首

十二月二日

夏目金之助

嶋崎柳塙様

几下

一八五〇

十二月四日 土 牛込區早稻田南町七番地より 大阪市北區中之島朝日新聞社内鳥居赫雄へ

拜復いたづら三枚御目にかけます御取捨御隨意也

題詩題句ともに古きものゝみにて間に合せ候臆劫を厭ふ所年の所爲と御勘辨可被下候但し晝も無責任のもの故どう相成つても毛頭遺憾なく候先は右迄 頓首

十二月四日

夏目金之助

鳥居素川様

一つ印章を逆さまに押したり

一八五一

十二月七日 火 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 滿洲大連南滿鐵道株式會社内上田

恭輔へ〔はがき〕

「大黒天考」慥かに拜受致しました御好意を謝します私は大黒様の因縁をよく存じませんが貴方がそんな事に興味を持つてゐられやうとは夢にも思ひませんでした一寸驚ろきました松本も驚いたでせう、松本は私の同級生デス

一八五二

十二月十一日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町三十七番地津

田龜次郎へ

封入の入場券もし時間間に合ひ候節は是非御利用可然諸家の珍藏中には大變御參考になるもの有之候右迄 匆々

十二月十一日

夏目金之助

津田青楓様

一八五三

十二月十四日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太郎へ

拜啓久々御無沙汰を致しました御變りもない事と存じます鮭例年の通御送にあづかり難有御禮を申上ます書物二冊程岩波書店から御届けするやうに致します書物が出来た時は近頃貰ひ手が多くなつたせゐか忘れてしまひます歳末乾鮭を見て急に思ひ出す始末です怠慢の罪を御ゆるし被下まし 以上

十二月十四日

夏目金之助

渡邊和太郎様

一八五四

十二月十四日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ

〔はがき〕

「心」と「道草」を一部づゝ横濱市元濱町一渡邊和太郎宛で送つて下さい 御手数恐れ入りま

すが 以上 十四日

一八五五

十二月十四日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ

拜復國華社展覽會御氣に召し小生も満足の至に存候備個々の陳列品に對する御高見御洩し被下大部參考に相成難有候が中には愚存と一致せざる向も有之候故御笑草の爲此一札を認め申候

山越の阿彌陀は小生には有難き心地少なく候あのベタに金を塗つた彌陀の像のカラダ胸以下の處は何うもタコの化物の如く見え申候普賢はよささうに候それからマンガラも結構に存候然しあの辨天様は一番藝術的態度と恰好をしてゐると思ひ候

御推賞の紫式部日記繪巻物といふもの小生の眼に入らず濟み候或は見たかも知れねど感じなかつたのかも知られずさうなると小生眼睛も少々疑はれ心細く候周文の三益齋は結構ながらあの遠景の山の書き方は頗るいやに候あれよりも無名氏の詩軸の方が拙眼には難なく思はれ申候啓書記はまづ御同感あれは複製と毫も異なる所なきものに候華山が左程の技巧を蟲魚の圖に發揮してゐるにや是亦迂生には君程の感覺なく打過申候蕪村に就ては大に異議有之候あの人のものを印刷で見つてゐたうちは大に渴仰致し候も此間中よりあの種のもの五六幅を通覽するに及んで思つたよりも調子の低い畫をかく人だとの考目下しきりに小生の心に起り居候乾山の畫も殆んど見逃し申候雪村の李白などは厭なものに候正信の三笑はくれたら貰ふ位な程度と御承知願上候

小生の好きな畫少々御吹聴申候、まづ第一に雪舟の着色山水に候あれを見ると張瑞圖のクンヤクンヤ山水などはなくもがなと思ひ候實に偉い高い感を引き起し候夫からあの傍にある文瑄の維摩の肖像です是亦氣高きものに候錢選筆赤い人物は何とも云へぬ落付きと巧者と高さを有して居り候が大兄には如何御覽なされ候や。最後「に」場中尤も劣悪のものを擧ぐれば吳春の鯉に松と存候元來あの第三席のうちには高い畫無之候梁楷が一つある丈に候が其梁楷のかいた布袋か何かの着物

は太い筆の先を割いて墨の黒い奴でシヤアと一筆に塗つたも今時の人がやればすぐ非難を招く事受合と存候。夫から大雅の横巻は珍品として眺め候いつもの大雅とはまるで違つてゐるから妙だと存候大雅の特色あるものうちで最上等のもの一幅及び竹田の極いものを一幅加へたい氣が致し候 右迄 勿々

十二月十四日

寺田寅彦様

一八五六

夏目金之助

十二月十八日 土 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 和歌山縣新宮町佐藤豊太郎へ

拜啓御園培養の佛手柑三顆御惠贈にあづかり有難く奉謝候早速盆にもり飽かず眺め入候又先年頂戴致したるシヤチの牙齒は先達漸く機會ありて去る篆刻家に託し雅印を仕上げて貰ふ事に致し候へども未だ出來上らず候

先は遙々の御好意に對し早速御禮迄 勿々頓首

十二月十八日

佐藤豊太郎様

一八五七

夏目金之助

十二月二十二日 水 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鎌倉由井ヶ濱菅虎雄へ

拜啓談書會の件につき御高配を煩はし恐縮の至に存候會誌四冊正に到着大に今情を慰め申候楷法溯源といふものも大兄の御命令とかにて持來り候買つて買へぬ事はなけれど夫程必要のものも無之候故他日に譲り申候先日御歸りの節は火鉢額懸物にて無かし御難儀の事と存候右御禮迄 勿々頓首

十二月二十二日

虎雄様

金之助

二伸此度の御手紙は前年度のものに比し遙かに上出來に候あの分ならば友達の緣故を以て保存致し置可申候猶斯道の爲め御奮勵祈候 珍重と

一八五八

十二月二十五日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山本松之助へ

拜啓御約束の元日組込のものを今日書かうと思つて机に向つて見ましたがどうも御目出度いものとなると一向趣向が浮びませんので甚だ御氣の毒ですが去年の例にならひ正月上旬迄延ばして下さい大阪もあてにしてゐるでせうからはあなたから宜敷御取なしを願ひます

私の正月から書くものゝ名は點頭録といふ題で漫筆みたやうなものです

どうも違約を致して申譯がありません御目にかゝつて萬々御詫を致す積です 以上

十二月二十五日

夏目金之助

山本松之助様

リヨマチで腕が痛みますつゞけて机に憑る事が出来ません

一八五九

十二月二十九日 水 午後五時―六時 牛込區早稻田南町七番地より 栃木縣那須郡烏山町屋敷町江口渙へ
拜啓御結婚の由御祝ひ申上ます御父さんとの間柄も圓満に解決萬事御満足の御様子何よりの事
です私は久しくあなたが來ないから何うしたのだらうと思つてゐました岡田も結婚君も結婚さう
して學校へ出席して卒業さへすれば此上はないと思ひます先は御祝詞旁右迄 勿々頓首

十二月二十九日

夏目金之助

江口 渙様

大正五年

一八六〇

一月八日 土 午後三時―四時 牛込區早稻田南町七番地より 芝區三田四國町二番地一號小宮豐隆へ
拜復 男子御出生の由大慶に存候命名の儀承知致候へども別段の思案も無之候今年は辰年故辰
の正月にちなみ辰一は如何にや或は大正五年一月を以て生れたる故大一。正五、正一などは如何
大一は小生亡兄の名に有之候正一は手品師の名にも有之候故御勧めする氣も無之候辰は龍にて龍
にて天に上るもの故昇ノボルでは如何正岡子規の名は升ノボルに有之其他辰之助、春五。四國、(三田四國町で
生れたる故)など考へ付きたれど何れも是はといふ様な好きものは無之候

右のうちにてもし御氣に入りたら御命名可然もし又ぞつとしないものばかりなら已めに被成度
決して御遠慮に及ばず候名をつけるのは誕生より幾日迄に必要なかを知らず候へども其内思ひ
つき浮び候へば此方より又可申上候 以上

一月八日

金之助

豐隆様

一八六一

一月八日 土 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區駒込西片町十番地瀧田哲太郎へ 使ひ持歸
相撲に關する書物わざ／＼御送り被下ありがたく御禮申上候今日は原稿を書かうと思つてゐる
處「へ」謠の先生が來其稽古中君より電話がかゝりたる故御斷り致したる處赤木桁平君が八丈島へ
行くとして暇乞に見えた次第是では君を斷らないでも同じ事になつた譯に候色紙正に落手氣が向い
たら絹を汚し可申候
先は右迄 匆々

一月八日

夏目金之助

瀧田 樗陰 様

一八六二

一月十日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 芝區三田四國町二番地一號小宮豊隆へ

〔はがき〕

御手紙拜見好き名思ひ出さず、金五とは金五郎の略字の様で如何がかと思ふ。金吾或は金伍に
ては如何 右迄 匆々

一月十日

一八六三

一月十三日 木 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 埼玉縣秩父郡樋口村四方田美男へ
御手紙は拜見致しましたが別に是といつて名案もありませんでしたゞ御氣の毒に思ふ丈です世の中
にはあなた位な境遇にあるものが幾人ゐるか分らないと云ふ事實が充分な慰藉ニナリハシマセン
カ

一八六四

一月十九日 水 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内
松山忠二郎へ

拜復御案内有難く候小生去冬以來風邪の氣味にてそれが爲か左の肩より腕へかけて鈍痛はげし
くりヨマチか肩の凝か知らざれど兎に角醫者の手と合はず困り入候現に原稿などをかくのが非常
の苦痛と努力に候去年以來約束の相撲見物丈は原稿より骨が折れない故どうか斯うか今日迄繼續
致候も愈となれば是も欠席の覺悟に候此際の御案内甚だ無禮ながら我儘を申せば聊か苦痛の氣味
に有之候久しく諸君と會せざる故かういふ好時機を利用したきは山々なれども坐つて居られ
さうにもなく候相撲は後ろへ寄りかゝり脊中をしきりに動かさうにか斯うにか持ち應へ居候も
夜中は痛みの爲安眠の出來ぬ始末に候

電話で御返事する筈の處くだゞしくて却つて面倒故書面にて申上候何卒あしからず

萬一向後諸君と會合の場合もあらば其節參上萬々御詫可申上候 以上

一月十九日

夏目金之助

松山忠二郎様

一八六五

二月十七日 木 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下下澁谷百二十二番地小泉鐵へ

拜啓 秦西の繪畫彫刻四卷御惠贈にあづかりましてまことに有難う存じます厚く御禮を申上ます
私はリヨマチで此間中から轉地を致して居りましたが昨日歸京致しました書物は何時參つたか存
じませんでした故御挨拶が遅くなりましたした御勘辨を願ひます 以上

二月十七日

夏目金之助

小泉 鐵 様

一八六六

二月十七日 木 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 府下中野町桐ヶ谷千八番地阿部次郎へ

〔はがき〕

拜啓 赤い部屋ありがたく頂戴しました轉地をしてゐたので御挨拶が後れました昨日湯河原から
歸りました

二月十七日

一八六七

二月十八日 金 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ

拜啓 私はリヨマチの氣味で轉地して相州湯河原といふ温泉に廿日間ばかり暮してゐました一
昨夜歸つて御手紙を見ました 病氣の方はまあよい方です あなたの胃病は中々難症のやうです
ね大事になさい 多數の飯を焚くのは随分難義でせうね 私は歸りに鎌倉へ行つて宗演さんの病
氣を見舞つて來ました宗演さんには會ひませんでした敬俊といふ御坊さんに會つて見舞の挨拶
をして來ました あなたは多分知らないでせうね

富澤さんへよろしく 以上

二月十九日

夏目金之助

鬼村 元 成 様

一八六八

二月十八日 金 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内

山本松之助へ

拜啓 私はリヨマチで轉地を致しまして二十日ばかり留守にしました一昨十六日晚歸りました
點頭録をすくべつたりにして濟みません 轉地中に稿をつぐつまりでありました所先方に知
つた人があつて一所にのらくらして居たものだからつい御無沙汰を致しました 歸つてからあと

をどうしたものだらうかと考へてゐます 谷崎君のあとの小説は書かなければならないのだから
それ次第とも考へますが同君のものは大體の所何日頃迄つゞきますか 一寸伺ひます それによ
つて準備を致しますから御面倒でも教へて下さい 以上

二月十九日

夏目金之助

山本松之助様

一八六九

二月十九日 土 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 府下田端四百三十五番地芥川龍之介へ
拜啓新思潮のあなたのもと久米君のものと成瀬君のものを讀んで見ましたあなたのものは大
變面白いと思ひます落着があつて巫山戯てゐなくて自然其儘の可笑味がおつとり出てゐる所に
上品な趣があります夫から材料が非常に新しいのが眼につきます文章が要領を得て能く整つて
ゐます敬服しました。あゝいふものを是から二三十並べて御覽なさい文壇で類のない作家になれ
ます然し「鼻」文では恐らく多數の人の眼に觸れないでせう觸れてもみんなが黙過するでせうそ
んな事に頓着しないでずん／＼御進みなさい群衆は眼中に置かない方が身體の藥です
久米君のも面白かつたことに事實といふ話を聽いてゐたから猶の事興味がありました然し書き
方や其他の點になるとあなたの方が申分なく行つてゐると思ひます。成瀬君のものは失禮ながら
三人の中で一番劣ります是は當人も巻末で自白してゐるから蛇足ですが感じた通りを其儘つけ加
へて置きます 以上

二月十九日

夏目金之助

芥川龍之介様

一八七〇

二月二十二日 火 午前九時—十時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區第一高等學校菅虎雄へ
拜啓二三日副島蒼海伯の書を得た處讀めぬ處あり臨摹貴覽を煩し御判定を仰ぎ度と存候書は
七絶にて左の如し

〔副島伯七言絶句寫し略〕

是は山上陰雲一鷺沖。山頭原豁急西風。我行久在深林。送(？)(又は道?)此(？)兀(？)空
と讀むのだらうと思ふが〇をつけた處は不確實〇をつけた字は全然不明なり他日機會があれば見
て貰ふがまあ一寸見ないで讀んでくれ玉へ 以上

二月二十二日

金之助

虎 雄 様

〔後略〕

一八七一

二月二十二日 火 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ
拜啓別紙廣告の書物古るにてもし安く手に入り候はゞ御求め置き被下度候又古るにて出る見込

のなきものならば此際七圓で買はうかとも存居候 如何なものにや 以上

二月二十二日

夏目金之助

岩波茂雄様

一八七二

二月二十四日 木 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ
あなたは病氣で寐てゐるさうですねちつとも知らなかつた痛いせう然し内臓の病氣よりはま
だ樂かも知れない辛防なさい本が讀みたいといふから何か送つて上げやうと思ふが何を上げてい
いか分らない注文があるなら買つて送つて上げませうどんな種類の本ですか云つて御よこしなさ
い無暗に高い本は不可ません 以上

二月二十四日

夏目金之助

鬼村元成様

一八七三

二月二十六日 土 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 府下下澁谷百二十二番地小泉鐵へ

〔はがき〕

ストリンダベルグの譯第一集御惠贈正に頂戴致しました毎々御心にかけての御配慮深く御
好意を謝します右迄 匆々

一八七四

二月二十六日 土 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 横濱市日本郵船會社支店氣付富山丸

神谷久賢へ

拜復御手紙をありがたう煙草も正に頂きました他に御土産を買つてくるといふ事は餘程親切に
心掛けても中々出来にくいものですどうも恐縮です私はあなたから夫程思はれて可然事を何もして
ゐないのだから

湯河原からは一週間程前に歸りましたリヨマチは略快癒しました少々腕がシビレる位です

潜航艇の難をまぬがれたかと思ふとすぐ世界周航ですか随分^(?)匆忙ですね然し若いうちは夫が却
つて刺戟になつて面白いのでせう御無事と御成功とを祈ります 以上

二月二十六日

夏目金之助

神谷久賢様

一八七五

二月二十六日 土 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町三十七番地津田

龜次郎へ

昨日は失敬又あの竹の繪を床の間で見たら實に辟易しましたもう畫だの字だのを決して人にや
るものぢやないと思つた位辟易したのでどうぞあれを返して下さい私の耻はまあ可いとして畫

家をもつて立つ君の體面にもかゝりますから。

あの屏風はどうしてもいけませんね正直な所もう一遍考へ直す必要がありす私を忠實な助言者と御思ひなさいうそは申しません商買とはいひながら君だつて責任もあり名譽もありす無暗に手を抜いたからと云つて不愉快は何時迄経つても不愉快に極つてゐませう然し君はあの描法を新らしいものと信じてゐるのだから決して悪意があるとは認めませんがあれを一年間仕舞つて置いて急に取り出して見たら今の私と同感になるに極つてゐます

決して頑固を押し通し給ふ事なかれ 珍重々々

二月二十六日

夏目金之助

津田青楓様

いづぞや書いた我師自然といふ額の字もどうか撤回したいと思つてゐます今度寸法を取つて置いて下さいませんか夫に合はせて書き直しますさうして張り替へます、方々へ耻の搔き棄をやつてゐるので尻拭に骨が折れるばかりです、其尻拭が一年経たないうちに又耻ざらしになるのだから甚だ情ない次第です奥さんへよろしく

一八七六

二月二十八日 月 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 神戸市平野町祥福寺鬼村元成へ

啓金剛草といふ本を送ります詰らんものでもし病中の徒然を慰める事が出来るなら幸福です馬場孤蝶後援集といふものはうちにありましたが此間こんな本を悉く人にあづけましたから其

方にあるかも知れませんか或はなくなつたかも知れませんかあつたら届けます

あなたは岡山の寂巖（原）といふ坊さんを知りませんか此人の書は見事だといつて他から注意されました私は其人の書が見たくなりました欲しくなつたのかも知れませんが是はたゞ序だから伺ふのです 以上

二月二十八日 夏目金之助

鬼村元成様

富澤さんへよろしく。病氣を御大事になさい。あなたの老師は字がうまいですか。私は書や畫が好きだからついこんな事を聴きたがります

一八七七

二月二十八日 月 午後零時—一時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町四十三番地内田榮造へ〔はがき〕

拜啓此間君が持つて歸つた本のうちに馬場孤蝶後援集がありますかもしあれば神戸平野祥福寺鬼村元成宛デ小包デ送つて下さい面倒ながら 以上

二月二十八日

一八七八

三月三日 金 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 小石川區高田老松町三十七番地津田龜

次郎へ

拜啓今日上野へ行つて國民美術協會の展覽會を見ましたあなたの屏風は傑作ですあの位なものは滅多に出来ないでせうあれを他にやるのは惜しい氣がします何なら私が譲り受けてはと迄思ひましたあれは大變手がかゝりましたらうが本式ですどうかみんなあの位に出来ればいゝと思ひます出来さへよろしければ手を抜いても何でも構はないのは無論であります
右御報知迄 以上

三月三日

夏目金之助

津田青楓様

天岡鈞一といふ人を知つてゐますかあそこへ銅器や陶器を出品した人ですもし知つてゐるなら宿所を教へて下さい夫からどこ出の人でどんな事をしてゐるかも教へて下さい

一八七九

三月四日 土 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區矢來町六十二番地森田米松へ 使ひ持歸

復軍鷄澤山にありがたう効能書もかゝる時には非常にきゝ目あるやうにて喰はぬ先から旨い氣持が致します仰の如く今夜膳に上せ大いに賞味する覺悟右不取敢御禮迄 勿々

三月四日

金之助

米松様

座下

一八八〇

三月九日 木 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區向ヶ岡彌生町二番地寺田寅彦へ

拜啓先日は久し振で御尋ね致したる處御病氣の爲め不得御面語遺憾此事に存候奥さんの御話にてはもう大した事もなからうとの事故安心致し其儘御見舞も申上ず今日迄打過居候然し其後の御消息頓と相分らず或はまだ快くならず御伏せりではなきかと思ひそれで手紙で一寸御見舞を致す譯に御座候

此間は湯河原より歸京後にて御藏幅拜見の機もあらばと存じ參上したる次第向後そんな場合もあらば素志相果し度是も序を以て願置候 以上

三月八日

金之助

寅彦様

一八八一

三月十日 金 午前十一時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區一番町二松學舎木下國一へ

〔はがき〕

私はあなたに何も慰藉を與へる譯に行きますまい然し會ふ前のあなたの煩悶の大体を手紙で書いて來て御覽なさいそれによつて會ふと會ふ必要がないとか返事をしますから

一八八二

三月十三日 月 午後一時―二時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區一番町二松學會木下國一へ〔は
がき〕

御手紙は拜見致しましたが私の手際では何うして上げる譯にも参りません甚だ御氣の毒の至で
はありますが御斷りの御返事を差上ルヨリ外に仕方ガアリマセン

一八八三

三月十六日 木 午後一時―二時 牛込區早稻田南町七番地より 高田市横町森成麟造へ

拜復良寬上人の筆蹟はかねてよりの希望にて年來御依頼致し置候處今回非常の御奮發にて懸賞
の結果漸く御入手被下候由近來になき好報感謝の言葉もなく只管恐縮致候

良寬は世間にも珍重致し候が小生のはたゞ書家ならといふ意味にてはなく寧ろ良寬ならでは
といふ執心故菘翁だの山陽だのを珍重する意味で良寬を壁間に掛けて置くものを見ると有つまじ
き人が良寬を有つてゐるやうな氣がして少々不愉快になる位に候

さて良寬の珍跡原なるは申す迄もなく従つて是を得るにも随分骨の折れる位は承知致候所では
どうしてもたゞで頂戴致すべき次第のものに無之故相應の代價を乍失禮御取り下さるやう願ひ上
候御依頼の當初より其覺悟に有之候旨は其節既に御話し致し候とも記憶致し居候へば誤解も有之
間敷とは存じ候へども念の爲故わざと申添候たゞし貧生囊中幾何の餘裕あるかは疑問に候へば其

邊は身分相應の所にとゞめ置き度是も御含迄に申上候

其外に拙筆御所望とあれば何なりと御意に従ひ塗抹可仕良寬を得る喜びに比ぶれば惡筆で耻を
さらす位はいくらでも辛防可仕候

三月十六日

夏目金之助

森成麟造様

兩三日來風邪に〔て〕臥葦此手紙床の上に起き直りて書いたものに候乍筆末奥さんへよろしく
猶良寬幅代價御面會の節差上度考故あらかじめ其都合に致し置度と存候間前以て一寸金額丈御
報知被下ば幸甚に候

一八八四

三月十八日 土 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區矢來町六十二番地森田米松へ
御彼岸の牡丹餅ありがたく頂戴ドストエヴスキ小説序を以て御返却致候

先日願置きたる安藤現慶氏の住所御報知願上候

後刻使まかり出候時紙片へでも御認め御渡し被下度候其節小生書籍にて御手元にあるもの一應
御返し願候方々へ貸したるを整理の必要上一度取りもどす譯に候 右迄 以上

三月十八日

金之助

米松様

一八八五

三月十八日 土 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 愛知縣安城町大字赤松安藤現慶へ
拜啓愈御多祥奉賀候備先年拜借致したる佛書三部其後拜顔の機をまち御返却可致心算に御座候
處生憎面語の折なく今日に至り無申譯原なく候過日來兩三度御宿所を森田君に尋ね今日漸く相分り
候につき右御藏書小包にて御郵送申上候につき御落手被下度候 以上

三月十八日

夏目金之助

安藤現慶様

一八八六

三月十九日 日 午後一時—二時 牛込區早稻田南町七番地より 福島縣信夫郡瀬上町門間春雄へ〔はが
き〕

き

私の腕の痛は大分好くなりました御尋ね下さつて有難う御座います湯河原からは餘程前に歸り
ました

一八八七

三月十日 日 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區菊坂町菊富士樓本店池崎忠孝へ〔は
がき〕

がき

真山民詩集正に着御好意ありがたく候 此次代價差上可申候 御禮迄 勿々

一八八八

四月十二日 水 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 高田市横町森成麟造へ

拜啓御上京の節は何の風情もなく失禮致候良寛和歌につき結果如何と案じ煩ひ居候處木浦氏手
離しても差支なき旨の御報何よりの好都合に候十五圓だらうと百圓だらうと乃至千圓萬圓だらう
ともとく買手の購買力と買ひたさの程度一つにて極り候もの其他に高いの安いのといふ標準は
有り得べからざる品物に候へば幸身分相應の代價にて譲り受ける事相叶ひ候へば有難き仕合せに
候猶此點につき大兄の一方ならぬ御盡力と木浦氏の所藏割愛の御好意とを深く感謝致し候

代金十五圓は荊妻に命じ爲替と致し此中に封入差出申候につき御落手被下度候早速經師屋を呼
び兩幅とも仕立直し忙中の閑日月を得て良寛の面影に親しみ可申候先は御禮旁右迄 勿々

四月十二日

夏目金之助

森成麟造様

座下

一八八九

四月十二日 水 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上

豊一郎へ

此間中は御老人御病氣の爲め御歸省の由幸御快氣の趣にて再び御東上結構に存候 心越禪師の幅物手に入り候由何よりの堀り出し物羨ましき限に候 小生も良寛の書を二幅程得候内一幅は小品なれど大變結構の出来に候今度心越禪師を拜見の序を以て可供高覽候

小生の英書或は御手元に残り居り候はゞ一應御返却願度段々人に貸して行衛不明のもの出来候につき一寸整理致し度と存じ此間中よりそちと徴發致し居候元より至急を要する事にてはなけれど右の事情故どうぞ其積にて序もあらば御持參願上候 右迄 勿々

四月十二日

豊一郎様

金之助

一八九〇

四月十二日

午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨村池袋七百四十六番地前田利

録へ

拜復私はあなたの名を忘れておました前田利鎌といふ名前を眺めてゐるうちに若しやあの人ではなかつたかと思ひ出しましたがそれも半信半疑でありました穴八幡の處で會つた人があなただらうとは夢にも思ひませんでした若しあれがあなたなら私の小説の縮刷を手にしてゐはしませんでしたか

私は多忙だから面會日の外は普通の御客には會はない事に極めてゐます面會日は木曜日ですが木曜は學校があるからあなたも忙がしいでせう然し學校が濟んでから來る勇氣があるなら入らつ

しやいお目にかゝりますから 以上

四月十二日

夏目金之助

前田利鎌様

座下

一八九一

四月十九日

午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 府下巢鴨町上駒込三百二十九番地野上

豊一郎へ

拜復 謠會の御招待有難く存候然る處小生近日稽古を廢し此種の會合には當分出ない積故葵上の役割はどうか他に御選定を願ひ度候考へて見るに謠は一人前になるには時間足らず今許す時間内にては疎な事は出来ず已めた方が得策と存候其上近來〇〇といふ男の輕薄な態度が甚だ嫌になり候故已めるのは丁度よき時機と思ひつき遂に斷行致し候序を以て餘計な御シヤベリを致し御清聽を瀆し嘸御聞きにくき事と存候 右迄 勿々

四月十九日

金之助

豊一郎様

愚存にては〇氏より小鍛冶の方が數等眞摯なる藝術家に候然しあれも其内スポイルされる事と存候

一八九二

四月二十日 木 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區東京帝國大學醫科大學物理的治療室眞鍋嘉一郎へ
拜啓過日は久振にて拜顔色々御高話承はり満足此事に候迂生病氣につき種々御心配是亦深く奉
鳴謝候乃ち御高配に従ひ十九日朝より二十日朝に至る迄二十四時間の尿を一部分差出し候間可然
御検査相成度候猶其後の食物表別紙の如くに候間是亦御参考の爲め御覽被下度候如仰蛋白のみ攝
取致候と反つて酸を増し候にや胃痛も起り運動も出来かね候老境に近くと段々色々の故障ばかり
にて甚だ心細き次第に候

猶向後の養生方其他に就ては検尿の上何分の御注意賜はり度電話にて御都合御報被下候へば又
又御邪魔ながら本郷迄出掛可申候先は右用事迄 勿々

四月二十日

夏目金之助

眞鍋嘉一郎様

一八九三

四月二十二日 土 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 横濱市元濱町一丁目一番地渡邊和太
郎へ

拜啓先日は御手紙頂戴有難く拜見致候早速岩波へ問合せ候處果して間違にて昔の手紙に棒を引
いてなかつたためと判然致候同人より其旨申上たる筈なれど猶小生よりも御手数を煩はしたる儀

につき御挨拶申上候岩波は書籍返送の儀申入候様に承り候がそれも御面倒と存じ候へば御打棄置
被下度候若しや渡邊傳君へあの本を上げてなかつたら餘り物で失禮には候へども貰つて頂きたい
とも存候如何のものにや序の節同君に御たづね被下度候若し又岩波の申上候通同店へ御送附濟に
候へば是亦それにて宜敷以上の御配慮御無用に候先は右御詫旁當事のみ 勿々敬具

四月二十二日

夏目金之助

渡邊和太郎様

一八九四

四月二十二日 土 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區東京帝國大學醫科大學物理的治療室眞鍋嘉一郎へ
拜啓先日は御面倒相願多謝猶本日御指定通り昨日の尿三回分差出候間可然御取計願上候
昨一日の食事表及び目下服用中のソーダ劑處方是亦貴意の如く相添御参考に供し候向後も宜敷
様御指圖被下度出来る丈は確定方針を守る心得に御座候 右迄 敬具

四月二十二日

夏目金之助

眞鍋嘉一郎様

榻下

一八九五

四月(?) 牛込區早稻田南町七番地より 牛込區矢來町三番地新潮社『文章俱樂部』へ「五月一日發行」文

章俱樂部〔寫眞版〕より

「文章初學者に與ふる最も緊要なる注意」といふ御質問をうけましたがちと問題が大きくて一口に申上かねるやうです。然し一番ためになるのは他の眞似をしゃうと力めないで出来る文自分を表現しやう／＼と努力させる注意ではないでせうか。他から受ける感化や影響は既に自分のものですから致し方がありませんが好んで他を眞似るのは文章の稽古にも何にもならないやうです。自分の發達を害する許だと思ひます。従つて感化と模倣の區別をよく教へてやるのも好い方法かと考へます

何か御返事を上げないのも失禮だと存じて一口御答を致します固より深く考へた上の事でありませんから粗雑至極のものです 以上

夏目金之助

一八九六

五月一日 月 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區東京帝國大學醫科大學物理的治療室眞鍋嘉一郎へ
拜啓御指定の通尿三瓶差出候可然御取計願上候昨日の食事表も相添申候當用迄 勿々

五月一日

夏目金之助

眞鍋様

一八九七

五月二日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市高臺寺枡屋町大虎野村きみへ

御手紙をありがたう私も久しく御無沙汰を致しました御變もなくつて結構です私は病氣をしに生れて来たやうなものですから始終どこかわるいのです然し今は起きてゐますさうして近いうちにくだらないものを新聞に書かなければなりません

金ちゃんにはゴリオシが出来なくつて例の男が妻君をもらつちまつたといふ話ですねどうも氣の毒の至です然し早速あとを見付けて代りにすればちつとも差支ないでせう私のカ、アへの手紙は歸つたら渡しますカ、アは今外出して宅に居ませんまづ此位で御免蒙ります さよなら

五月二日

夏目金之助

野村御君様

花をありがたう東京では御花見に一遍も行きません

一八九八

五月六日 土 午前十時—十一時 牛込區早稻田南町七番地より 下關市觀音崎町永福寺鬼村元成へ

あなたの出来ものはもう全快したさうで結構です下關へ行かれたさうですが其邊で好い御寺が見つかりますか あなたはまだ若いから和尚さんになるのは骨が折れるでせう然しなれたら又和尚さんらしい便利だの自由が得られるでせう 下關は一度町を通つた事がある丈で慥かな記憶がありませんが何でも細長い町だと覺えてゐます 富澤さんは勉強して知識になると云つてゐましたが此頃でも一生懸命に修業をしてゐますか 私は始終からだ「が」悪くて困りますまあ病氣をし

に生れ^原に來たやうな氣がします 是から又小説を書くので當分忙がしくなります 以上

五月六日

夏目金之助

鬼村元成様

一八九九

五月二十一日 日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社

内山本松之助へ

拜啓此間中から少々不快臥牀それで小説の書き出しが豫定より少々遅くなつて済みませ「ん」谷崎君の二十日完了の筈のものが二十四迄延びたのも夫が爲の御斟酌かと存じ恐縮してゐます此分では毎日一回宛は書けさう故御安心下さい

却説小生の宅へ來る赤木桁平と申す人が今度の「明暗」の原稿を是非貰ひたいと申します私は斷るのも氣の毒ですから社へ聞き合せて置かうと申しましたが如何なものでせう若し御差支なくば、又大した御手数にならないならば御保存の上完結後取り纏めて同氏へ渡してやりたいと思ひます 一寸手紙で御都合を伺ひます 以上

五月二十一日

夏目金之助

山本松之助様

一九〇〇

五月二十一日 日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 滿洲大連南滿鐵道株式會社内上田恭

輔へ

拜啓高著生殖器崇拜「教」の話遙々御惠贈にあづかり有難く御禮申上候小生斯ういふ學問に就ては全くの門外漢故拜讀の際種々の點に於て利益を受け候事尠「か」らず候不取「敢」右御挨拶迄 勿々不

五月二十一日

夏目金之助

上田恭輔様

一九〇一

五月二十一日 日 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 京都市高臺寺栴屋町大虎野村きみ、

梅垣きぬへ「はがき」

粽をありがたう何か御禮に上げますから欲しい食べたいものを云つて御寄こしなさい、東京にあるものはみんな京都にありさうで見當がつかないから。

うまい鹽煎餅はいかゞ

一九〇二

六月四日 日 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區平河町六丁目五番地松山忠二郎へ

「はがき」

拜啓明日の編輯會へは成るべく都合して出ますが若し出なかつたら小説執筆の爲め時間の差繰
がつかなくつた事と思つて下さい

一九〇三

六月九日 金 午後七時—八時 牛込區早稻田南町七番地より 府下澁橋町柏木六十九番地下山儀三郎へ
拜啓昨日は失禮致しました其節御依頼の御令嬢命名の儀は小生の漱石の石をとりいし子と致し
ました自分の雅號などを人につけて遣る事を私は甚だ好まないものでありますが昨日の御話を伺つ
て見ると御斷りを致すのが如何にも御氣の毒でありますから僭越を忍んで御希望の如くに取計ひ
ました向後健全の御發育と立派なる御成長とは小生の切望する所であります 敬具

六月九日

夏目金之助

下山儀三郎様

一九〇四

六月十日 土 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内山
本松之助へ

本松之助へ

拜啓今日さき程投函致しました明暗(二十四)の一番仕舞際に「其小路を歩き盡して突き當りに
ある藤井の門を潜つた時、彼は突然彼の間ばかり前に起る砲聲を聞いた」といふやうな文句が
ありますが、もし砲聲となつてゐたらそれを銃聲と訂正して置いて頂きます。もし又砲聲とも銃

聲ともなく他の「どんといふ音」とか「鐵砲の音」とかなつてゐたらその儘でよろしう御座いま
す。何だか書いたあとで不圖氣が付いた様で其癖自分の使用した句をはつきり覚えてゐない様な
ので つい不得要領な御願を致す事になりました 以上

六月十日

夏目金之助

山本松之助様

一九〇五

六月十日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 福島縣信夫郡瀬上町門間春雄へ (はが
き)

佐久良んぼう一箱正に頂戴致しました御禮を申し上げます 以上

六月十日

一九〇六

六月十四日 水 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區三番町十二番地有島生馬へ

啓「南歐の日」一部御惠投ありがたく存候貴方のものは大抵讀んだ積で居りますがあの中には
或はまだ未讀のものもあるかも知れませんか故閑を得て拜見する積で居ります不取敢右御禮迄 勿
勿頓首

六月十四日

夏目金之助

有島生馬様

座下

一九〇七

六月十五日 木 午後八時—九時 牛込區早稻田南町七番地より 金澤市川岸町八番地大谷正信へ
拜啓御惠贈の御菓子折正に頂戴致しました毎度ながら御心にかけての御親切ありがたく御
禮を申上ます小説も毎日二回づゝ読んで頂くのは恐縮の至であります但自分の我儘の方から申せ
ば其方が嬉しいのには違ありませんさういふ熱心な讀者に對して何うか満足の行くやうな旨いも
のが書きたいと冀ふ次第であります
先は不取敢右御禮迄 匆々

六月十五日

大谷繞石様

座下

夏目金之助

一九〇八

六月二十一日 水 午前零時—七時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區内山下町一丁目一番地東洋協
會内森次太郎へ

拜復御來示の趣有がたく承はり候明晩御光來の程待上候 明後日なら午後に願度と存候と申す

は小生午前中は執筆と相きめ下らぬものを毎日精出して書き居候故大抵のものは断はり居候わざ
わざの御光臨に文句をつけ甚だ恐縮の至なれど右の次第故悪からず 先は御挨拶迄 勿々頓首

六月二十日夜

森次太郎様

夏目金之助

一九〇九

六月二十一日 水 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區東京帝國大學醫科大學物理的治療室眞鍋嘉一郎へ
啓御指命により尿三瓶例の如く差出候食事表も相添へ申候
昨夜の尿は食後二時間目を間違へて三時間目に取り申候故不注意の御詫旁御断り申候 頓首

六月二十一日

眞鍋嘉一郎様

夏目金之助

一九一〇

六月二十二日 木 使ひ持參 牛込區早稻田南町七番地より 府下淀橋町柏木六十九番地下山儀三郎へ
拜啓此品輕少なから赤坊さんの夏着として御笑納被下度は是は荊妻がミシンで拵へた手製に御座
候故御祝としては幾分か記念にも可相成かとも存じ石子さんに差上る次第に候 頓首

六月二十二日

下山儀三郎様

夏目金之助

一九二一

六月〔?〕 牛込區早稲田南町七番地より 牛込區矢來町三番地新潮社『新潮』へ 〔應問 七月一日發行『新潮』より〕

私は不幸にしてタゴール氏に面會の機を得ません。それから同氏の書いたものも讀んで居りません。私の同氏に關する知識はたゞ新聞に出る寫真丈であります。其寫真から推すと氏は多數の日本人よりも風采の點に於てはるかに立派なやうに思はれます。其他に何の感想も有ちません。

一九二二

七月四日 火 午後十時—十二時 牛込區早稲田南町七番地より 小石川區高田老松町三十七番地津田龜次郎へ

拜復伊達家入札會の切符わざ／＼御送有難う本日午後行つて見て來ました中々面白いものがあります 一休の下手な書が一番眼につきましたあれは(三行もの)何で懸物などにする價値があるのでせう あんまり人が多いので落付て看られないのが不愉快でした 君の好きな斑竹の畫簾は結構ですが實用に使用するのは勿體なし といつて仕舞つて置いてはつまらなし厄介なものぢやありませんか 先は御禮旁御報迄 匆々頓首

七月四日夜

夏目金之助

津田 青楓様

一九二三

七月五日 水 午後三時—四時 牛込區早稲田南町七番地より 府下淀橋町柏木六十九番地下山儀三郎へ

〔はがき〕

拜啓新選俳句大觀一部御惠贈ありがたく奉謝候早速御禮迄如此に御座候 以上

七月五日

一九二四

七月九日 日 牛込區早稲田南町七番地より 麴町區富士見町四丁目二番地眞鍋嘉一郎へ

拜啓毎々尿を試験して頂いて有難う御座います御蔭で糖分も減退腕の神経痛も癒りました感謝してゐます何か御禮をしようと思ふが親切でして下さるものへ町醫者と同じやうな事をしてはならないと思つて少々考へたが別に方法もないので下らんものを御目にかける事にしました失禮かも知れませんが私の志だから受納して置いて下さい夫から尿の試験表を作つて下さる君の助手の方へも御禮の心ばかりに同性質のものを差上げる事にしました然し名前も住所も能く知らないのです貴方から渡して頂く事にしたいと思ひます御迷惑でも何うぞ宜敷願ひます自身御禮に上りたいのですが何時上つたら御邪魔にならずに済むか解らないし夫からこんなものを自分で持參するのは厭だから車夫を差出ます、封が二つあるうちで貴方の名前の書いてある名刺を貼り付けた方があなたので名刺のない方が助手君であります先は用事のみ 匆々頓首

七月九日
眞鍋嘉一郎様

夏目金之助

一九一五

七月十一日 火 午後二時—三時 牛込區早稻田南町七番地より 京橋區瀧山町四番地東京朝日新聞社内
山本松之助へ

拜啓「外報」といふ名前でM、M、C(明暗中烟草の名)はMCCの間違だと注意して呉れた人があります。その人はその間違をあなたに話したさうですから、あなたは其人を御存じだらうと思ひますので、此手紙をあなたに差上ります。

「實は私はMMCとばかり思ひ込んでおりました。然し御注意により書物にするときにはMCCと訂正致します。有難う御座います。」
是丈傳へて下さい。

夫から其人の端書のうちに「エラタ」と假名で書いてありますが、エラタは誤謬の複數で、單數の時はエラタムになります。是は故意に意趣返しの積でいふのも何でもありませんが、羅旬語を英語に移したものだから間違へると氣が付かない事もあります故其人に注意して上げて下さい。序に云ふのですから手紙の主題とは何等の關係もない事ですけれども、たゞほぢくる爲の惡意でない事丈は先方に傳はる様に願ひます 以上

七月十一日

夏目金之助

山本松之助様

一九一六

七月十五日 土 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 212 West 122 Street, New York
厨川辰夫へ

拜復其後愈御勉強結構に存じます。私の病氣を御見舞下さいまして有難う御座います。私は始終病氣です。但起きてる時と寐てゐる時とある丈です。

上田敏君が死にました。十三日に葬式がありました。人間は何時死ぬか分かりません。人から死ぬ死ぬと思はれてゐる私はまだびく／＼してゐます。

私の書物なんか亞米利加人に讀んでもらふやうなもの一つありません。
御返事迄 勿々

七月十五日

夏目金之助

厨川辰夫様

一九一七

七月十八日 火 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本所區龜澤町一丁目二十六番地大石

泰藏へ

拜復「明暗」のかき方に就ての御非難に對しては何も申上る程の事はないやうです。私はあれ

で少しも變でないと思つてゐる丈です。但し主人公を取かへたのに就ては私に其必要があつたのです。それはもつと御讀下されば解るだらうと思ひます。アンナカレニナは第何巻、第何章といふ形式で分れてゐますが内容から云へば私の書方と何の異なる所もありません。私は面倒だから一、二、三、四、とのべつにしました。夫が男を病院に置いて女の方が主人公に變る所の繼目はことさらにならないやうに注意した積です。要するにあなたは常識で變だといひ私も常識で變でないといふのです。すると二人の常識がどこか違つてゐるのでせうか呵々

七月十八日

夏目金之助

大石泰藏様

一九一八

七月十九日 水 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 本所區龜澤町一丁目二十六番地大石泰

藏へ

あなたの第二の手紙は私のあなたに對する興味を引き起しました。第一の書信を受取つた時私は(實を云ふと)面倒な事を云つてくる人だと思ひました。黙つて放つて置かうかとも思ひました。然し第二の御手紙に接した私は、あなたの御不審のある所が漸く判然したやうに考へるやうになりました。それで又此返事を差上ります。

あなたはお延といふ女の技巧的な裏に何かの缺陷が潜んでゐるやうに思つて讀んでゐた。然るに、其お延が主人公の地位に立つて自由に自分の心理を説明し得るやうになつても、あなたの豫

期通りのものが出て來ない。それであなたは私に向つて、「君は何の爲に主人公を變へたのか」と云ひたくなつたのではありませんか。

あなたの豫(期)通り女主人公にもつと大袈裟な裏面や凄まじい缺陷を拵へて小説にする事は私も承知してゐました。然し私はわざとそれを回避したのです。何故といふと、さうすると所謂小説になつてしまつて私には(陳腐で)面白くなかつたからです。私はあなたの例に引かれるトルストイのやうにうまくそれを仕遂げる事が出来なかつたかも知れませんが、私相應の力で、それを試みる丈の事なら、(もしトルストイ流でも構はないとさへ思へば)、遣れるだらう位に已惚れてゐます。

まだ結末迄行きませんから詳しい事は申し上げられません、私は明暗(昨今御覽になる範圍内に於て)で、他から見れば疑はれるべき女の裏面には、必ずしも疑ふべきしかく大袈裟原な小説的の缺陷が含まれてゐるとは限らないといふ事を証明した積でゐるのです。それならば最初から臆氣に讀者に暗示されつゝある女主人公の態度を君は何う解決するかといふ質問になり「ま」せう。然しそれは私が却つてあなたに掛けて見たい間に外ならんであります。あなたは此女(ことに彼女の技巧)を何う解釋なさいますか。天性か、修養か、又其目的は何處にあるか、人を殺すためか、人を活かすためか、或は技巧其物に興味を有つてゐて、結果は眼中にないのか、凡てそれ等の問題を私は自分で讀者に解せられるやうに段を逐ふて叙事的に説明して居る積と已惚れてゐるのです。

斯ういふ女の裏面には驚ろくべき魂膽が潜んでゐるに違ないといふのがあなたの豫期で、さう

云ふ女の裏面には必ずしもあなた方の考へられるやうな魂膽ばかりは潜んでゐない、もつとデリケートな色々な意味からしても矢張り同じ結果が出得るものだといふのが私の主張になります。あなたの方が眞實でないとは云ひません。然し其方の眞實は今迄の小説家が大抵書きました。書いても差支ありません、又陳腐でも構はないとした所で、もし讀者が眞實は例の通り一本筋なものだと早合點をすると、小説は飛んだ誤解を人に吹き込むやうになります。今迄の小説家の慣用手段を世の中の一筋道の眞として受け入れられた貴方の豫期を、私は決して不合理とは認めません、然し明暗の發展があなたの豫期に反したときに、成程今迄考へゐた以外此所にも眞があつた、さうして今自分は漱石なるものによつて始めて、新しい眞に接觸する事が出来たと、貴方から云つて頂く事の出来ないのを私は遺憾に思ふのであります。さう思はれないのは、私の手腕の缺乏、私の眼力の不足、色々な私の缺點から出て、毫も讀者たる貴方の徳を煩はすに足りないかも知れませんが、兎に角私の精神文は其所にある事を御記憶迄に申上げて置きます。終にのぞんで親切なる讀者の一人として私はあなたが如何なる種類階級に屬する人であるかを知りたいと思ひます。

七月十九日

大石 泰藏様

一九一九

七月三十一日 月 午後十時—十二時 牛込區早稻田南町七番地より 前橋市曲輪町六番地小池壽子へ

拜復

バタを澤山に送つて下さいまして有難う存じます厚く御禮を申し上げます参考書を御聞き合せですが私にも何がいか分りません。あなたの方で本の名前を並べてくれば取捨はして上げられる様な氣もしますが一体何ういふ方面の参考書の意味ですか

此手紙はもつと早く書く筈でしたがごたく／＼してつい遅くなりました 以上

七月三十一日

夏目金之助

小池 壽子様

一九二〇

八月五日 土 午後四時—五時 牛込區早稻田南町七番地より 神奈川縣鶴沼七千二百番地和辻哲郎へ

拜復此夏は大變凌ぎいゝやうで毎日小説を書くのも苦痛がない位です僕は庭の芭蕉の傍に畳み椅子を置いて其上に寝てゐます好い心持です身體の具合か小説を書くのも骨が折れません却つて愉快を感じる事があります長い夏の日を藝術的な勞力で暮らすのはそれ自身に於て甚だ好い心持なのです其精神は身體の快樂に變化します僕の考では凡ての快樂は最後に生理的なものにリヂュースされるのです。賛成出来ませぬか。

小説を書いたら當分寐かして置くが好いです人に批評して貰ふよりも寐かして置いて後で見ることがいくらか發明する所が多いか分りません。(僕の様なそれを職業とするものは特別として)

木曜は午後から夜へかけて何時でも居ります近頃は新思潮の同人がやつて來ますと御出掛な

さい 以上

八月五日

和辻哲郎様

夏目金之助

一九二一

八月五日 土 午後五時―六時 牛込區早稻田南町七番地より 大阪府北河内郡四條村野崎池崎忠孝へ
拜啓此間は御手紙を有難う此年は大變いつもより涼しいので凌ぎ安いやうです毎日小説を書く
のも汗が出ないで樂です長くていつ暮れるか分らない午時を室内で氣を永く暮らしてゐるのは好
い心持です 今日から蟬が鳴き出しました子供がそれを捕つて喜んでゐます いづれ九月に御目
にかゝります私の小説は何時濟むか分かりません厭きずに仕舞まで讀んで下さい 以上

八月五日

池崎 忠孝様

夏目金之助

一九二二

八月九日 水 午後十時―十二時 牛込區早稻田南町七番地より 本郷區根津西須賀町七番地紅葉館山田

幸三郎へ

拜復御手紙拜見致しました「草枕」を獨譯なされる事は始め「て」承知致しましたあんなものに興
味をもたれ御譯し下さるゝ段甚だ有難い仕合せです私の方から御禮を申上ります。然しあれは外國

語などへ翻譯する價值のないものであります現在の私はあれを四五頁つゞけて讀む勇氣がないの
です。始めから御相談があれば無論御斷り致す積でしたさういふ譯ですから雜誌はよろしう御座
います。單行本にして出版する事文はよして下さいまし 以上

八月九日

山田 幸三郎様

夏目金之助

一九二三

八月十一日 金 午後四時―五時 牛込區早稻田南町七番地より 小倉市高砂町二丁目小住方佐藤宗太郎へ
拜復 御手紙の趣承知致し候へども生憎其方面の人々と接觸の機なく遺憾思ひ通り迅速に運び
さうも無之候故別の方面より御運動可然かと存候猶便宜も有之候節は私よりも間接に誰かに依頼
可致候

先は右不取敢御返事迄 頓首

八月十一日

佐藤宗太郎様

夏目金之助

一九二四

八月十一日 金 午後四時―五時 牛込區早稻田南町七番地より 麴町區内山下町一丁目一番地東洋協會
内森次太郎へ

拜啓 昨日小閑を偷みかねて御依頼の素明畫伯の繪に贊を致し候不出來ながら御勘辨願上候御
急ぎにても有之間敷とは存じ候へども一寸御通知致置候間木曜の午後何時にても御入來被下候へ
ば御渡し可申候 頓首

八月十一日

夏目金之助

圓 月 様

一九二五

八月十四日 月 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 下關市觀音崎町永福寺鬼村元成へ

拜啓御無事で結構です私もどうか斯うか小説を書いてゐます。でんぶを有難う。中々うまいで
す。あなたはあんまり金はないでせうからあんな心配はせぬ方がよろしいと思ひます。私の家は
狭いのです。子供が六人ゐるのです。それで邸内にある小さな家を借りてそこを子供の勉強室に
してゐるのです。此前宅へ泊めて上げるといつたのは此小さな家の事です。夜は誰も寝ないから
泊れる事は泊れるだらうと思つてさう云つて上げたのです。愈貴方がたが來るとなつたら御知ら
せなさい。都合をよく考へて妻とも相談して見ますから。十月頃は小説も片づくかも知れませぬ、
さうすれば私もひまです。

あなたは久留米の梅林寺の猷禪^(家)さんを知りませんか。あの人は墨梅と書がうまいと聞きました。
書いて貰はうと思ふがツテがありませんので一寸伺ふのです。私などにも何か書いてくれ〜と
いふものがあります。私は面倒だから知らない人の其儘にして置きます。だから自分の方で人

に^原依むのも自然氣が引けるのです。富澤さんがいつか愚堂和尚の書をやると云つてきました私は
大變うれしがつてゐますが、そんなものを無暗に人にくれるのは勿體なくはないかと考へると甚
だ濟まん氣がするので此方からは何とも云つて上げません。富澤さんも其後國へ歸つたか歸らな
いか知りませんので其儘です。哲學の書物は送つて上げます。然し能く解るやうに書いたものが
あるかどうか其所は受合ひかねます。但し解らないから六づかしいと思つては不可せん。書き手
がへたで解らなくなる場合もありますから 以上

八月十四日

夏目金之助

鬼村元成様

一九二六

八月十四日 月 午後三時—四時 牛込區早稻田南町七番地より 神田區南神保町十六番地岩波茂雄へ

拜啓若い禪僧が下のやうな手紙をよこしました。「……近頃私は哲學を少し暇だからしらべて
見たいと思つてゐますが何分哲學のテの字も知りませんからどういふ本が手ほどきにいゝのか見
當がつきません。……何かいゝ本があつたら教へて頂きますまいか、そして哲學にはそれ〜派
があると思つてゐますが其中でどんなのがいゝでせうか御暇な時に一寸教へて下さい」
僕は此人に本を送つてやりたいのです。君が好いと思ふのを一二冊送つて下さい代價は後で拂
ひます。送り先は下關市觀音崎永福寺内鬼村元成です。 以上

八月十四日

夏目金之助

岩波茂雄様

一九二七

八月十八日 金 午後五時—六時 牛込區早稲田南町七番地より 福岡市外東公園久保頼江へ

拜啓御手紙を拜見しました御惠贈の烟草と葛素麵も正に頂戴しました御厚意を感謝致します私は埃及烟草を吞んで昔の事を思ひ出しましたそれは倫敦原にゐた時分の事です夫から滿洲と朝鮮をあるいた時分の事です。私は東京では貰はないと埃及烟草は滅多に吞みませんあまり贅澤だと思つて遠慮してゐるのです。偶に吞んでも倫敦などを思ひ出す事はありませんでした。

小供は大きくなりました長女は十八ですそろ／＼御嫁にやらなければなりません私が私のやうな交際の狭いものは斯ういふ時に困る丈です。然しまだ學校へ行つてゐると思つてまあよからうといふ積で呑氣に構へてゐます。夫でも此間口が一つ二つあつたには驚ろきました。あれでも此方から懇願しないで嫁に行けるかと考へると多少氣丈夫になりました。

娘三人は名古屋の親類へ行きました。其所の叔父に伊勢へ連れて行つてもらつたさうです。家内は残りの三人をつれて逗子に行きました此所にも家内の妹がゐるのですが是は旅屋原へ行つた様です。そこへ名古屋から娘が合併して都合七人で何かしてゐるのでせう。先刻電話がかゝつて今夜歸ると云つてきました。寫眞の事は歸つたらよく申します。あなたの寫眞も参りました。よく取れ過ぎてゐますまい。まああんなものでせう。背景に波がある所などは少々活動寫眞めいてゐます。私は一向寫眞をとりません。普通にとれるとみんながよすぎると申します。有の儘にと

れると私の方できたな過ぎると申したくなります。まあとらないでも生きてゐられるんだから構はないと思つてゐます。何れ妻からも御返事を上げるでせうが不取敢烟草の御禮を私から差上ます。御良人は歸省されたさうですね。もう御歸博になつた頃と存じます。どうぞよろしく。小説をほめて下さつて有難う。何だか馬鹿に長くなりさうで弱ります。然し此夏は大變凌ぎやすいので書くのに骨が折れないで仕合せです。 以上

八月十八日

夏目金之助

久保頼江様

一九二八

八月二十一日 月 午後四時—五時 牛込區早稲田南町七番地より 千葉縣一ノ宮町一ノ宮館久米正雄、

芥川龍之介へ

あなたがたから端書がきたから奮發して此手紙を上げます。僕は不相變「明暗」を午前中書いてゐます。心持は苦痛、快樂、器械的、此三つをかねてゐます。存外涼しいのが何より仕合せです。夫でも毎日百回近くもあんな事を書いてゐると大いに俗了された心持になりますので三四日前から午後の日課として漢詩を作ります。日に一つ位です。さうして七言律です。中々出来ません。厭になればすぐ已めるのだからいくつ出来るか分りません。あなた方の手紙を見たら石印云云とあつたので一つ作りたくなつてそれを七言絶句に纏めましたから夫を披露します。久米君は丸で興味がないかも知れませんが芥川君は詩を作るといふ話だからこゝへ書きます。

尋仙未向碧山行。住在人間足道情。明暗雙雙三萬字。撫摩石印自由成。

(句讀をつけたのは字くばりが不味かつたからです。明暗雙々といふのは禪家で用ひる熟字であります。三萬字は好加減です。原稿紙で勘定すると新聞一回分が一千八百字位あります。だから百回に見積ると十八萬字になります。然し明暗雙々十八萬字では字が多くつて平仄が差支へるので致し方がありません故三萬字で御免を蒙りました。結句に自由成とあるは少々手前味噌めきますが、是も自然の成行上已を得ないと思つて下さい)

一の宮といふ所に志田といふ博士がゐます。山を安く買つてそこに住んでゐます。景色の好い所ですが、どうせ隠遁するならあの位ちや不充分です。もつと景色がよくなけりや田舎へ引込む甲斐はありません。

勉強をしますか。何か書きますか。君方は新時代の作家になる積でせう。僕も其積であなた方の將來を見てゐます。どうぞ偉くなつて下さい。然し無暗にあせつては不可ません。たゞ牛のやうに圖々しく進んで行くのが大事です。文壇にもつと心持の好い愉快な空氣を輸入したいと思います。それから無暗にカタカナに平伏する癖をやめさせてやりたいと思ひます。是は兩君とも御同感だらうと思ひます。

今日からつく／＼法師が鳴き出しました。もう秋が近づいて來たのでせう。

私はこんな長い手紙をたゞ書くのです。永い日が何時迄もつゞいて何うしても日が暮れないといふ證據に書くのです。さういふ心持の中に入つてゐる自分を君等に紹介する爲に書くのです。夫からさういふ心持でゐる事を自分で味つて見るために書くのです。日は長いのです。四方は蟬

の聲で埋つてゐます。以上

八月二十一日

夏目金之助

久米正雄様

芥川龍之介様

一九二九

八月二十四日 木 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 赤坂區新坂町八十二番地三宅安へ

〔はがき〕

今日ハ暑イデスネ。原稿ハ二ツトモ御返シ致します。評は(一)の仕舞ニ書イテアリマス。アナタの脚氣は何うです。妊娠中ダカラ可成注意ナサイ。私ハ腹ガ下リマス

一九三〇

八月二十四日 木 午後五時—六時 牛込區早稻田南町七番地より 府下北品川御殿山七百十八番地中村

翁へ

拜啓此間御來書の時は東北地方へ御旅行とあつた故返事を出しませんでした。それから僕の小説の後は正宗白鳥君と略極つてゐるので君の原稿をいそいで讀んでも仕方がないと思つて其儘にして置きました。然し君は何度でも書き直すといふ決心だから早く讀まないと思ひも考へ直して今日の午後眼を通しました。